

沖縄県南城市

サキタリ洞遺跡発掘調査概要報告書IV
Excavation Report of the Sakitari-do Cave Site, Okinawa



2017年3月

沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

沖縄県南城市

サキタリ洞遺跡発掘調査概要報告書Ⅳ

Excavation Report of the Sakitari-do Cave Site, Okinawa

2017

沖縄県立博物館・美術館

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

序 文

沖縄県は、県土を更新世の隆起サンゴ礁からなる琉球石灰岩に広く覆われ、各地の洞穴や裂罅^{れっか}からは保存の良い動物化石が多く発見されることから、古生物学や古人類学の分野では国内有数の重要なフィールドとして注目されてきました。中でも、1970年に那覇市の実業家、大山盛保氏^{せいほ}（故人）によって発見された港川人は、アジアにおける旧石器人の姿を伝える貴重な人類化石として、世界的にも注目されております。

沖縄県立博物館・美術館では、平成 19 年度より、新たな人骨化石や旧石器の発見をめざして、沖縄島南部において継続的な発掘調査を実施してまいりました。本書では、平成 21～27 年度にかけて、7 カ年 7 次にわたって発掘調査を実施いたしました南城市サキタリ洞遺跡の調査成果の概要を報告いたします。サキタリ洞遺跡では、これまでの発掘調査・研究によって、約 2 万 3 千年前にさかのぼる世界最古の貝製釣針や、約 2 万年前の貝器と人骨、約 1 万 4 千年前の石器と人骨、約 9 千年前の押しきもん^{おしきもん}など、新たな発見が相次いでおり、沖縄だけでなく日本列島の人類史を考える上で大変重要な手がかりが得られております。本書を通して、調査研究の成果を多くの方々に活用いただけるよう願っております。

このたびの調査、報告に格別の御協力を賜りました国立科学博物館、東京大学総合研究博物館、南城市教育委員会、営業所内の洞穴調査を快諾していただきました株式会社南都大城宗直社長をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。

また、今回の成果は、長年にわたってサキタリ洞現地の保全、管理に尽力して来られた株式会社南都大城宗憲会長の御功績なしにはあり得ませんでした。ここに改めて、多年にわたる御尽力に深く敬意を表します。

平成 29 年 3 月 10 日

沖縄県立博物館・美術館

館長 田名 真之

目次

例言	3
I サキタリ洞遺跡（調査区 I）出土貝類目録・写真図版	4
1 概要	5
2 凡例	8
3 目録	9
4 写真図版	12
II 分析考察編	95
沖縄県南城市サキタリ洞遺跡出土の大型植物遺体（予報）	95
はじめに	95
1. 試料	95
2. 分析方法	95
3. 結果	95
4. 考察	97
引用文献	97

例言

- 1 本書は沖縄県南城市玉城大字前川字浮花原 202 番地ほかに所在するサキタリ洞遺跡（ガンガラーの谷内）の発掘調査概要報告書である。
- 2 発掘調査は、沖縄県立博物館・美術館が調査主体となって実施した。2012（平成 24）年度からは、沖縄振興特別推進交付金事業「沖縄遺産のブランド開発・発信事業」の一環として発掘調査・研究を実施した。
- 3 調査期間は以下の通りである。
 - 【試掘調査】
 - 第 1 次：2009（平成 21）年 11 月 22 日～同年 11 月 30 日 調査区 I 試掘区の発掘
 - 第 2 次：2010（平成 22）年 5 月 18 日～同年 5 月 28 日 調査区 I・II 試掘区の発掘
 - 第 3 次：2011（平成 23）年 7 月 26 日～同年 8 月 10 日 調査区 I・II の発掘（範囲拡張）
 - 【本調査】
 - 第 4 次：2012（平成 24）年 8 月 2 日～2013（平成 25）年 3 月 22 日 調査区 I・II・III の発掘
 - 第 5 次：2013（平成 25）年 9 月 3 日～2014（平成 26）年 2 月 28 日 調査区 I・II の発掘
 - 第 6 次：2014（平成 26）年 9 月 9 日～2015（平成 27）年 2 月 18 日 調査区 I・II の発掘
 - 第 7 次：2015（平成 27）年 9 月 1 日～2016（平成 28）年 2 月 29 日 調査区 I・II の発掘
- 4 調査後の整理作業・報告書作成は、沖縄県立博物館・美術館が関係各位の協力を得て実施した。
- 5 本書の執筆、編集は上原沙也加の協力を得て山崎真治が行った。本書で使用する写真は山崎真治が撮影した。また、自然科学的分析（大型植物遺体）についてパリノ・サーヴェイ株式会社より寄稿いただき、分析考察編として収録した。
- 6 貝類の同定は黒住耐二（千葉県立中央博物館）が行った。
- 7 本報告に係る出土遺物および写真、図面等は、沖縄県立博物館・美術館において保管している。

I サキタリ洞遺跡（調査区 I）

出土貝類目録・写真図版

1 概 要	5
2 凡 例	8
3 目 録	9
4 写真図版	12

1 概要

サキタリ洞遺跡は、沖縄県南城市玉城字前川浮花原 202 他に所在する石灰岩洞穴内に形成された遺跡である。遺跡は、沖縄島南海岸に流出する雄樋川^{ゆうひがわ}の左岸に位置し、標高は約 40m、河口までの距離は約 2km をはかる。洞穴の総面積は約 620 m²で、2009 年より沖縄県立博物館・美術館による発掘調査が開始され、洞内外の 3 箇所（調査区 I、調査区 II、調査区 III）で発掘調査が実施されている。特に調査区 I では、これまでの調査によって多量の陸産貝（カタツムリ）や淡水貝（カワニナ）、甲殻類（カニの鉗脚）とともに、約 3 万～1 万年前にさかのぼる貝器や石器、人骨が検出されており、沖縄における後期旧石器時代から縄文時代にかけての人類文化を解明する上で、貴重な手掛かりとなる資料が得られている。

本編は、沖縄県南城市サキタリ洞遺跡（調査区 I）の FS 層、I 層、II 層、III 層より出土した旧石器時代の貝器類を含む貝類（海産、汽水産）の目録及び写真図版である。サキタリ洞遺跡の発掘調査は現在進行中であるため、本目録も暫定的なものであるが、現段階の標本の収蔵状況ならびにコンテクストを公開し、今後の調査研究について便宜をはかることを目的として刊行するものである。なお、発掘調査の詳細についてはこれまでに以下の文献が刊行されており、調査の詳細についてはこれらの文献を参照されたい。表 1 には調査区 I の層序、図 1 には貝類の出土状況（ドットマップ）を示す。

【サキタリ洞遺跡の調査成果に関する文献一覧】

- 沖縄県立博物館・美術館 2014 『沖縄県南城市サキタリ洞遺跡発掘調査概要報告 I』
沖縄県立博物館・美術館 2015 『沖縄県南城市サキタリ洞遺跡発掘調査概要報告 II』
沖縄県立博物館・美術館 2016 『沖縄県南城市サキタリ洞遺跡発掘調査概要報告 III』
山崎真治・藤田祐樹・片桐千亜紀・國木田 大・松浦秀治・諏訪 元・大城逸朗 2012 「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査（2009 ～ 2011 年）－沖縄諸島における新たな更新世人類遺跡－」
『Anthropological Science (Japanese Series)』120 : 121-134 頁
山崎真治・西秋良宏・赤嶺信哉・片桐千亜紀・仲里健・大城逸朗 2012 「サキタリ洞の後期更新世堆積層中より出土した石英標本に関する考古学的研究」 『日本考古学』34 : 71-85 頁
山崎真治・横尾昌樹・伊藤 圭・國木田 大・新里尚美 2013 「沖縄先史土器の起源と南下仮説」
『九州旧石器』17 : 283-295 頁
山崎真治・藤田祐樹・片桐千亜紀・黒住耐二・海部陽介 2014 「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡出土の後期更新世の海産貝類と人類との関わり」 『Anthropological Science (Japanese Series)』122 : 9-27 頁
山崎真治・黒住耐二・佐野勝宏・片桐千亜紀・藤田祐樹 2015 「旧石器時代の貝製ビーズ－沖縄県南城市サキタリ洞遺跡からの報告」 『旧石器研究』11 : 97-105 頁
Fujita, M., Yamasaki, S., Katagiri, C., Oshiro, I., Sano, K., Kurozumi, T., Sugawara, H., Kunikita, D., Matsuzaki, H., Kano, A., Okumura, T., Sone, T., Fujita, H., Kobayashi, S., Naruse, T., Kondo, M., Matsu'ura, S., Suwa, G., and Kaifu, Y. (2016) Advanced maritime adaptation in the western Pacific coastal region extends back to 35,000–30,000 years before present. PNAS 113: 11184-11189.

表1 調査区Iの層序

層名	色調	記載	動物遺骸	年代 (暦年)
表土	黒色粘質土	ガラス瓶や茶碗等の現代遺物とともに縄文土器、獣骨、貝類、カニ（鉗脚）、カタツムリ等を含む。		
FS層	フローストーン (縄文時代の遺物包含層)	石灰分によって固結したフローストーンの層。固結部と未固結部が互層になる部分も認められる。 フローストーン中には、土器片や海産貝、獣骨、石器、人骨、カタツムリなどが含まれている。		11000～ 3000年前
I層	褐色粘質土 (10YR4/4)	シルト質粘土。粘性中、しまり中、砂粒含む。炭化物、カニ（鉗脚）、カタツムリ、カワニナ含む。 第I層上部からは人骨（歯、手根骨）や獣骨とともに、非現地性の海産貝類（巻貝製ビーズを含む）、石英製石器3点、石英製チップが出土した。	◎陸産貝 ○淡水産貝 ○カニ（鉗脚） +イノシシ +海産貝 +ヒト	16000～ 14000年前
II層	炭化物層	上下の土層に比べて炭化物を多く含み、黒色を呈する。 カニの爪（鉗脚）、カタツムリ、カワニナを非常に多く含む。非現地性の海産貝類がまとまって出土した。 J19・20区南壁では第II層は上部（II-1層）、下部（II-2層）に区分でき、II-1層はさらに炭化物の密度によってII-1A、II-1B、II-1C層に区分できる。	◎陸産貝 ◎淡水産貝 ◎カニ（鉗脚） +海産貝	23000～ 20000年前
II-1A層	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)	シルト質粘土。粘性中、しまりやや強い。炭化物を多く含みやや暗い色調である。上位のI層との境界は漸移的である。	同上 +イノシシ	
II-1B層	暗褐色粘質土 (10YR3/3)	シルト質粘土。粘性中、しまりやや強い。炭化物を非常に多く含み暗い色調である。	同上	20000年前
II-1C層	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)	シルト質粘土。砂粒含む。粘性中、しまり中。人骨（歯、足根骨）が出土した。	同上 +ヒト	22000～ 21000年前
II-2層	にぶい黄褐色粘質土 (10YR4/3)	シルト質粘土。砂粒含む。粘性中、しまり弱。炭化物、カワニナ、カニ（鉗脚）、カタツムリを非常に多く含む。下位のIII層との境界は明瞭で、非整合（小規模な不整合）の可能性がある。	同上	23000年前
III層	褐色粘質土 (10YR4/4)	粘性中、しまり弱。炭化物、カニ（鉗脚）、カタツムリ、カワニナ含む。I層に比較してやや赤みを帯びている。	◎陸産貝 ○淡水産貝 ○カニ（鉗脚） +ヒト +シカ	37000～ 23000年前

※動物遺骸の出現頻度は「◎多い、○含まれる、+希少」を示す。

※各層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖2007年版」に基づく。

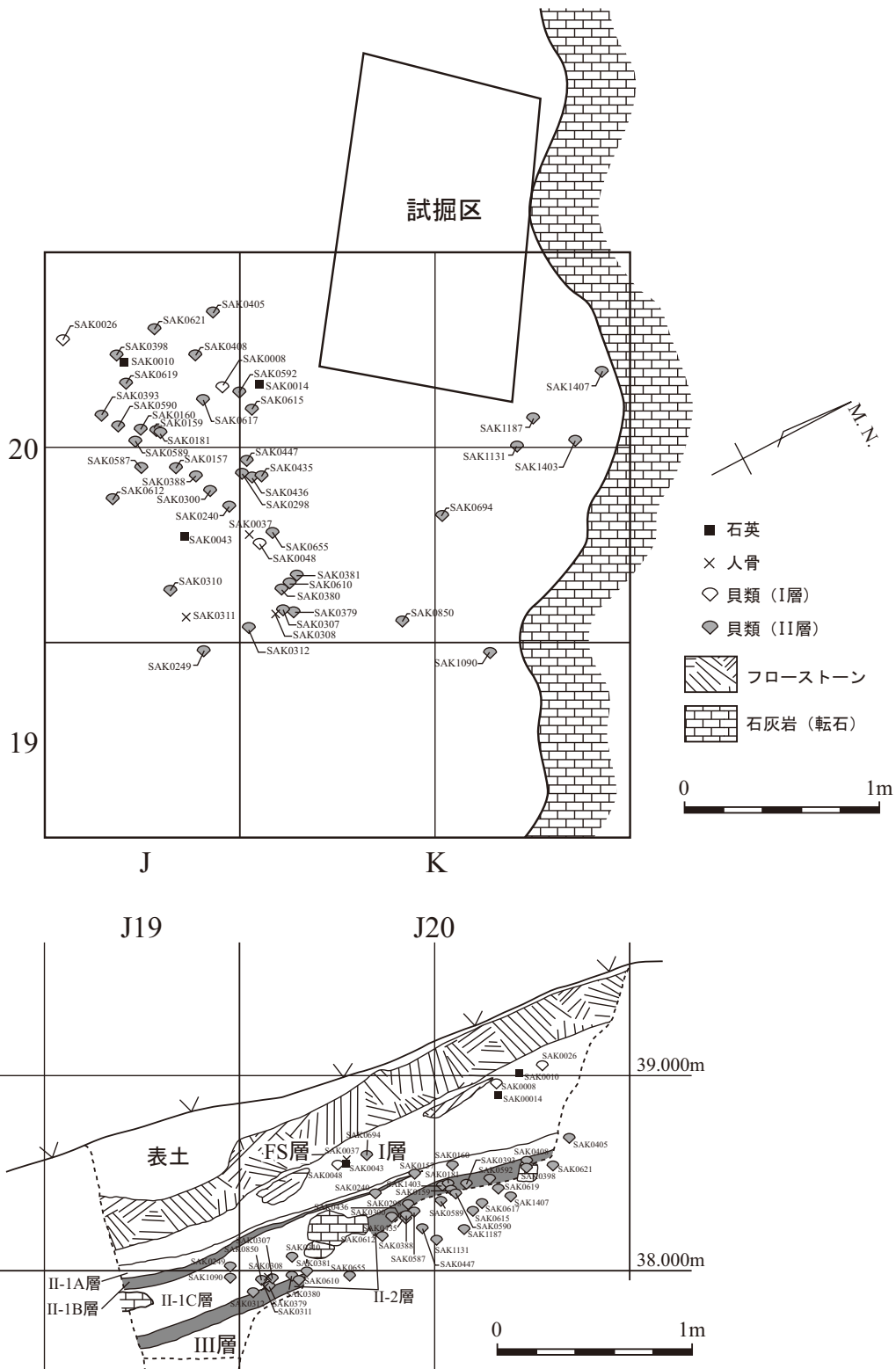


図1 調査区Iにおける貝類の出土状況（ドットマップ）

2 凡例

1 本編は、沖縄県南城市サキタリ洞遺跡（調査区 I）の FS 層、I 層、II 層、III 層より出土した旧石器時代の貝器類を含む貝類（海産、汽水産）の暫定的な目録および写真図版である。

2 本目録に収録された標本（海産・汽水産貝類）は、第 2 次（2010 年・平成 22 年）から第 6 次（2014 年・平成 26 年）までの調査によって得られたものである。

3 目録各項目の説明

A 番号：標本番号（暫定的なもので、今後変更されることがありうる）

B 遺物名：「SAK●●●（三桁の数字）」の表記のあるものは、取り上げ時の遺物番号（原位置を確認し三次元座標を記録したもの）。「ID」、「No.」、「土」等の表記のあるものはフローテーション（水洗選別）によって回収されたもの。空欄のものはピックアップ法によって回収されたもの。

C 出土区：「I」は調査区 I を示し、さらに詳細な平面的位置の情報があるものは「-」に続けて記載する。

D 層位：出土層位を記載する。

E 日付：出土した日付を記載する。

F 遺存状況：遺存状況を記載する。

G 分類：分類（二枚貝・巻貝・不明等）を記入する。

H 部位：部位を記載する。

I 貝種：貝種を記載する。貝類の同定は黒住耐二（千葉県立中央博物館）が担当した。年代測定実施試料はこの欄に測定番号を記入する。

4 写真は各資料につき 2 枚（表・裏）を基本として掲載した。写真撮影は山崎真治が行い、写真編集作業は上原沙也加が担当した。

3 目録

表2に出土した貝類の組成表、表3に目録を示す。

表2 調査区I出土の貝類（海産・汽水産）組成表

番号	層 位								合計	
	FS	FS または I	I	II-1	II-2	II	II (再堆積)	III		
番号	001-	019-020	101-	201-	301-	401-	501-	601-		
二 枚 貝	ウグイスガイ目	1	1		1				3	
	クジャクガイ					3			3	
	オキシジミ類							1	1	
	シマワスレ						3	2	5	
	シレナシジミ	2							2	
	ハイガイ	6							6	
	ホソソジイナミ			1					1	
	マルスダレガイ科			2	18	17	1	3	3	44
	リュウキュウマスオ	1		1						2
	二枚貝不明			4	3	3		1		11
ヒザラガイ類				2				1	3	
ツノガイ類					2			1	3	
貝 種	イシダタミ オキナワイシダタミ			2					2	
	イボアナゴ	1							1	
	イモガイ類			1			1		2	
	リュウキュウオトメガサ							1	1	
	カサガイ類	1							1	
	カノコガイ	1							1	
	カンギク	1		3					4	
	キバアマガイ			1					1	
	クマノコガイ	1							1	
	クモガイ	1							1	
	チグサガイ類						1		1	
	トコブシ (ナガラメ型)			1			3		2	6
	サザエ類		1							1
	ニシキウズ科	1		2	2	3	1	1		10
	マツムシ			2						2
巻貝不明					1				1	
不 明	3					2			5	
合 計	20	2	20	26	35	6	11	5	125	

※マルスダレガイ科にはマツヤマワスレと考えられるものを含む。

※ニシキウズ科にはギンタカハマと考えられるものを含む。

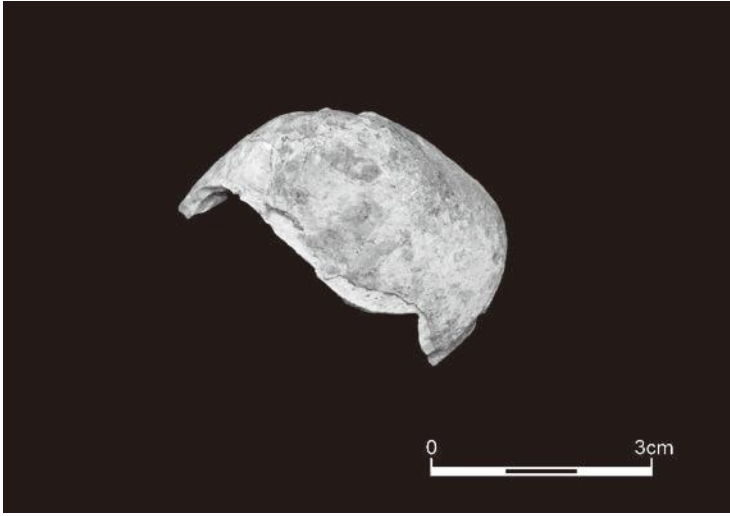
表3 調査区I出土の貝類(海産・汽水産)目録(1)

番号	遺物名	出土区	層位	日付	遺存状	分類	部位	貝種
001		I-JK19	FS	20110731	半存	二枚貝	蝶番あり	シレナシジミ
002		I-JK19	FS	20110731	破片	巻貝		クモガイ
003		I-JK19	FS	20110731	破片	巻貝		ニシキウズ科
004		I-JK19	FS	20110731	破片	二枚貝		ウグイスガイ目(シュモクアオリ?)
005		I-JK19	FS	20110731	破片	不明		不明
006		I	FS岩石破砕時	20121012	破片	不明		不明
007		I	FS上部	20110730	完形	巻貝	殻頂あり	カノコガイ
008		I	FS除去時	20110729	破片	巻貝	軸部あり	クマノコガイ
009	ID27	I	FS除去時	20110729	破片	不明		不明
010		I	FS上部	20110730	略完形	二枚貝	蝶番あり	リュウキュウマスオ
011		I	FS上部	20110730	完形	二枚貝	蝶番あり	ハイガイ(セイタカハイガイ型)
012		I	FS上部	20110730	完形	二枚貝	蝶番あり	ハイガイ(セイタカハイガイ型)
013		I	FS上部	20110730	完形	二枚貝	蝶番あり	ハイガイ(セイタカハイガイ型)
014	ID29	I	FS	20110801	完形	巻貝	殻頂あり	カンギク
015		I	FS上部	20110730	完形	巻貝	殻頂あり	イボアナゴ
016		I-JK19	FS	20110801	半存	巻貝	殻頂あり	カサガイ類
017	SAK006	I	FS上部	20110729	完形	二枚貝	蝶番あり	ハイガイ(セイタカハイガイ型)(PLD-23299)
018		I	FS下部	20110730	略完形	二枚貝	蝶番あり	シレナシジミ(MTC-16904)
019	SAK067	I	FSorI	20110802	破片	巻貝		サザエ類
020	SAK086	I	FSorI	20110803	破片	二枚貝?		ウグイスガイ目
021		I	FS上部			二枚貝		ハイガイ(MTC-16901)
022		I	FS上部			二枚貝		ハイガイ(MTC-16903)
101	SAK008	I	I	20110730	完形	巻貝	殻頂あり	トコブシ(ナガラメ型)
102	SAK026	I	I	20110801	破片	巻貝	底部	ニシキウズ科
103	SAK048	I	I	20110801	半存	二枚貝	蝶番あり	マルスダレガイ科(PLD-19424)
104	No. 430HF	I-JK20	I		完形	巻貝	殻頂あり	マツムシ
105		I-JK20	I	20110731	完形	巻貝	殻頂あり	オキナワイシダタミ
106		I-JK20	I	20110731	破片	二枚貝		マルスダレガイ科
107		I-JK19	I	20110731	完形	巻貝	殻頂あり	カンギク
108		I-JK19	I	20110731	完形	巻貝	殻頂あり	カンギク
109	土075	I-JK19	I		完形	巻貝	殻頂あり	イシダタミ
110		I-JK19	I	20110802	破片	二枚貝		二枚貝
111		I-JK20	I	20110730	略完形	二枚貝	蝶番あり	リュウキュウマスオ
112		I-JK20	I	20110803	完形	巻貝	殻頂あり	マツムシ
113	土362HF	I-JK19	I		破片	二枚貝		二枚貝
114	土362HF	I-JK19	I		破片	巻貝	殻口片	カンギク
115	199HF	I-JK19	I		破片	巻貝	体層片	ニシキウズ科(ギンタカハマ)
116	199HF	I-JK19	I		破片	二枚貝		二枚貝
117	ID342	I-TP東ベルト	I	20131002	破片	二枚貝	腹縁	二枚貝
118	ID580	I-TP東ベルト	I	20130927	破片	巻貝	軸部あり	イモガイ類
119	ID345	I-TP東ベルト	I	20131004	略完形	二枚貝	蝶番あり	ホソスジイナミ
120	ID342	I-TP東ベルト	I	20131002	破片	巻貝	殻口部	キバアマガイ
201	SAK159	I-JK20	II-1	20110809	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
202	SAK160	I-JK20	II-1	20110809	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
203	土039HF	I-JK19	II-1C		破片	巻貝		ニシキウズ科
204	ID59	I-JK20	II-1C	20110803	殻板	多板綱		ヒザラガイ類
205	ID68	I-JK19	II-1C	20120802	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
206	ID360		II-1C	20130905	破片	二枚貝		ウグイスガイ目
207	SAK249	I	II-1A(A層)	20120809	破片	二枚貝	蝶番一部 残る	マルスダレガイ科
208		I-JK20	II-1	20110809	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
209		I-JK20	II-1	20110809	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
210		I-JK20	II-1	20110809	破片	二枚貝		マルスダレガイ科
211		I-JK20	II-1	20110809	破片	二枚貝		マルスダレガイ科
212		I-JK20	II-1	20110809	破片	巻貝	体層片	ニシキウズ科(ギンタカハマ)
213	SAK307	I	II-1C	20120822	破片	二枚貝?		二枚貝
214	SAK157	I-JK20	II-1	20110809	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
215	SAK312	I	II-1C	20120824	破片	二枚貝		マルスダレガイ科
216	ID358	I	II-1C上面清 掃時	20130903	破片	二枚貝		マルスダレガイ科
217	ID358	I	II-1C上面清 掃時	20130903	破片	二枚貝		マルスダレガイ科
218	ID358	I	II-1C上面清 掃時	20130903	破片	二枚貝		マルスダレガイ科
219	ID67	I-JK20	II-1B	20120816	破片	二枚貝		マルスダレガイ科
220	SAK181	I-JK20	II-1	20110810	破片	二枚貝	蝶番部	マルスダレガイ科
221	No. 100- 3, 4, 5HF	I-JK19	II-1C(深掘C 層)	2012	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
222	土033	I	II-1A(深掘A 層)		殻板	多板綱		ヒザラガイ類

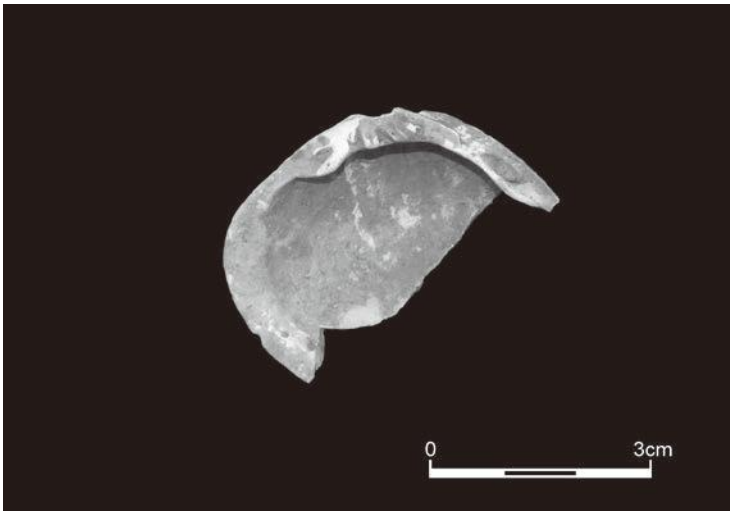
表3 (続き) 調査区I出土の貝類(海産・汽水産)目録(2)

番号	遺物名	出土区	層位	日付	遺存状況	分類	部位	貝種
223	ID74	I	II-1Cと思われる清掃土中	2012	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
224	SAK310	I	II-1C	20120822	破片	二枚貝		二枚貝
225	027HF	I-JK19	II-1B(深掘B層)		破片	二枚貝		マルスダレガイ科
226	No.127-1HF	I-JK20	II-1C		破片	二枚貝		二枚貝
301	SAK405	I	II-2	20120904	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
302	SAK398	I	II-2	20120904	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
303		I-JK20ベルト	II-2 5-10cm	20121012	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
304	SAK388	I	II-2	20120904	破片	巻貝	腹縁	トコブシ(ナガラメ型)
305		I-JK20	II-2上面	20120824	破片	二枚貝	背縁	マルスダレガイ科
306	ID109	I-JK19	II-2	20121003	破片	二枚貝		マルスダレガイ科
307	SAK447	I-SX9	II-2	20120912	破片			不明
308	SAK615	I	II-2	20121003	破片	巻貝	殻頂付	トコブシ(ナガラメ型)
309	SAK436	I-SX9	II-2	20120911	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
310	SAK393	I	II-2	20120904	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
311		I	II-2	20120926	破片	巻貝		ニシキウズ科
312	ID128	I	II-2(D層)	20120814	破片	二枚貝	腹縁	二枚貝
313	SAK621	I	II-2	20121003	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
314	SAK298	I	II-2上面	20120822	破片	不明		不明
315	SAK694	I	II-2	20130206	破片	巻貝	軸・底面	ニシキウズ科(ウズイチモンジ)
316	No.54HF	I	II-2上面		破片	ツノガイ		ツノガイ類(ニシキツノガイ)
317	SAK619	I	II-2	20121003	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
318	SAK240	I	II-2上面	20120803	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
319	SAK408	I	II-2	20120904	破片	二枚貝		マルスダレガイ科
320	SAK592	I	II-2	20120919	破片	巻貝?		巻貝
321	SAK612	I	II-2	20121003	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
322	SAK380	I	II-2	20120904	破片	二枚貝	背縁	マルスダレガイ科
323	SAK435	I-SX9	II-2	20120911	破片	二枚貝		マルスダレガイ科
324		I-JK20	II-2	20120926	破片	二枚貝	蝶番部あ	マルスダレガイ科
325	SAK587	I	II-2	20120919	破片	二枚貝	蝶番部あ	マルスダレガイ科
326		I-JK20	II-2	20120926	破片	二枚貝		二枚貝
327	SAK379	I	II-2	20120904	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
328	SAK617	I	II-2	20121003	破片	巻貝	腹縁	トコブシ(ナガラメ型)
329		I	II-2(深掘D層)	20120814	破片	ツノガイ		ツノガイ類(ヤカドミズイロツノガイ類似種)
330	SAK381	I	II-2	20120904	破片	二枚貝		二枚貝
331	SAK610	I	II-2	20121003	破片	二枚貝	腹縁	クジャクガイ
332	SAK590	I	II-2	20120919	略完形	二枚貝	殻頂あり	クジャクガイ
333	SAK589	I	II-2	20120919	略完形	二枚貝	殻頂あり	クジャクガイ
334	ID90	I-SX7	II-2	20120911	完形	巻貝	殻頂あり	チグサガイ類
335	SAK300	I	II-2上面		破片	巻貝		ニシキウズ科
401		I	II	20100518	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
402	No.64-1・2HF	I	清掃I-II-1B混合	深掘区壁面	破片	巻貝		ニシキウズ科
403	ID62	I	岩石破碎時岩石下II-1~II-2層	20121009	半存	二枚貝	蝶番部あり	シマワスレ
404	148HF	I	南側サブトレ		略完形	二枚貝	蝶番部欠	シマワスレ
405	93HF	I	破碎岩下(吸込穴あり)II-1B~II-2		半存	二枚貝	蝶番部あり	シマワスレ
406		I	II	20100518	破片	巻貝		イモガイ類
501	SAK1090	I-北半	II-2	2013	破片	二枚貝	蝶番部一部あり	オキシジミ類
502	ID349	I-TP東ベルト	II	20131010	半存	二枚貝	蝶番部あり	マルスダレガイ科
503	SAK1131	I-北半	II(IIIへの落ち込み)	20140919	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
504	SAK1187	I-北半B	II	20141009	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
505	ID366	I-北東カド	II-2再堆積	20130904	破片	二枚貝		二枚貝
506	SAK1403	I-北半	II	2014	略完形	二枚貝	蝶番部あ	シマワスレ
507	SAK1407	I-北半	II	2014	破片	ツノガイ		ヤカドツノガイ類
508	ID366	I-北東カド	II-2再堆積	20130904	略完形	二枚貝	蝶番部あ	シマワスレ
509	ID349	I-TP東ベルト	II	20131010	完形	巻貝		リュウキウオトメガサ
510	SAK850	I-K19壁際	II-2再堆積	20130917	破片	巻貝	底部	ニシキウズ科
511	ID573	I-TP東ベルト	II-2	20131003	中間板	多板綱		ヒザラガイ類
601	SAK1129	I-中央岩下	III最上面	20140919	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
602	SAK1085	I	III-0-10cm	2013	破片	二枚貝	腹縁	マルスダレガイ科
603		I	III上面	20100519	破片	巻貝		トコブシ(ナガラメ型)
604	SAK655	I	III上面	20121009	破片	二枚貝	蝶番部	マルスダレガイ科
605		I	III	20100518	破片	巻貝	縁辺部	トコブシ(ナガラメ型)

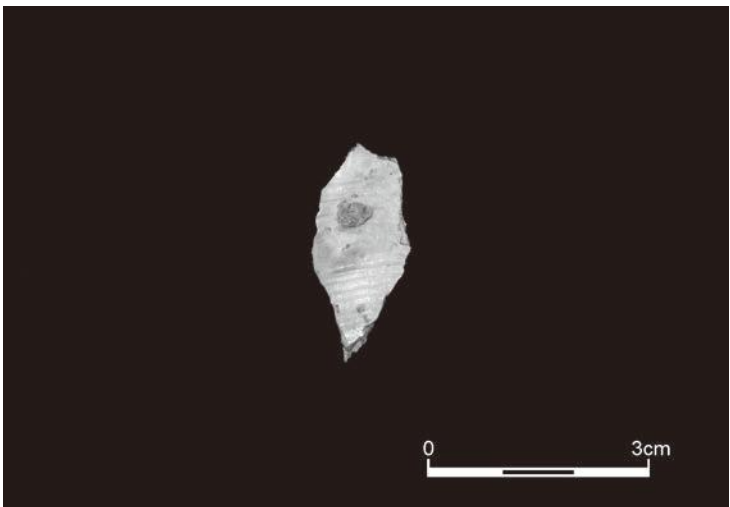
4 写真図版



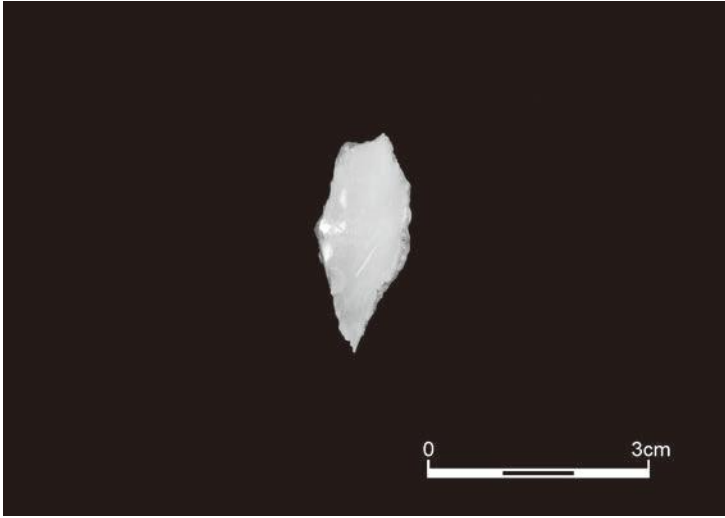
0001-1



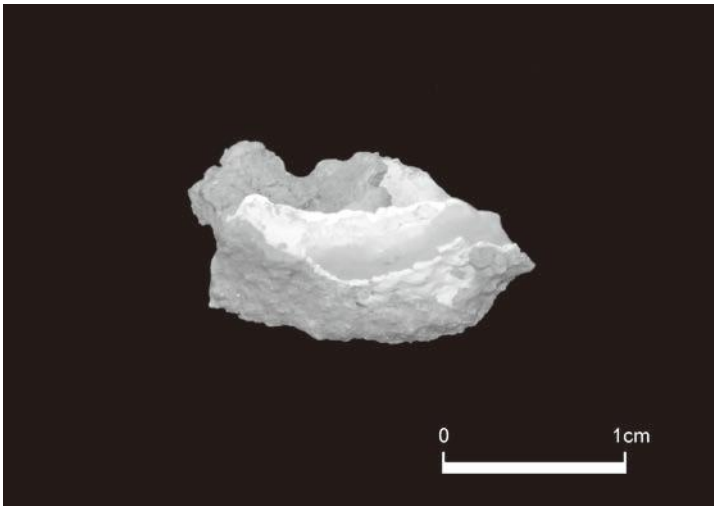
0001-2



0002-1



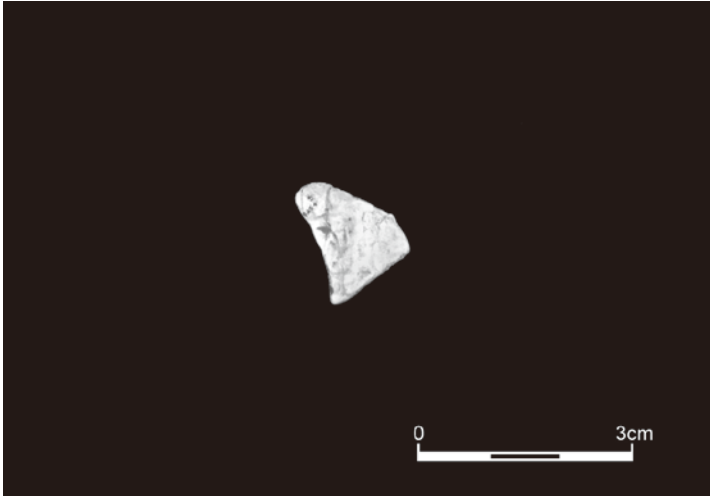
0002-2



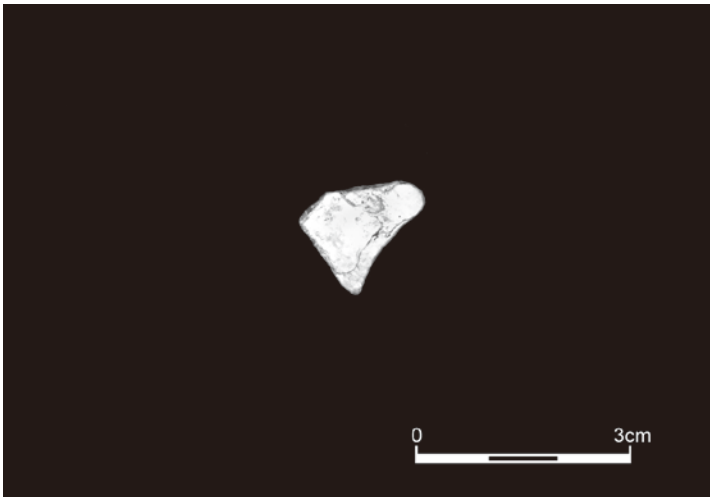
0003-1



0003-2



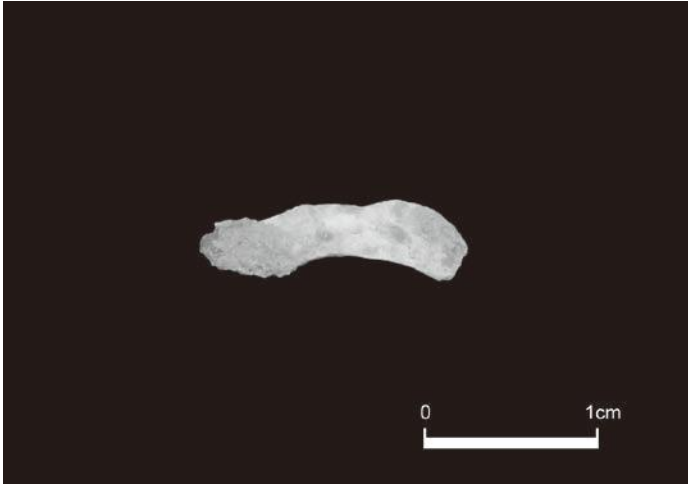
0004-1



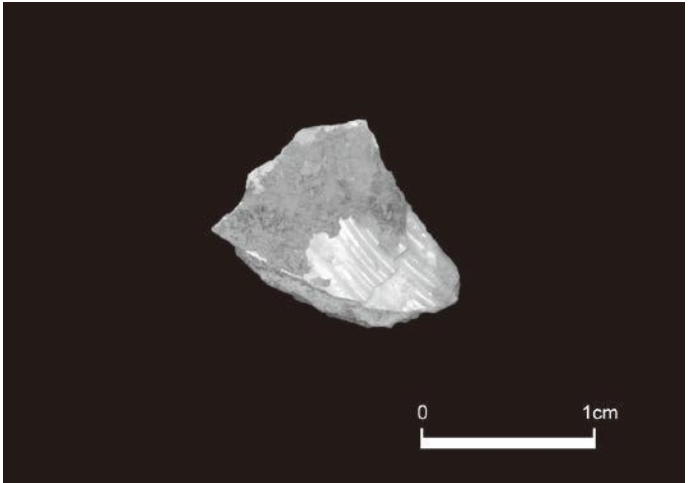
0004-2



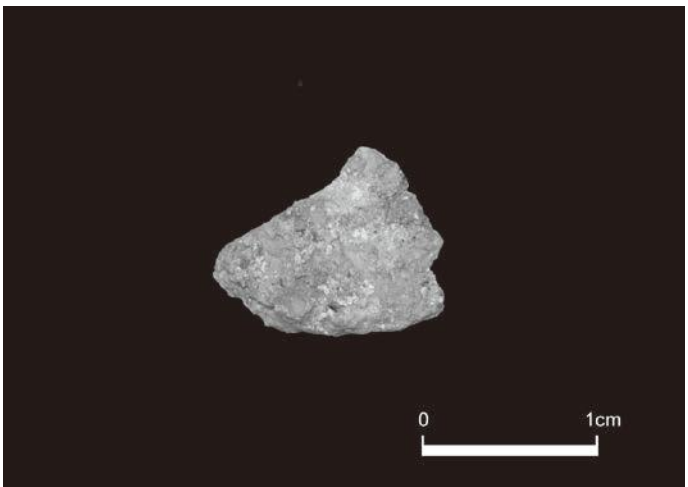
0005-1



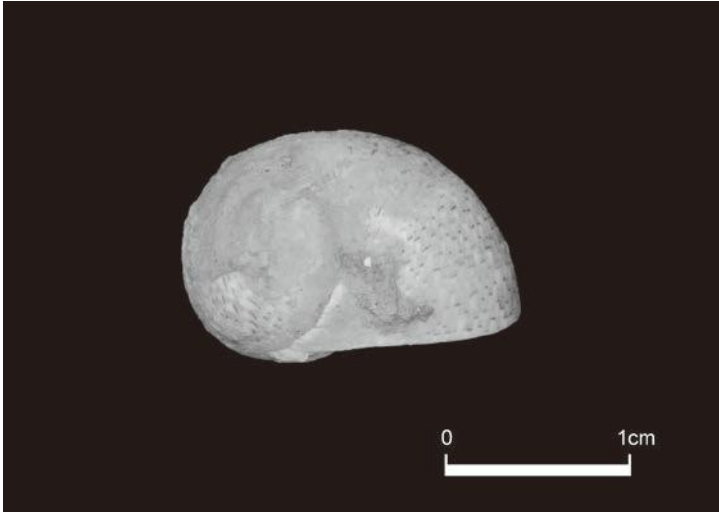
0005-2



0006-1



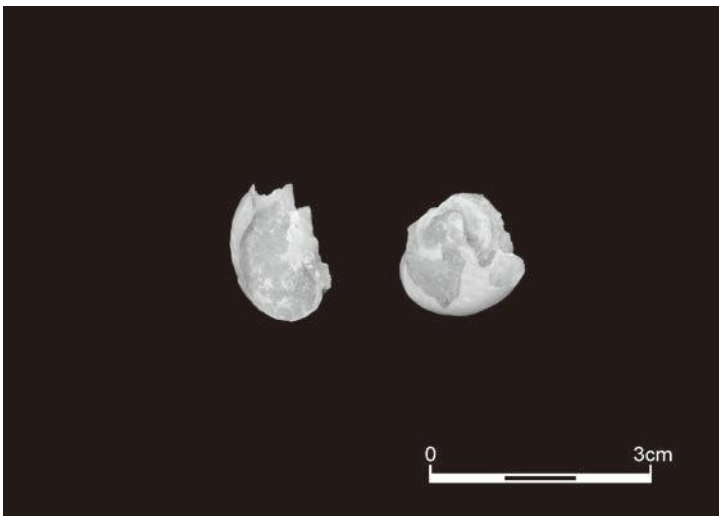
0006-2



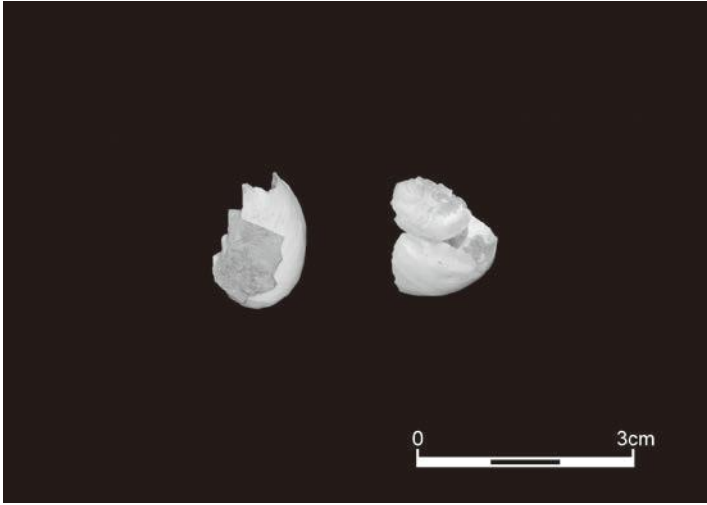
0007-1



0007-2



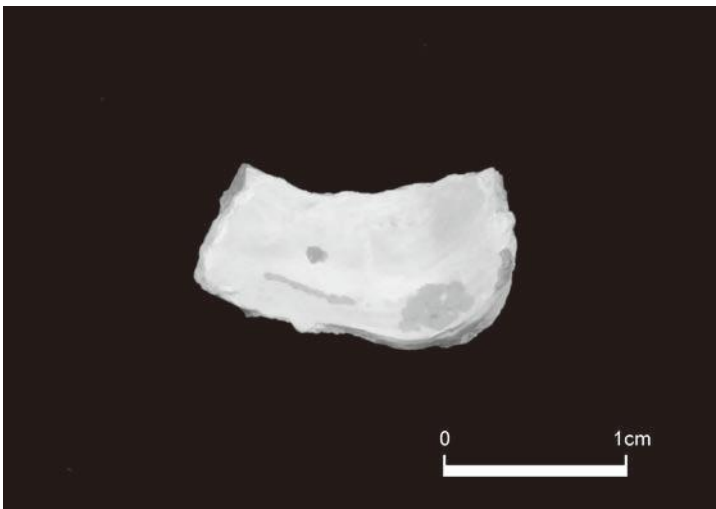
0008-1



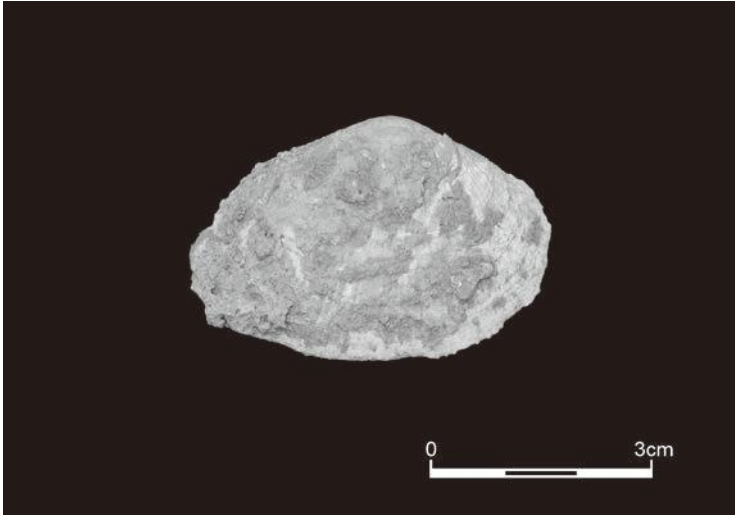
0008-2



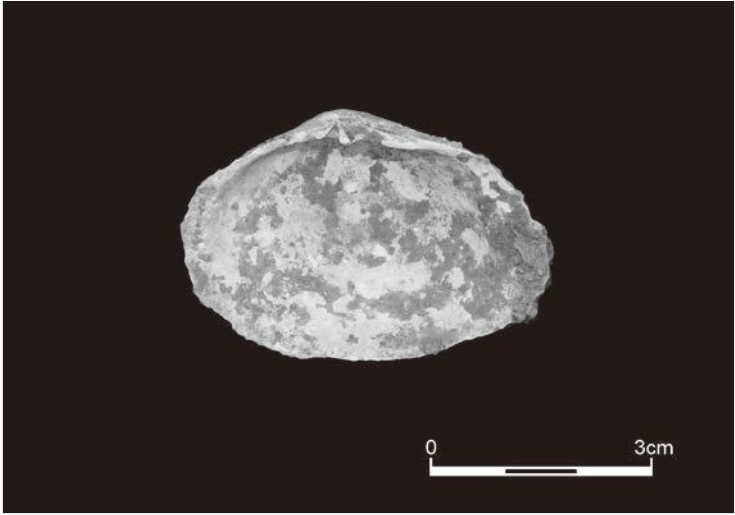
0009-1



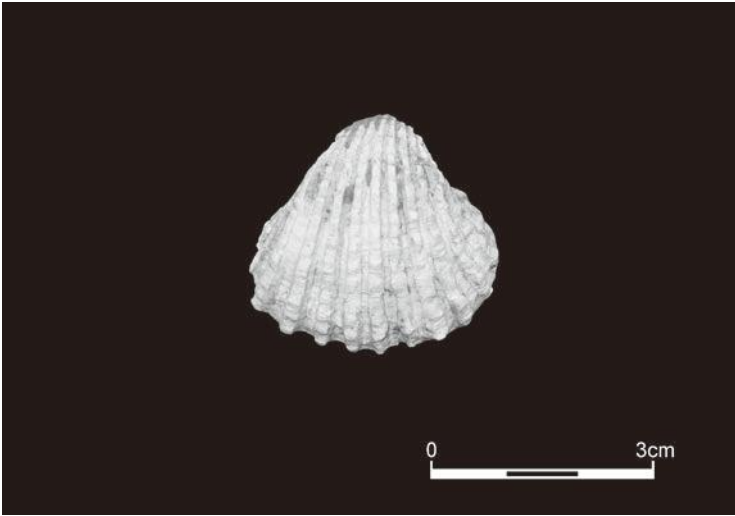
0009-2



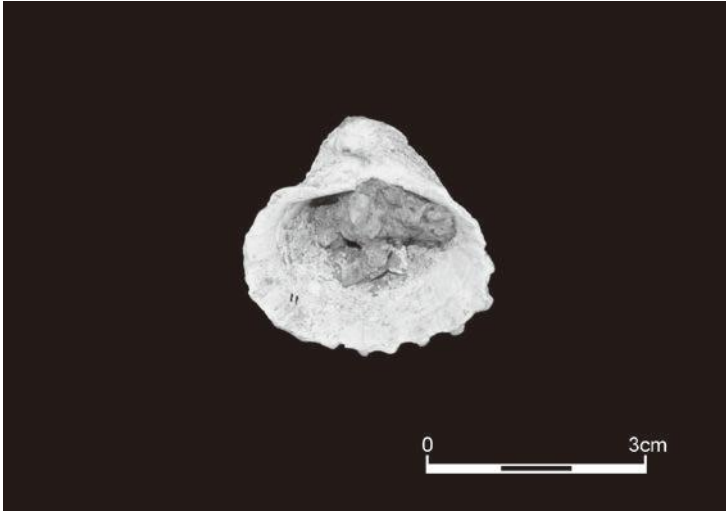
0010-1



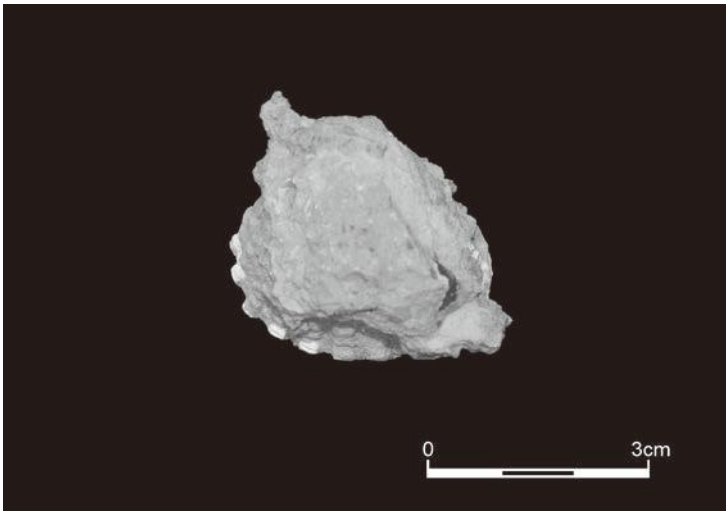
0010-2



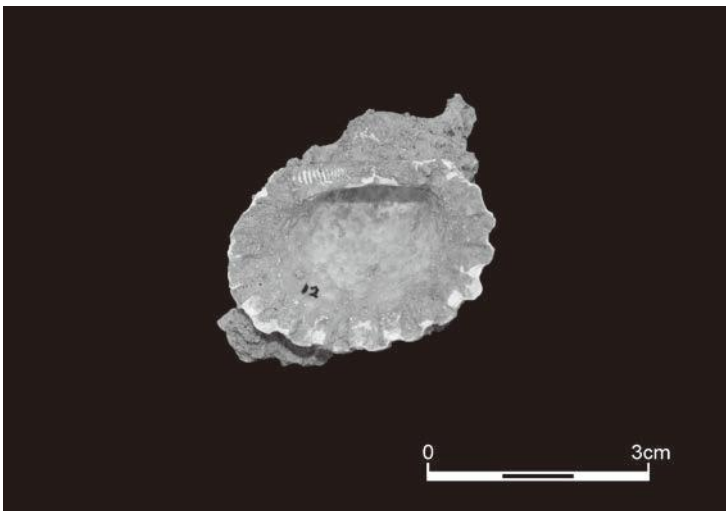
0011-1



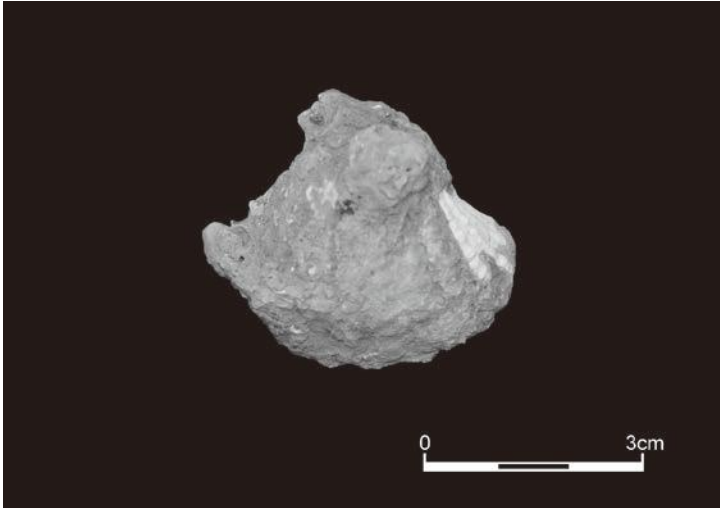
0011-2



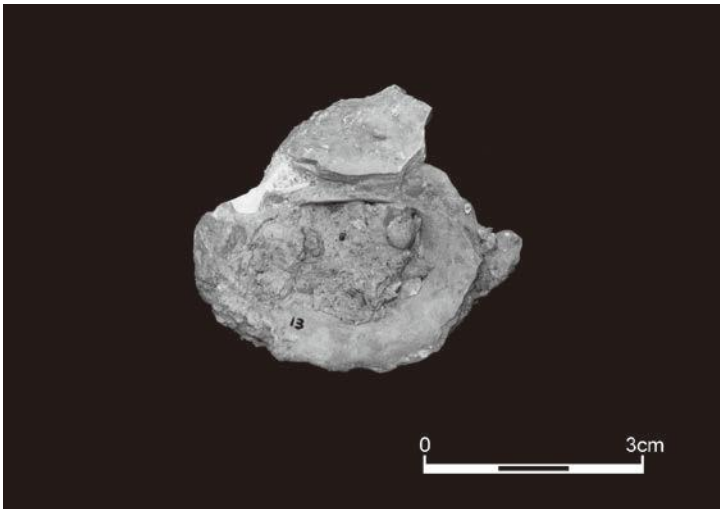
0012-1



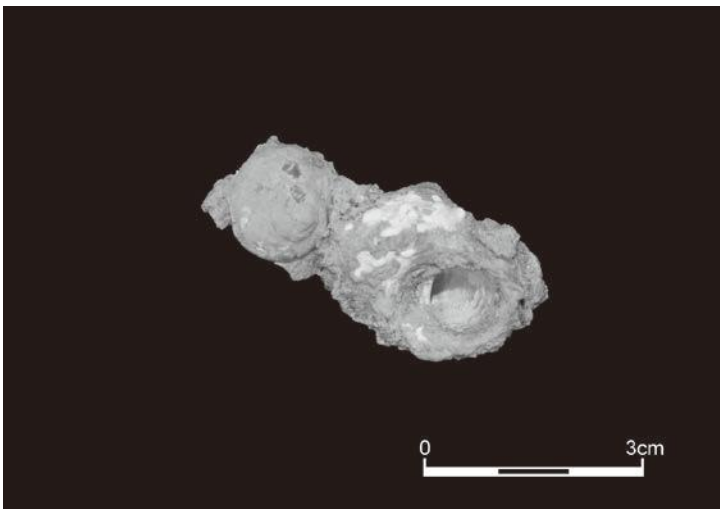
0012-2



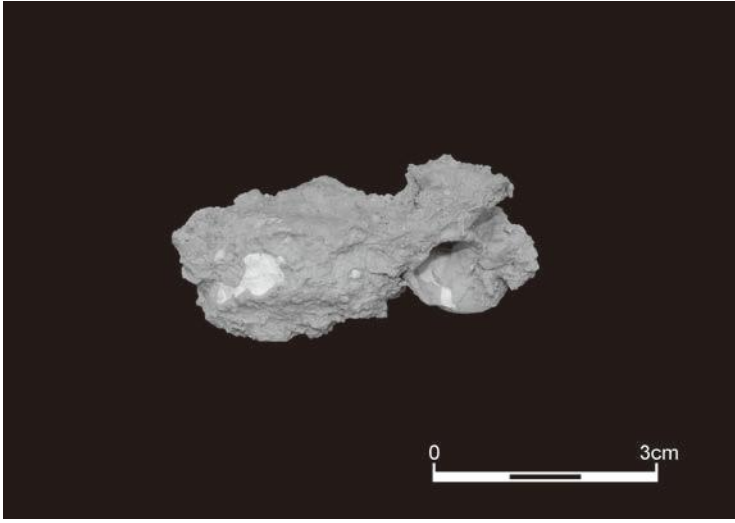
0013-1



0013-2



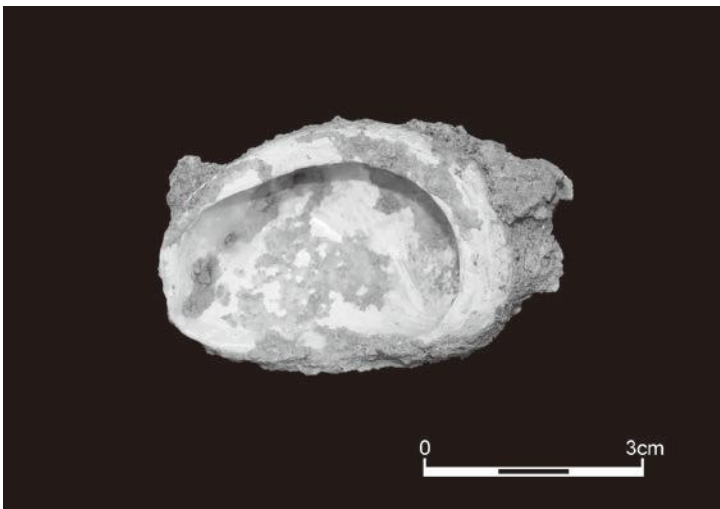
0014-1



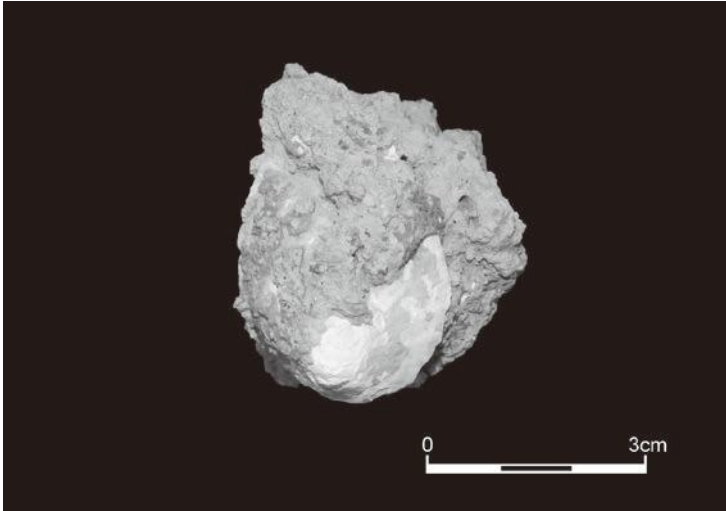
0014-2



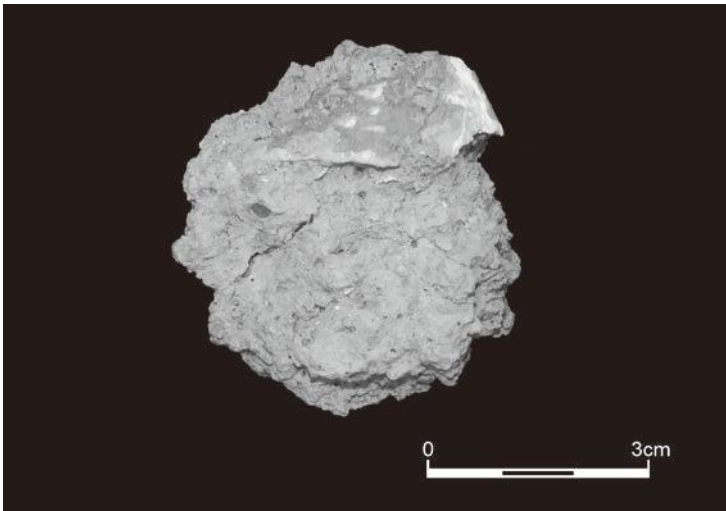
0015-1



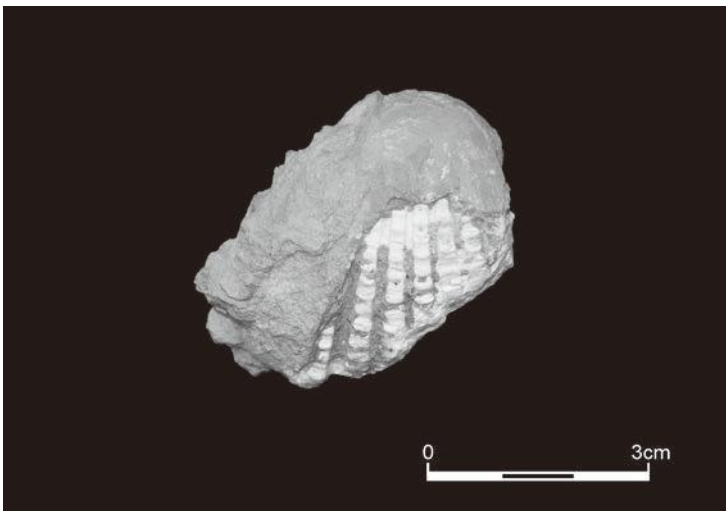
0015-2



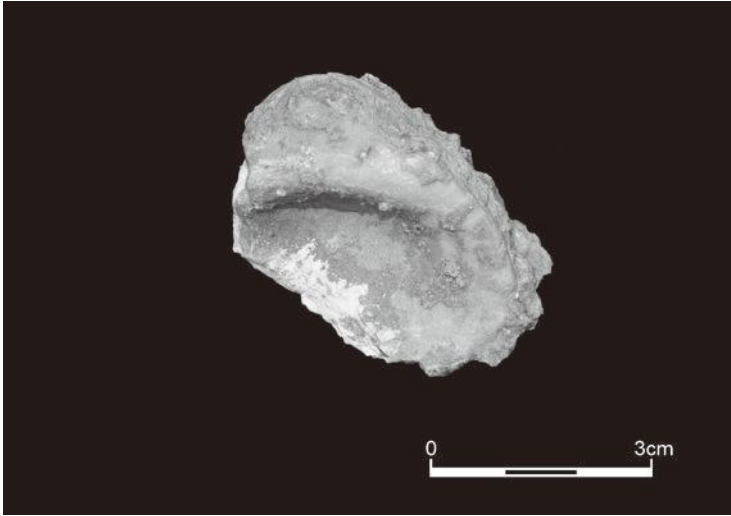
0016-1



0016-2



0017-1



0017-2



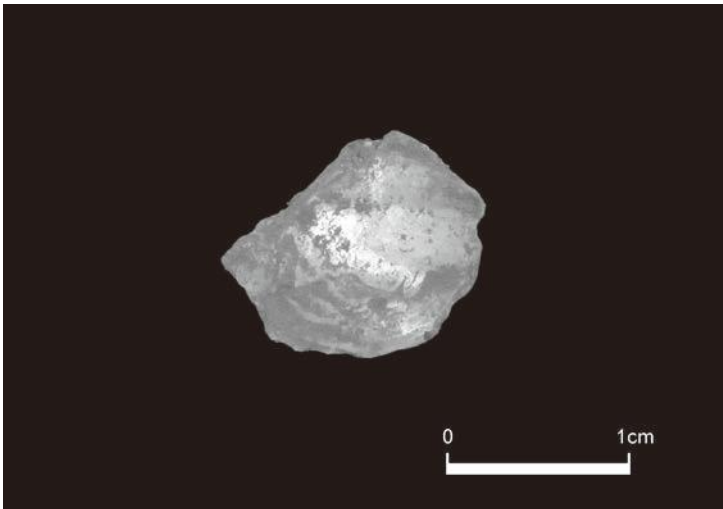
0018-1



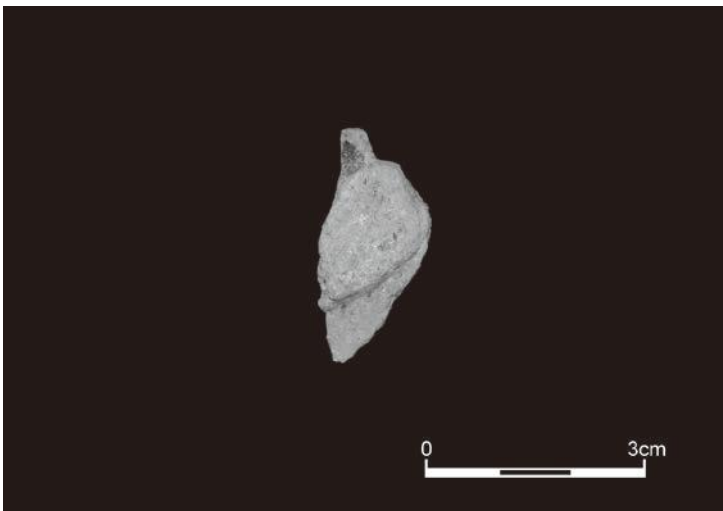
0018-2



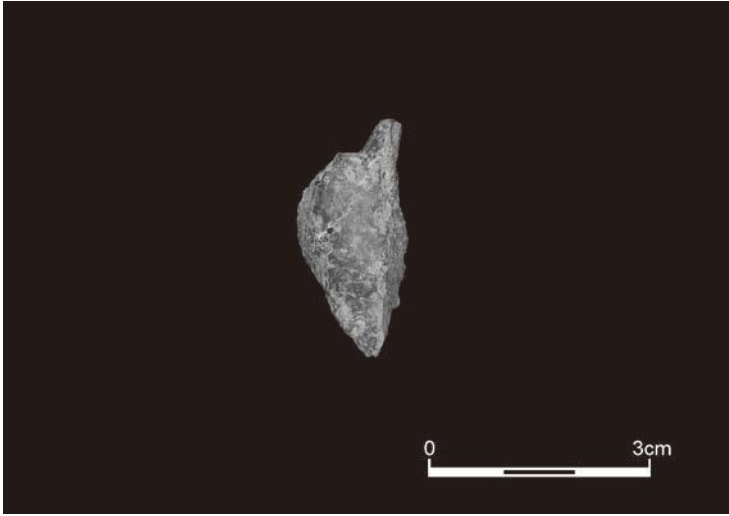
0019-1



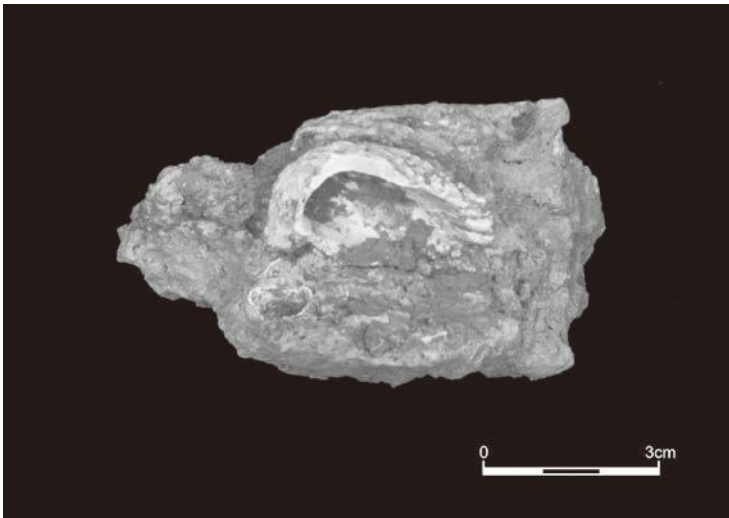
0019-2



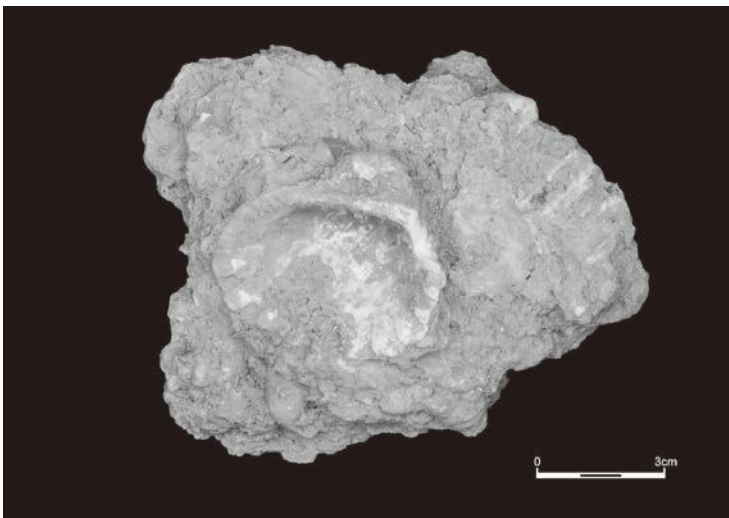
0020-1



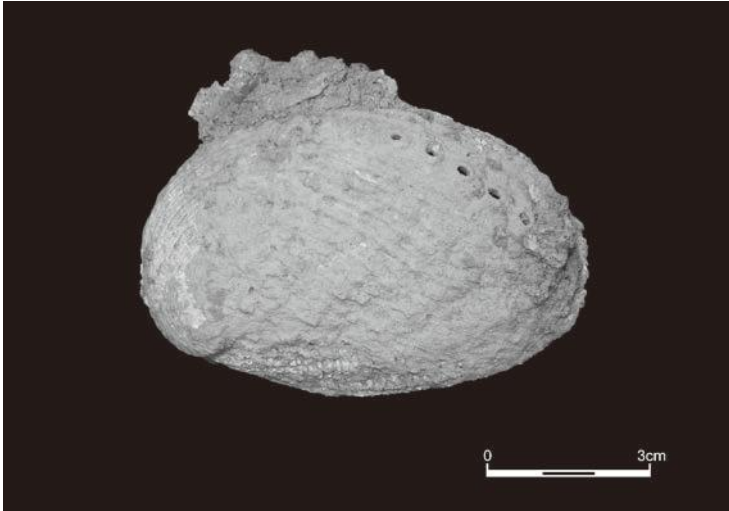
0020-2



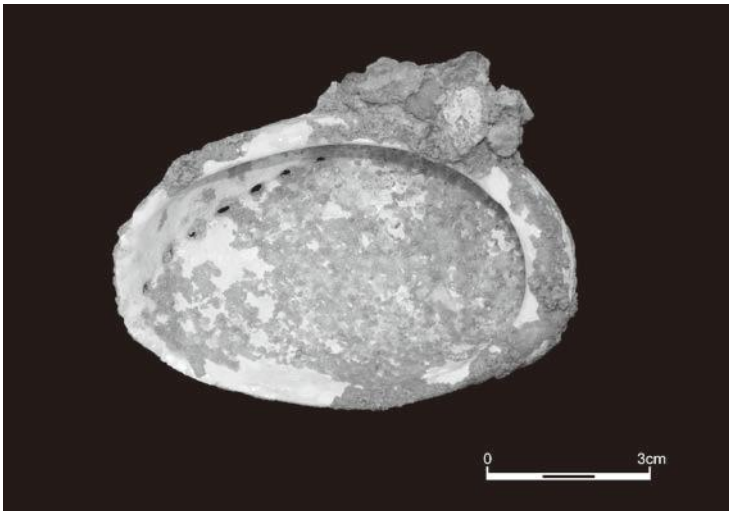
0021-1



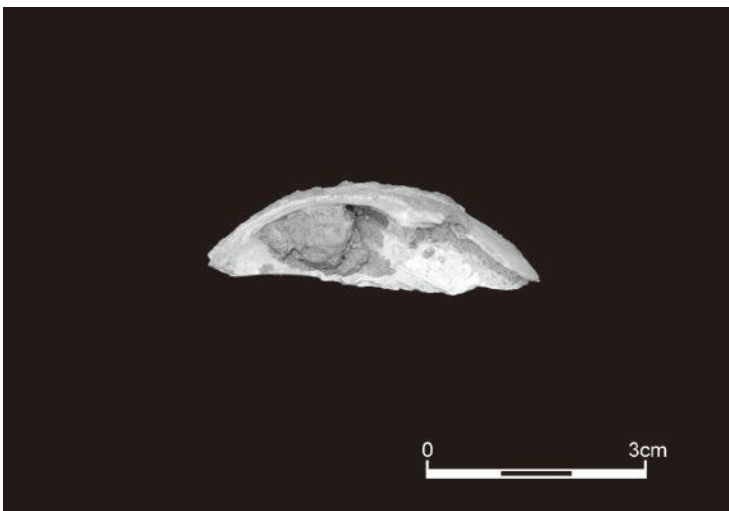
0022-1



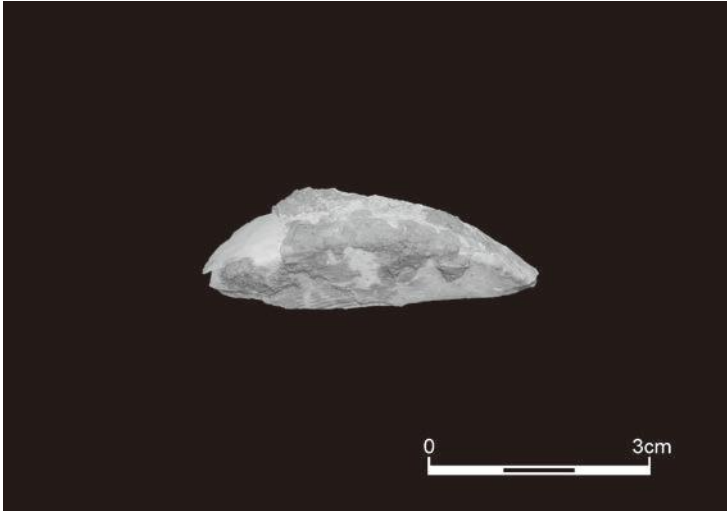
0101-1



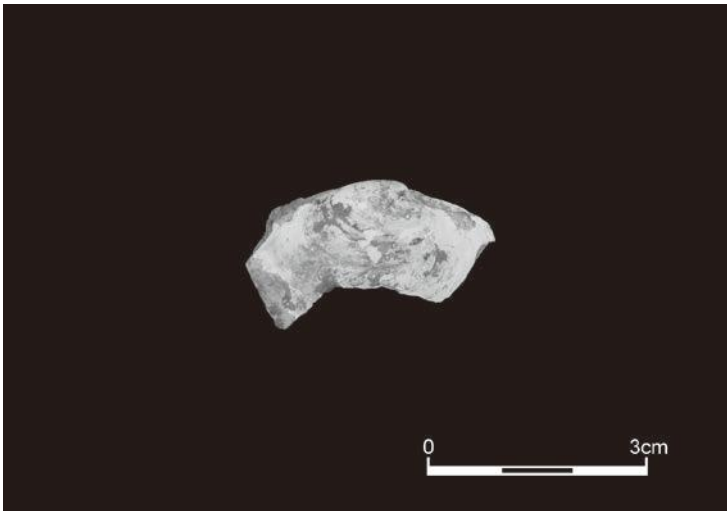
0101-2



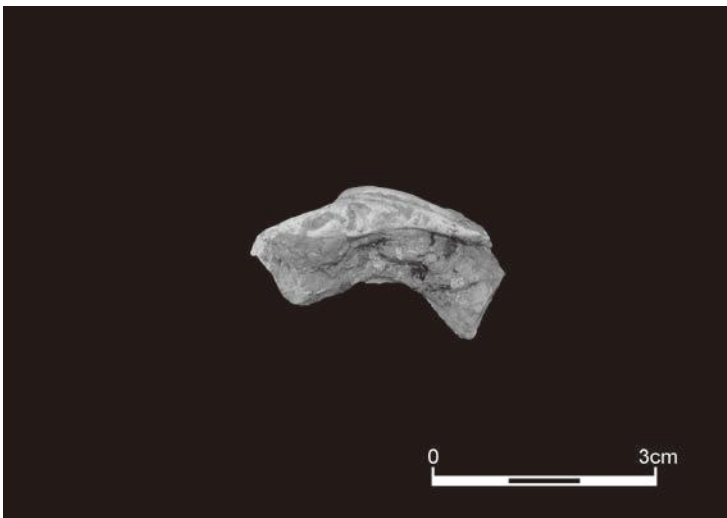
0102-1



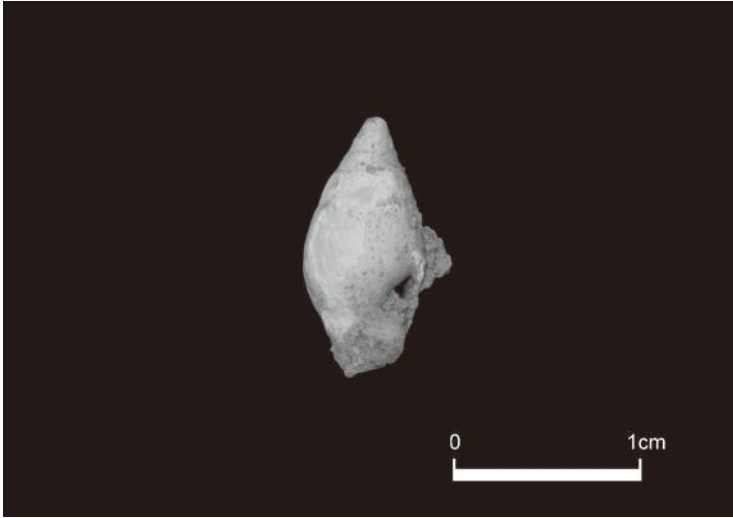
0102-2



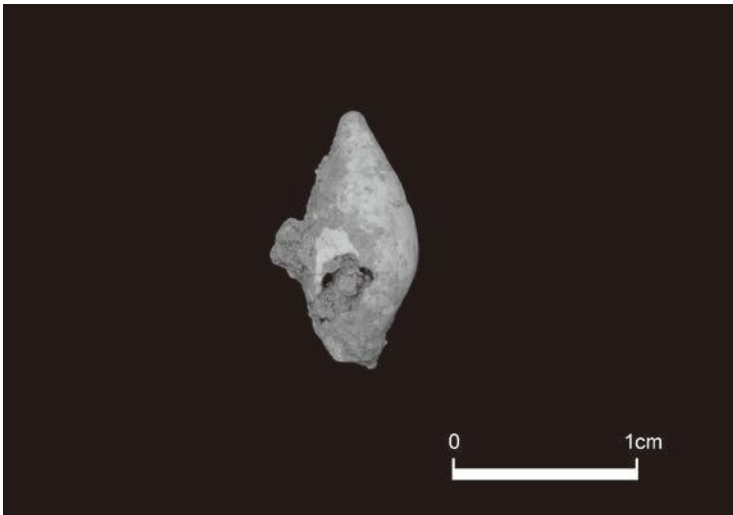
0103-1



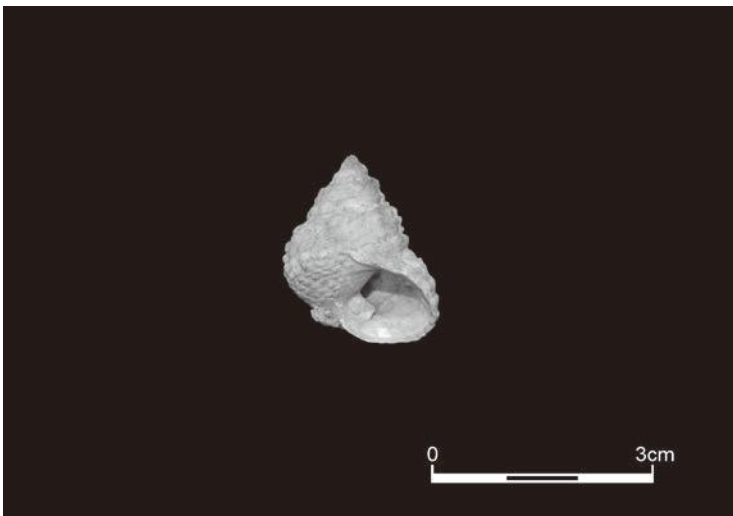
0103-2



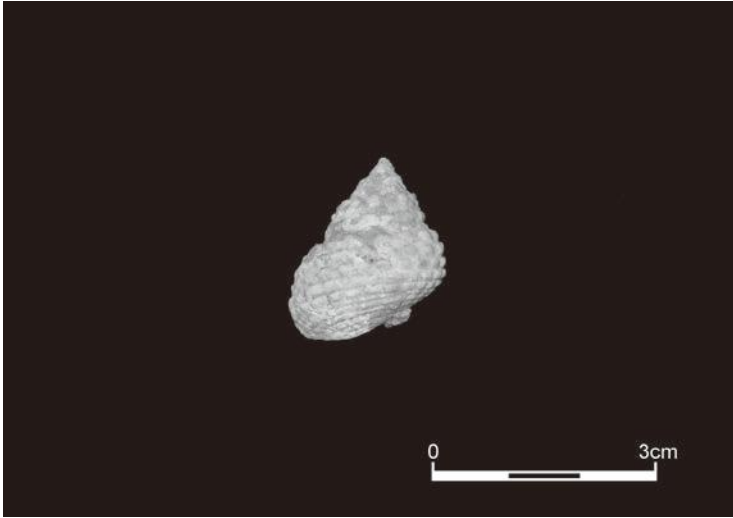
0104-1



0104-2



0105-1



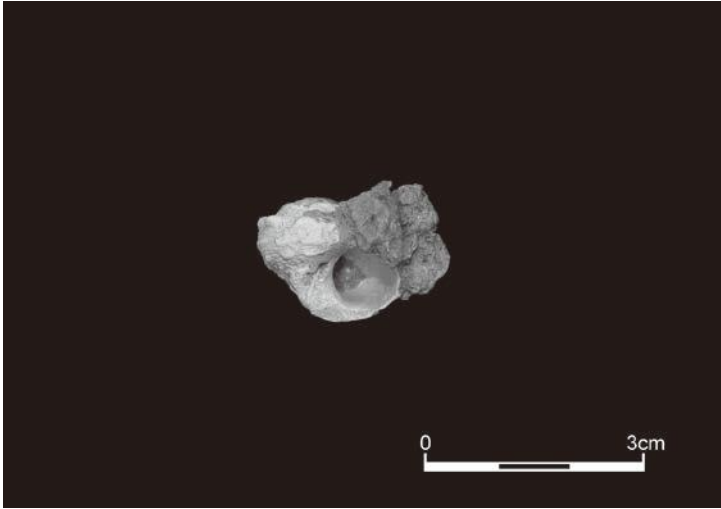
0105-2



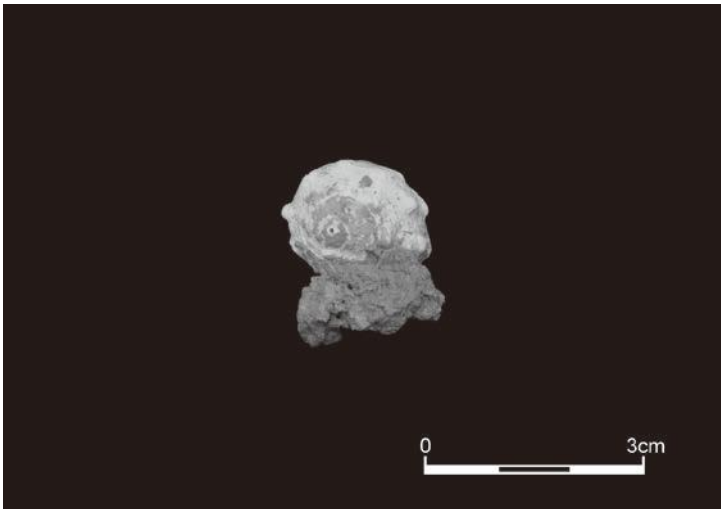
0106-1



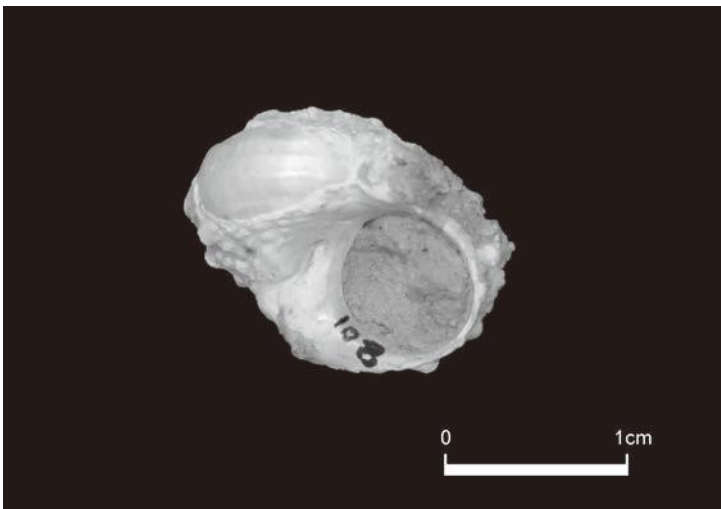
0106-2



0107-1



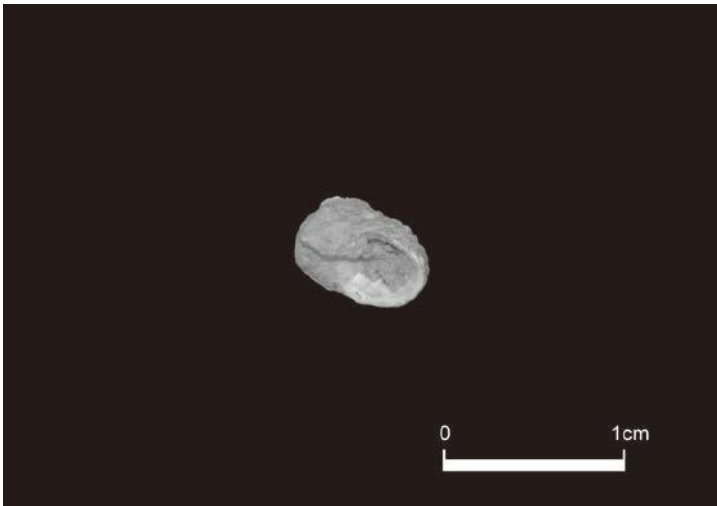
0107-2



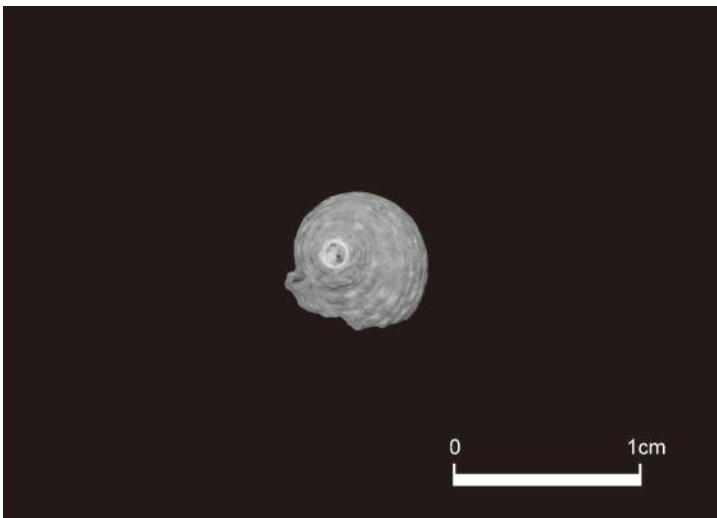
0108-1



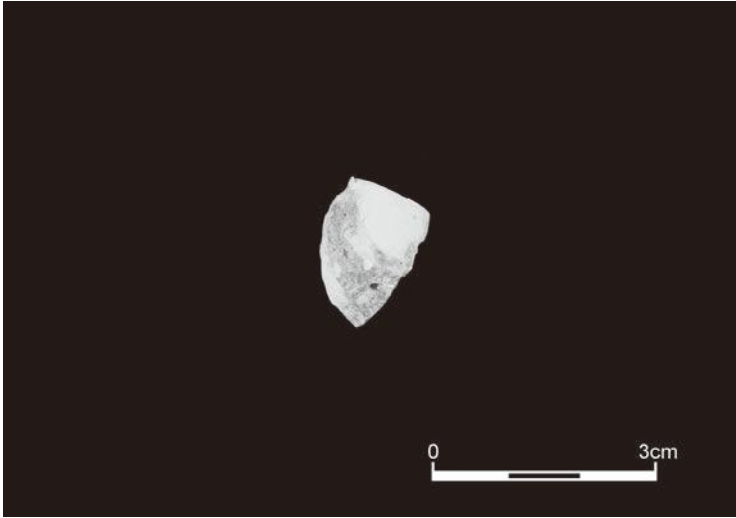
0108-2



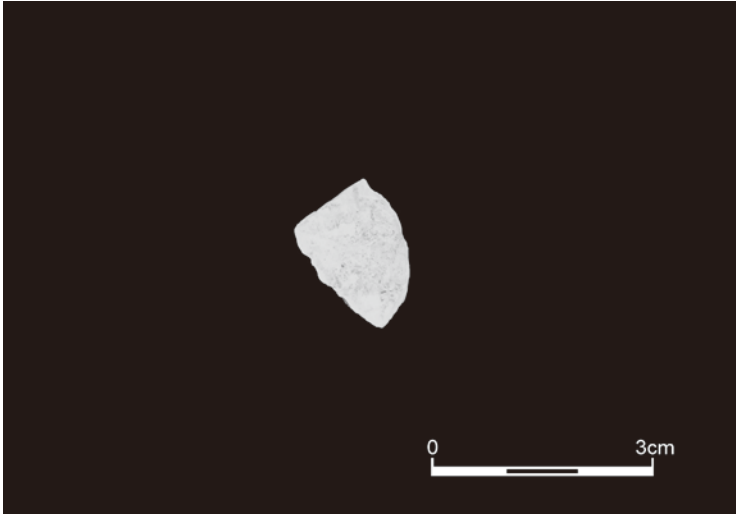
0109-1



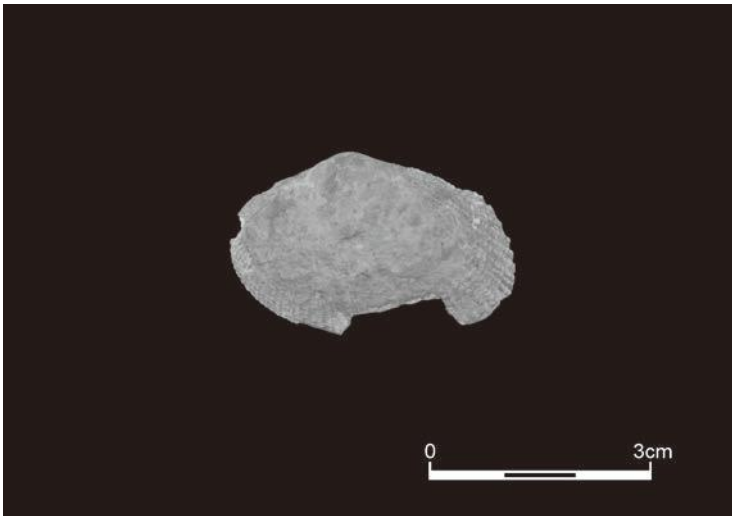
0109-2



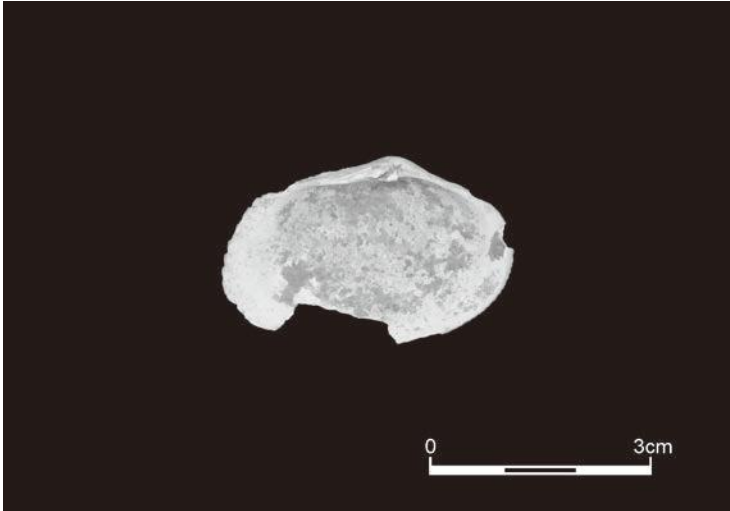
0110-1



0110-2



0111-1



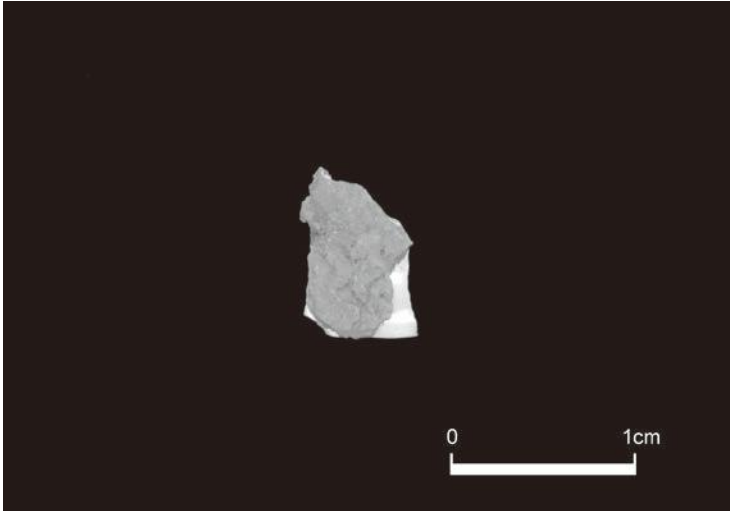
0111-2



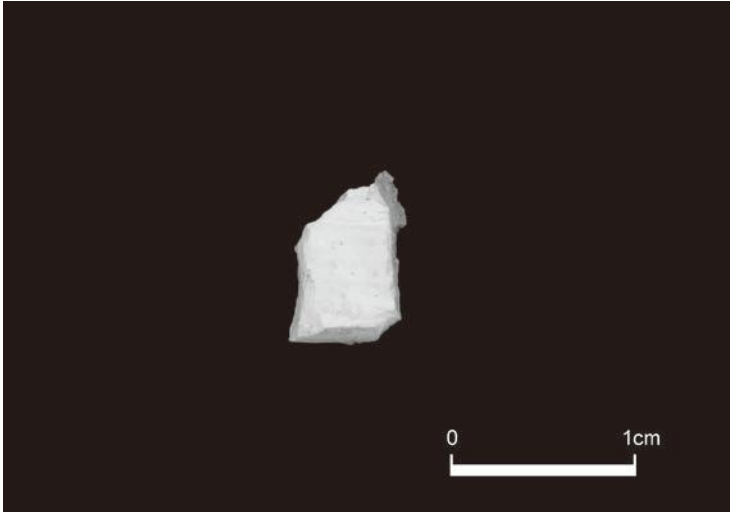
0112-1



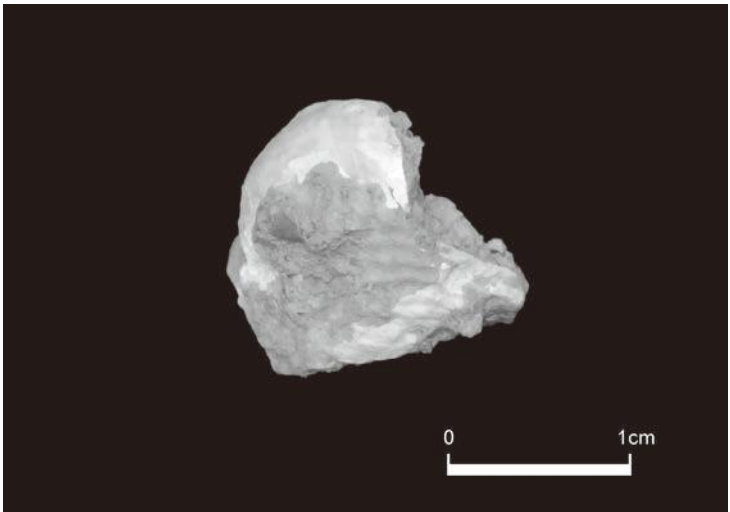
0112-2



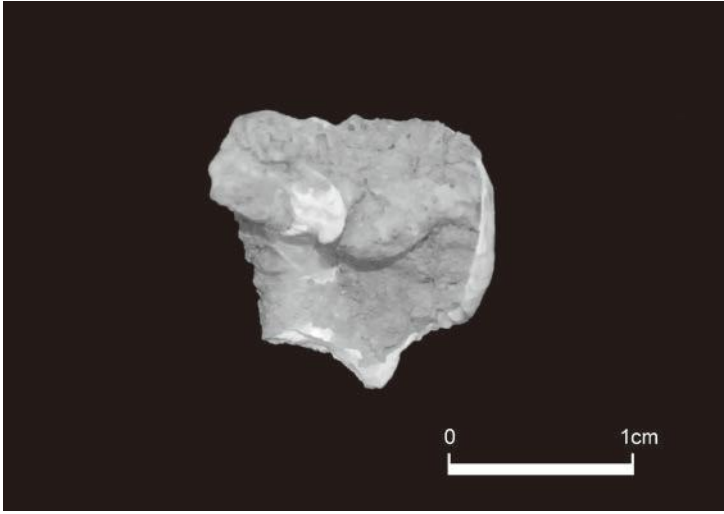
0113-1



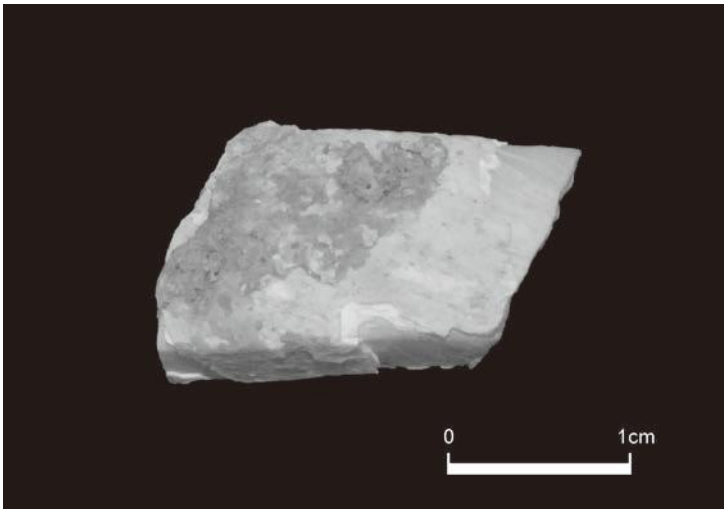
0113-2



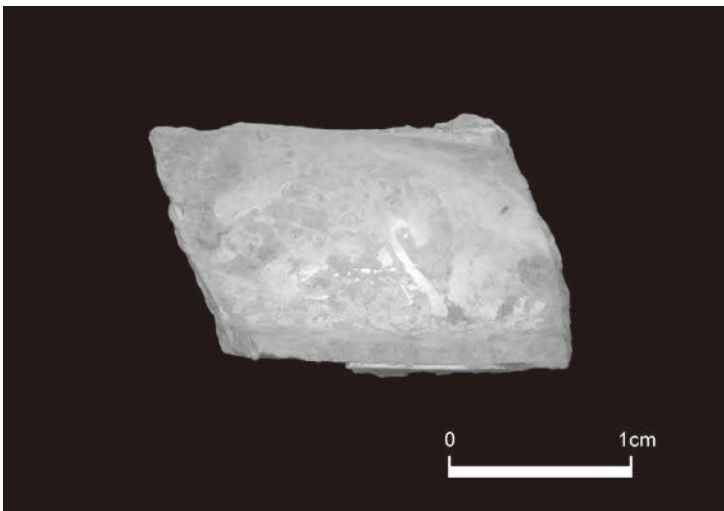
0114-1



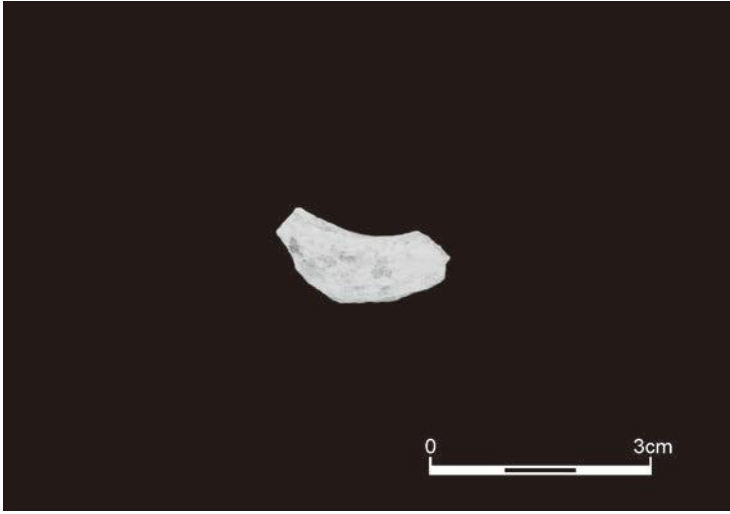
0114-2



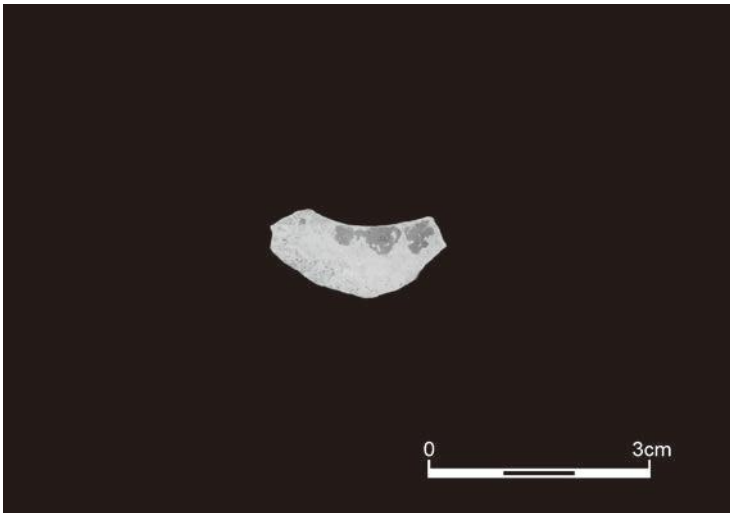
0115-1



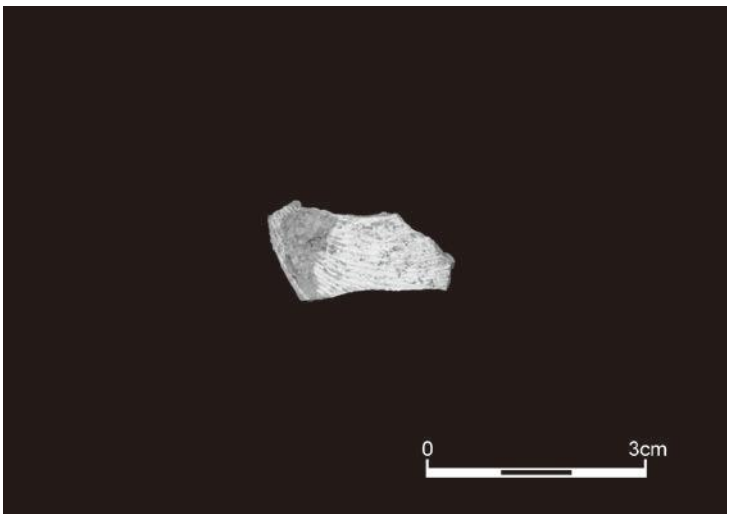
0115-2



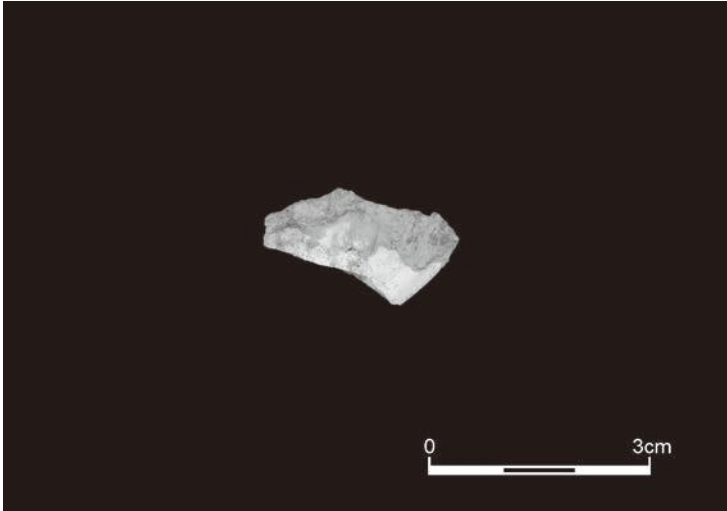
0116-1



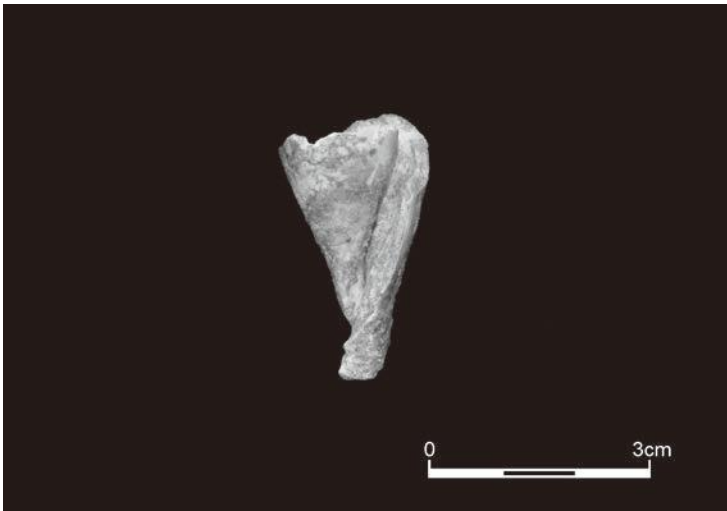
0116-2



0117-1



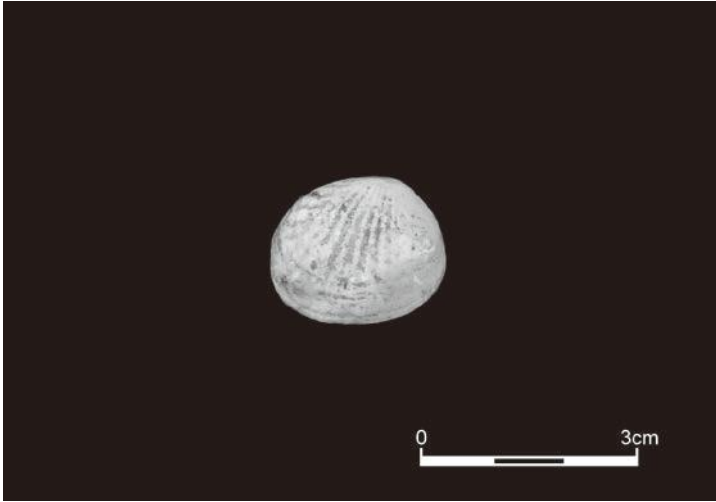
0117-2



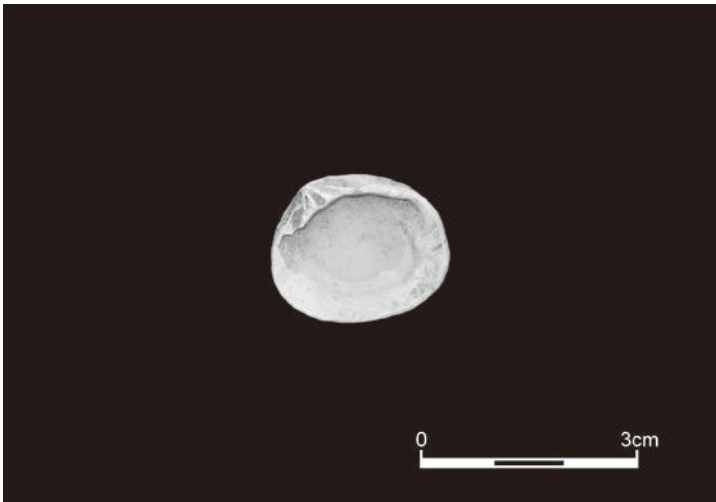
0118-1



0118-2



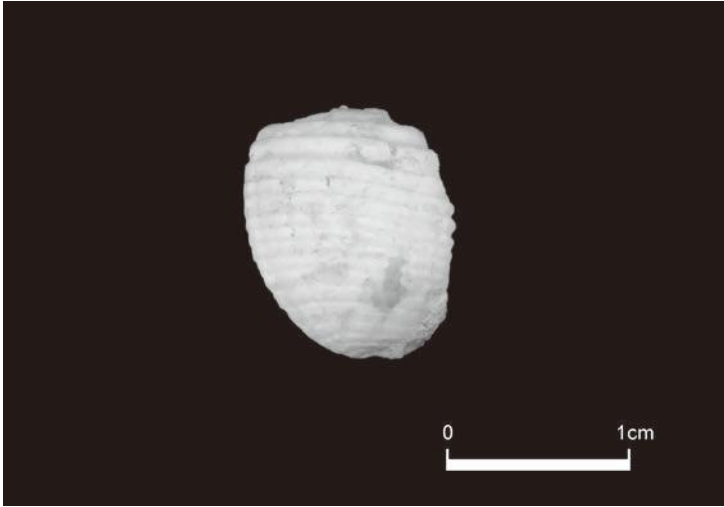
0119-1



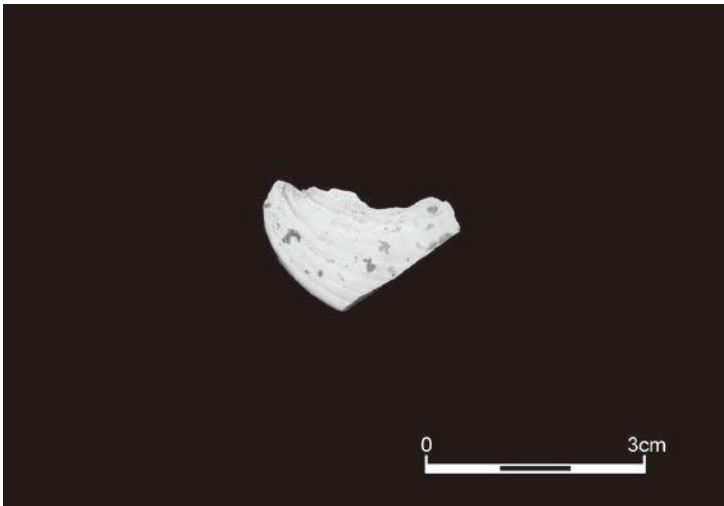
0119-2



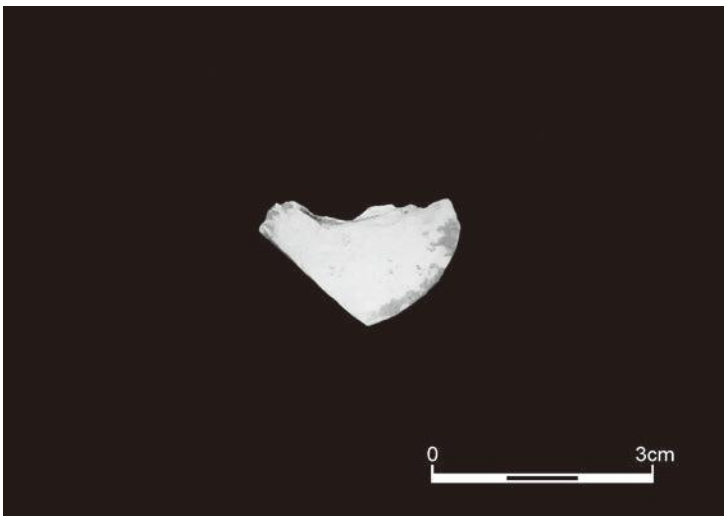
0120-1



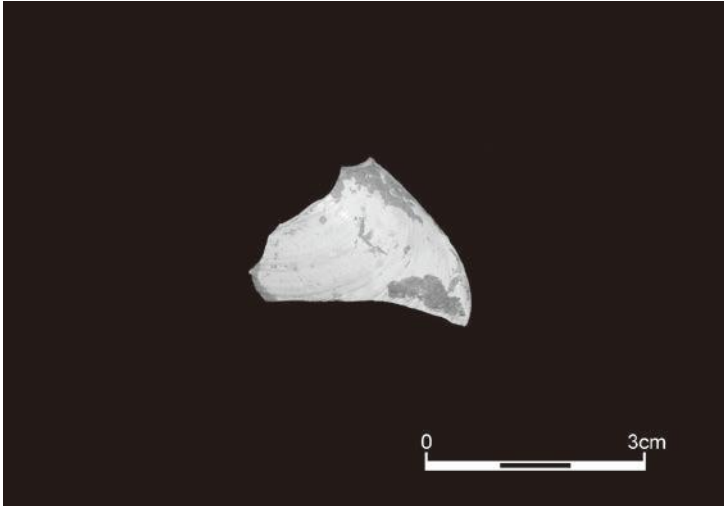
0120-2



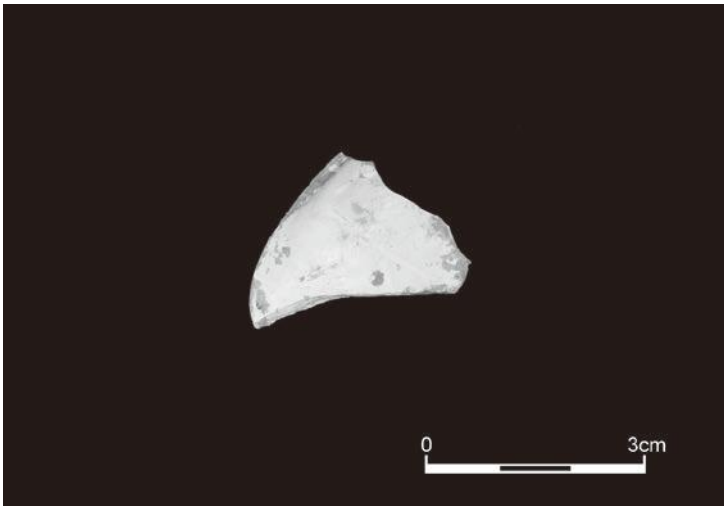
0201-1



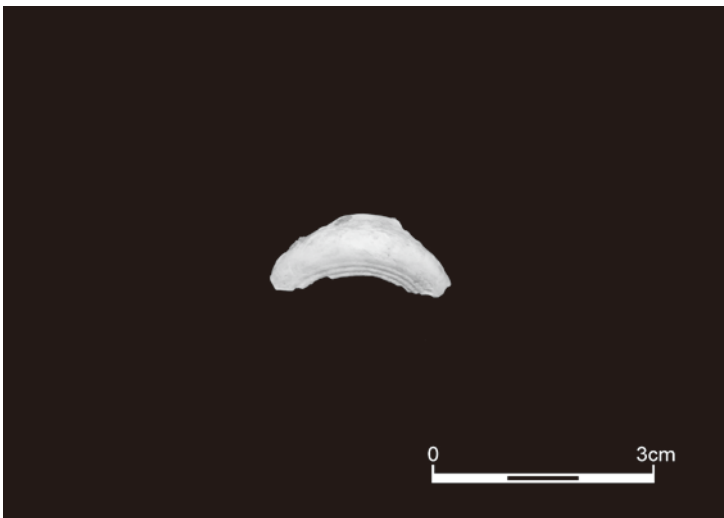
0201-2



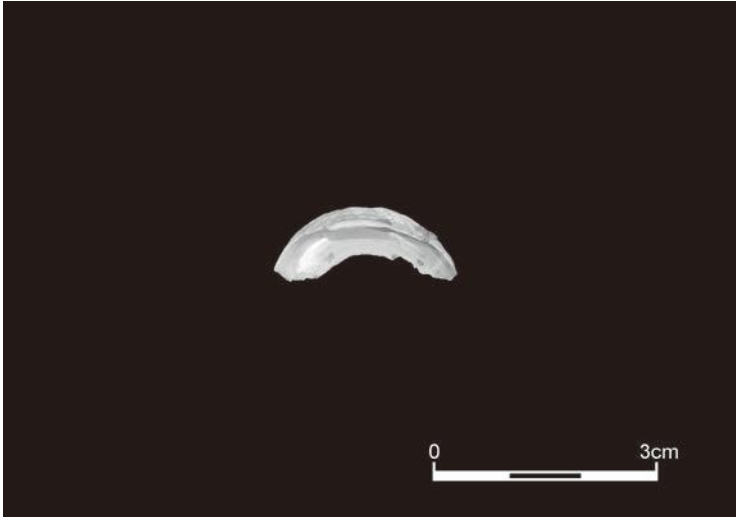
0202-1



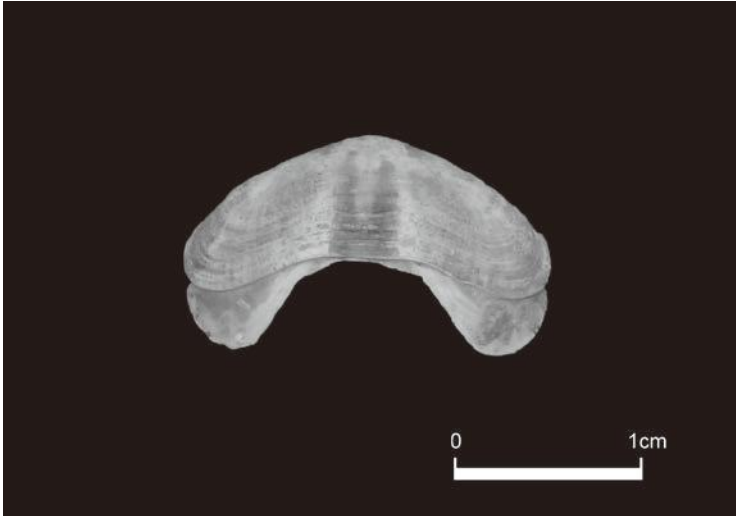
0202-2



0203-1



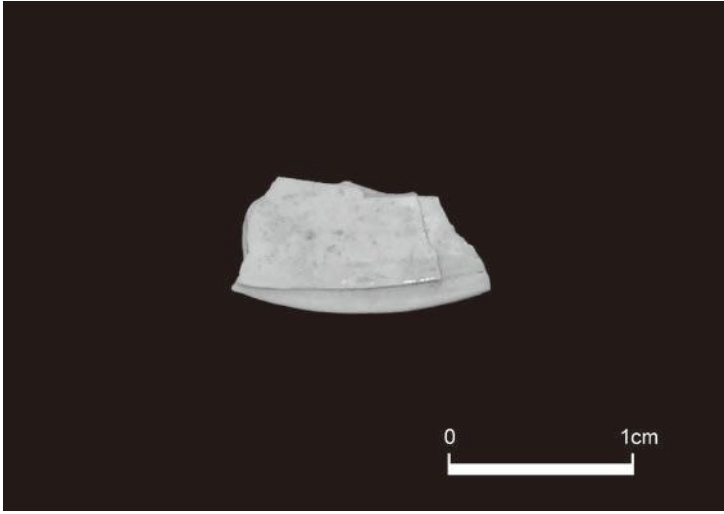
0203-2



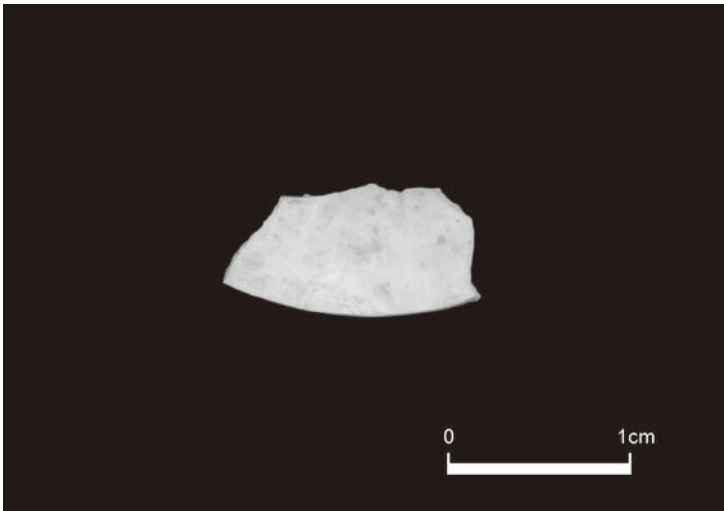
0204-1



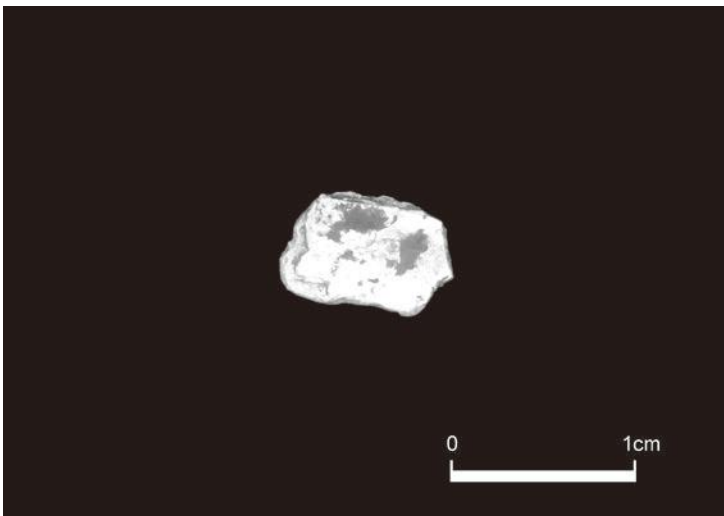
0204-2



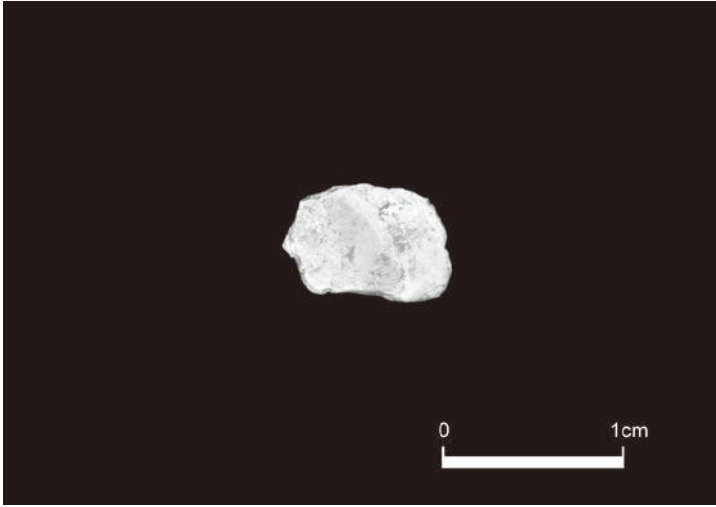
0205-1



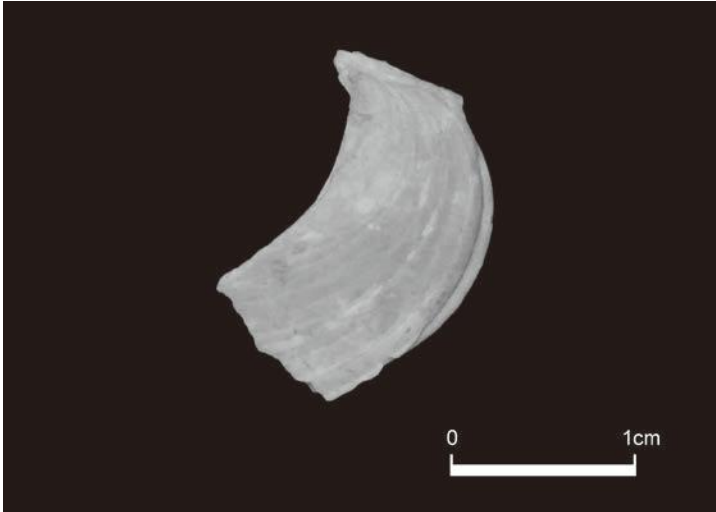
0205-2



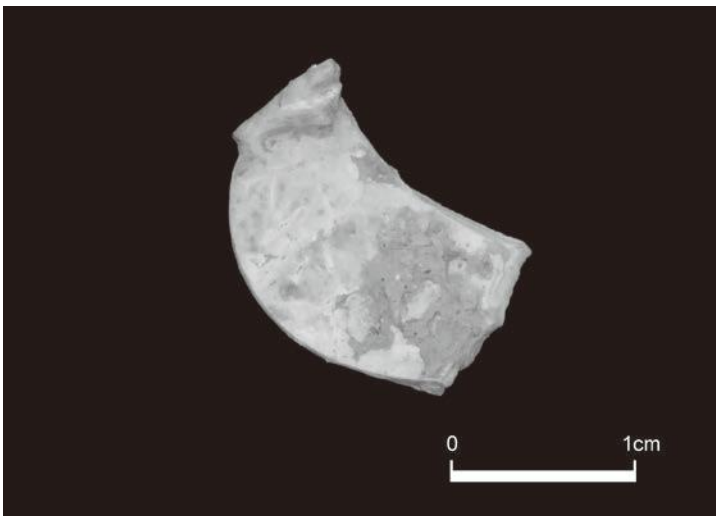
0206-1



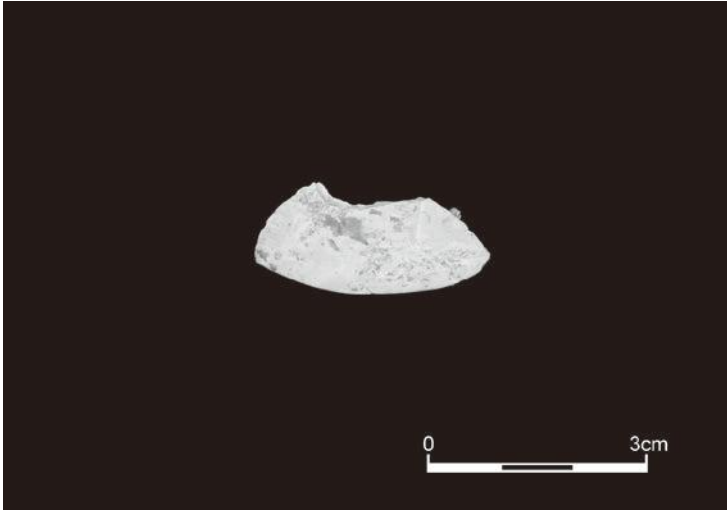
0206-2



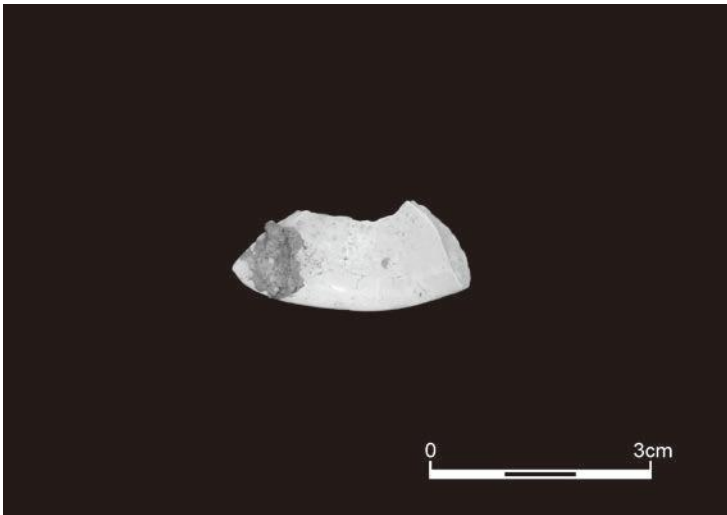
0207-1



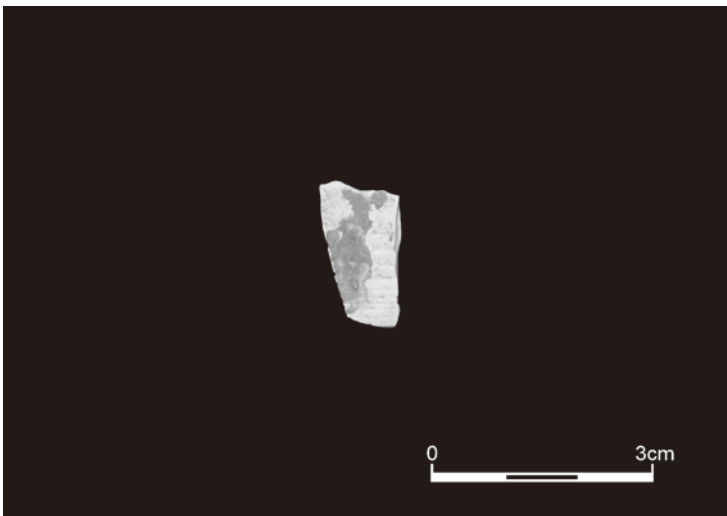
0207-2



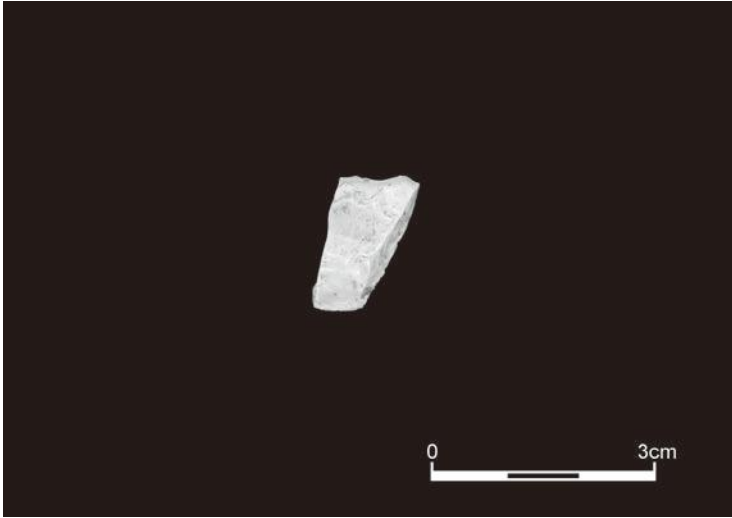
0208-1



0208-2



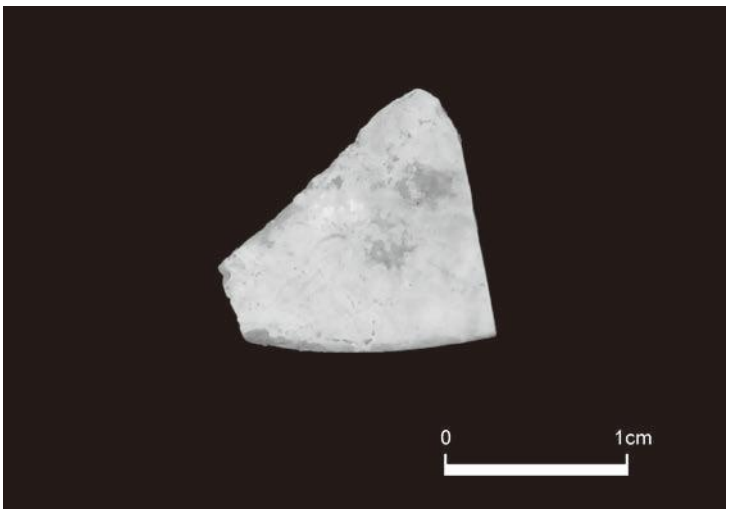
0209-1



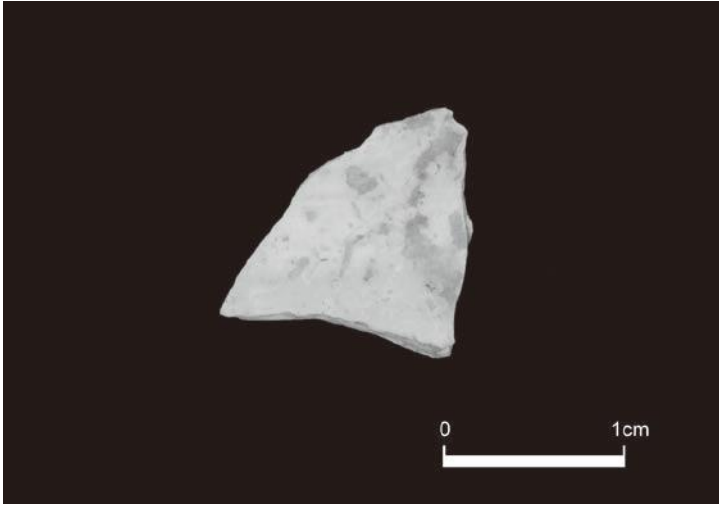
0209-2



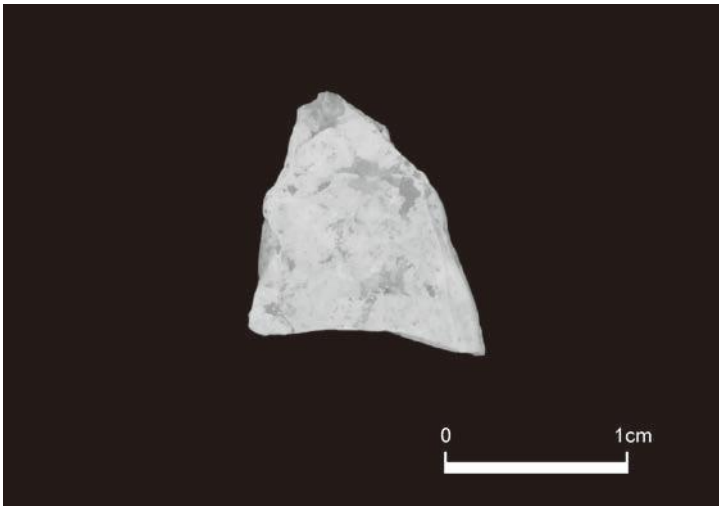
0210-1



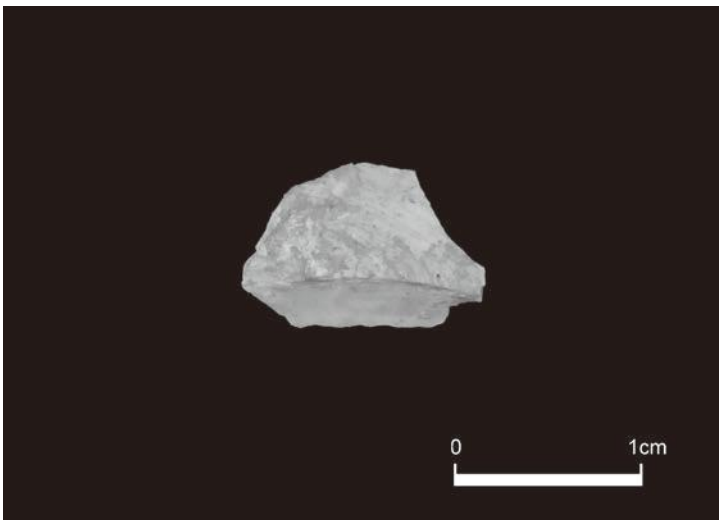
0210-2



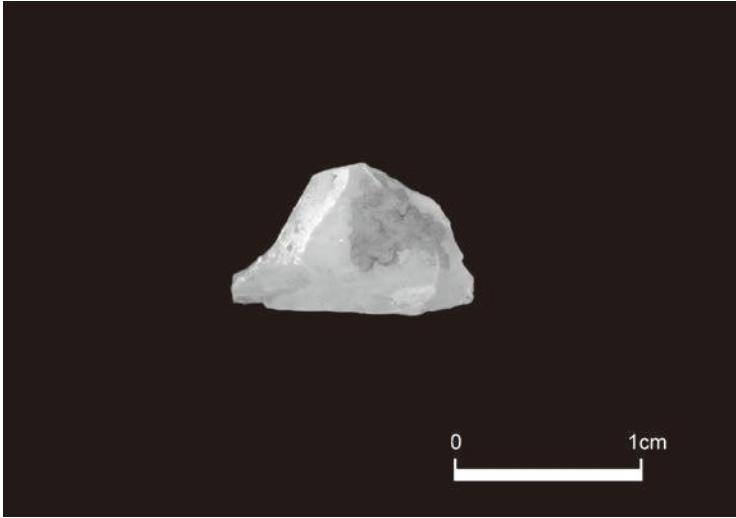
0211-1



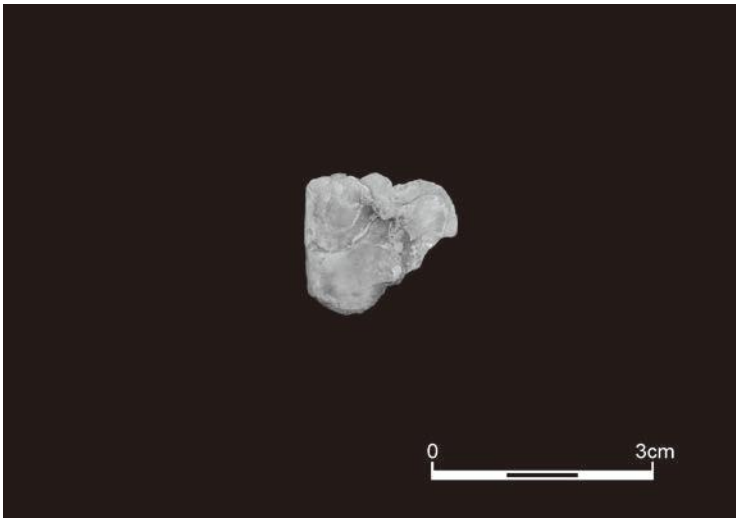
0211-2



0212-1



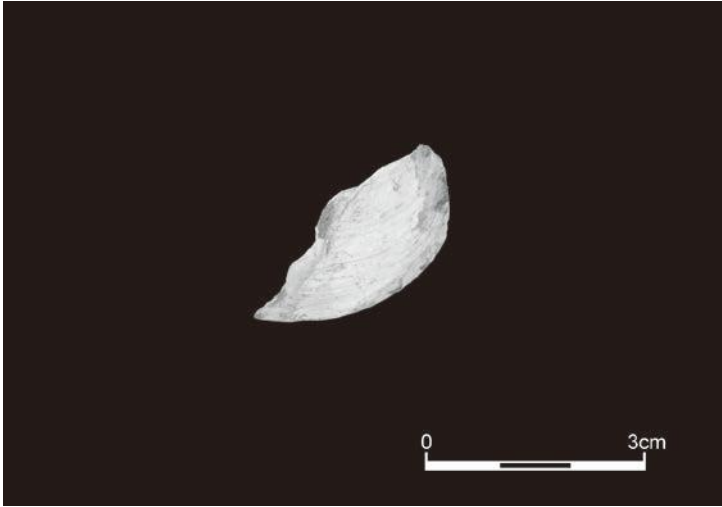
0212-2



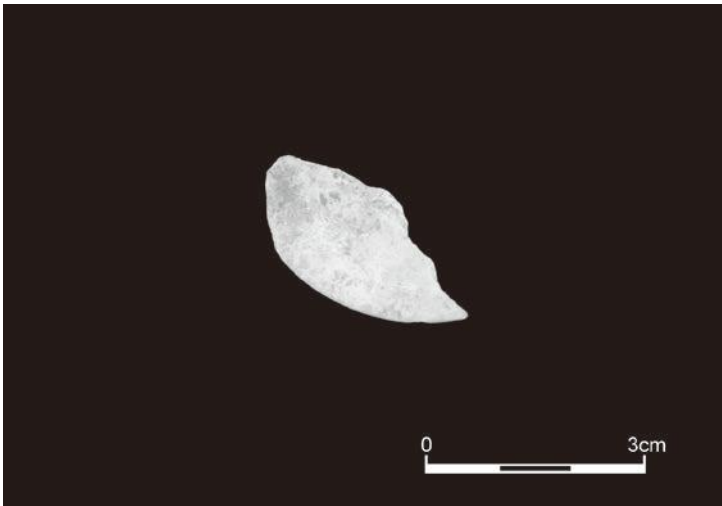
0213-1



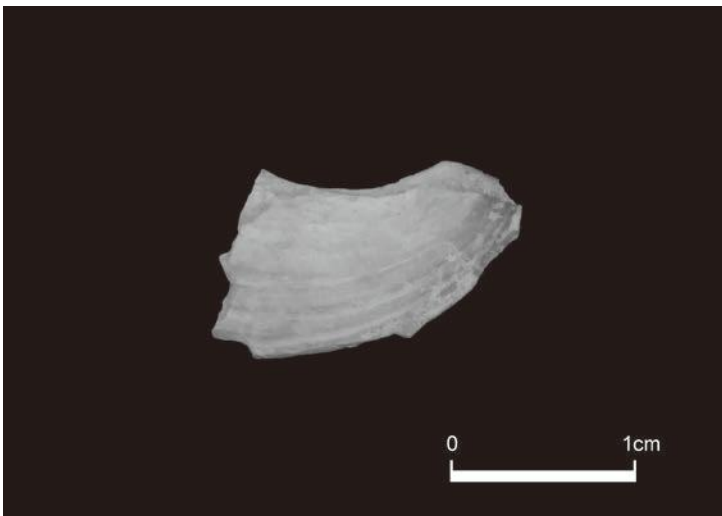
0213-2



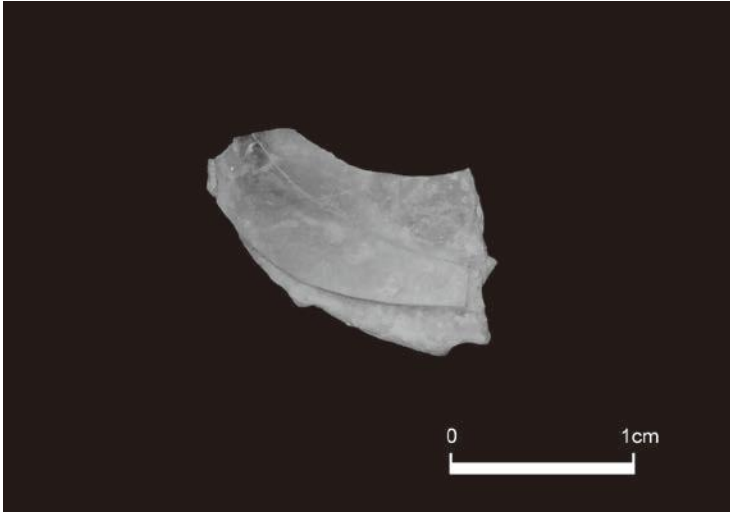
0214-1



0214-2



0215-1



0215-2



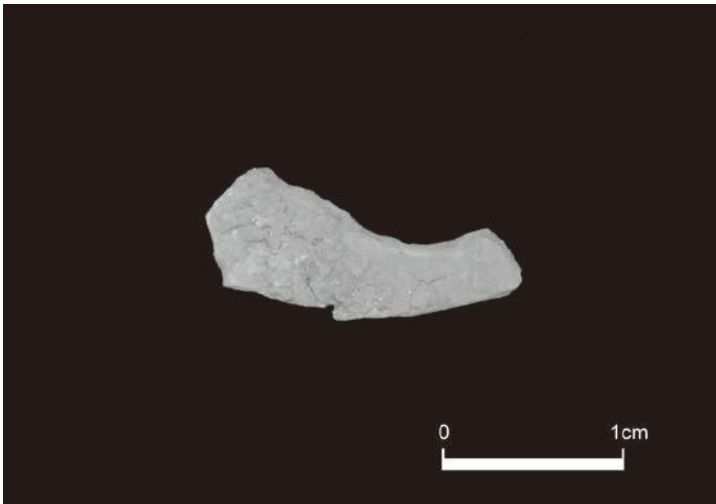
0216-1



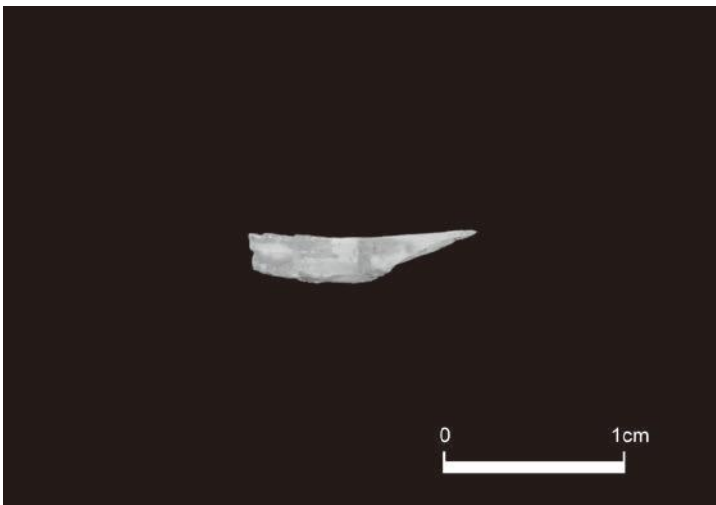
0216-2



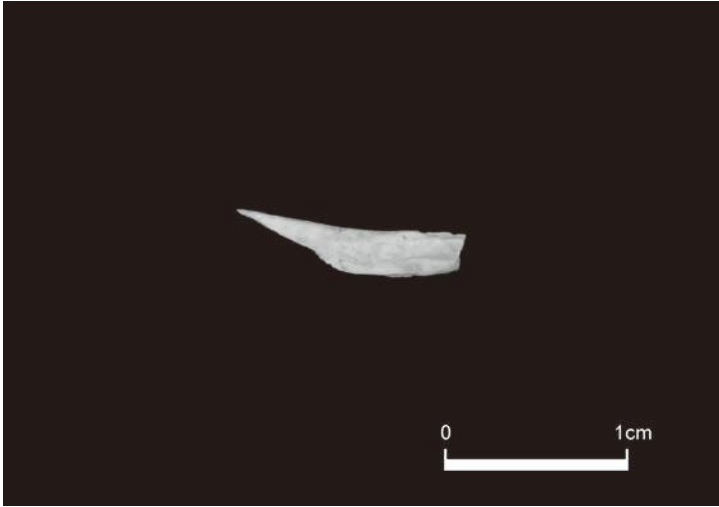
0217-1



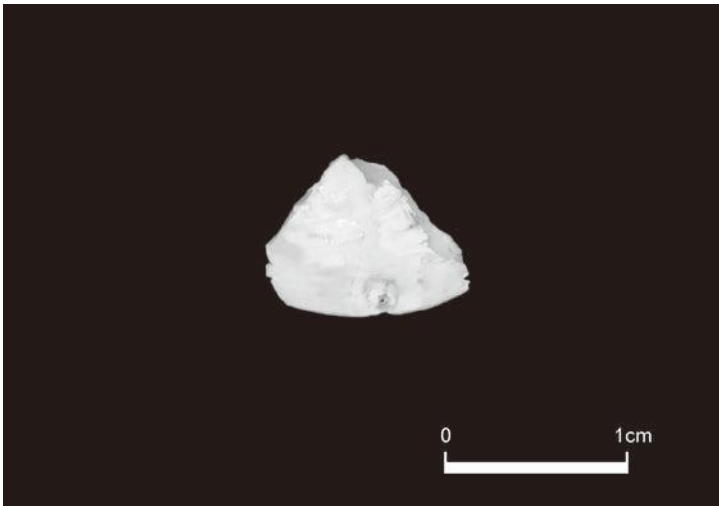
0217-2



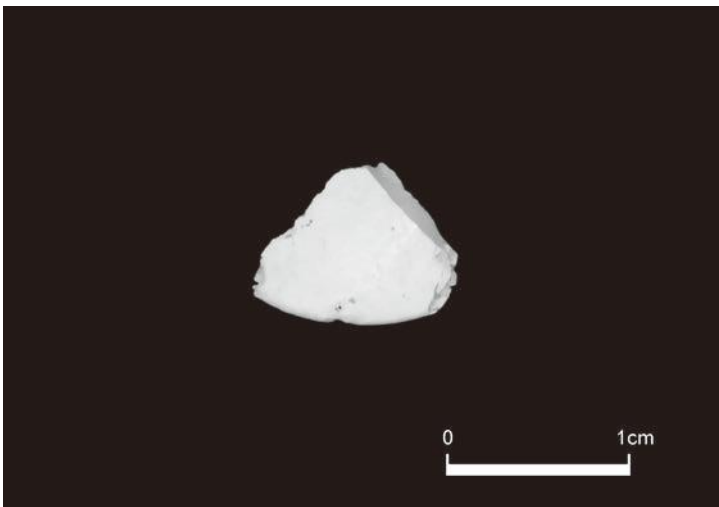
0218-1



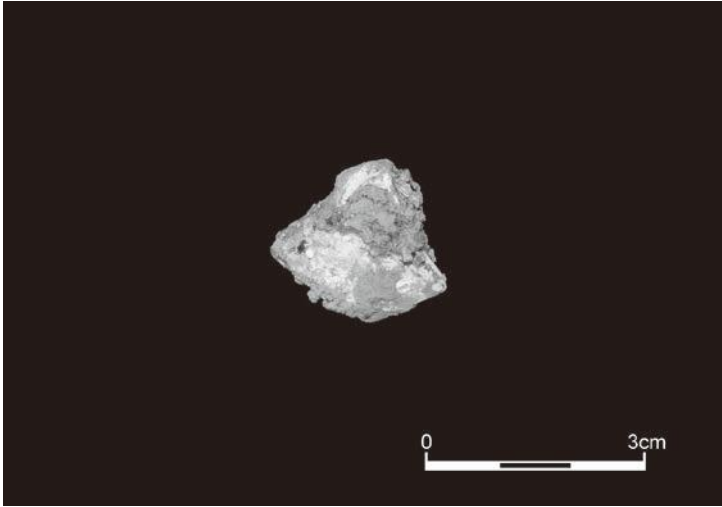
0218-2



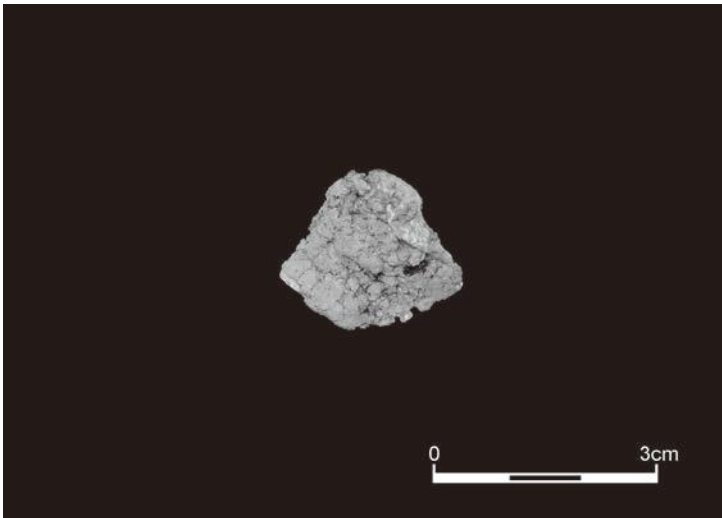
0219-1



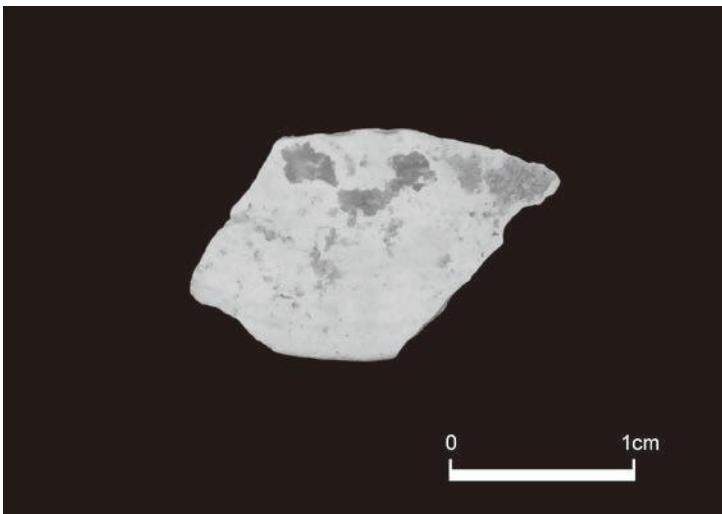
0219-2



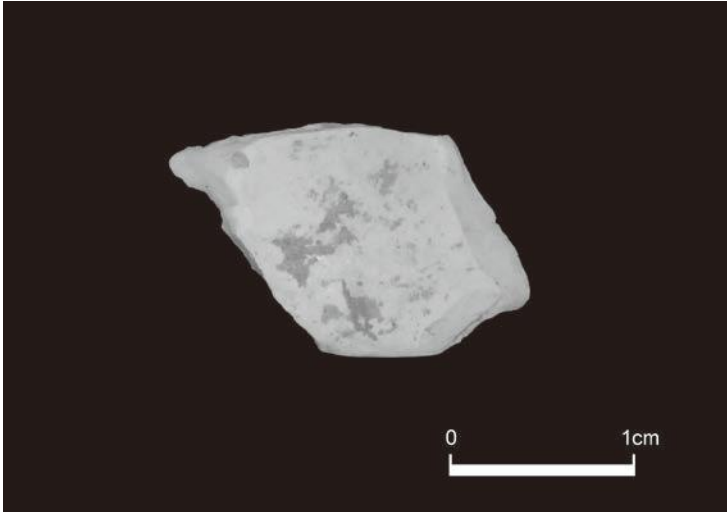
0220-1



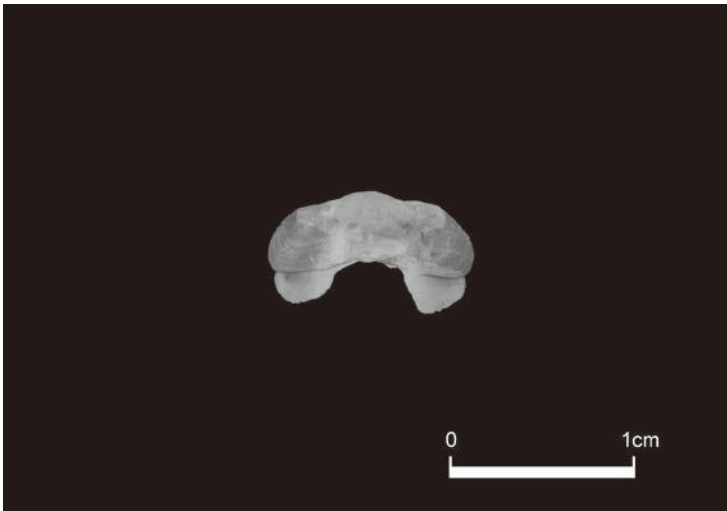
0220-2



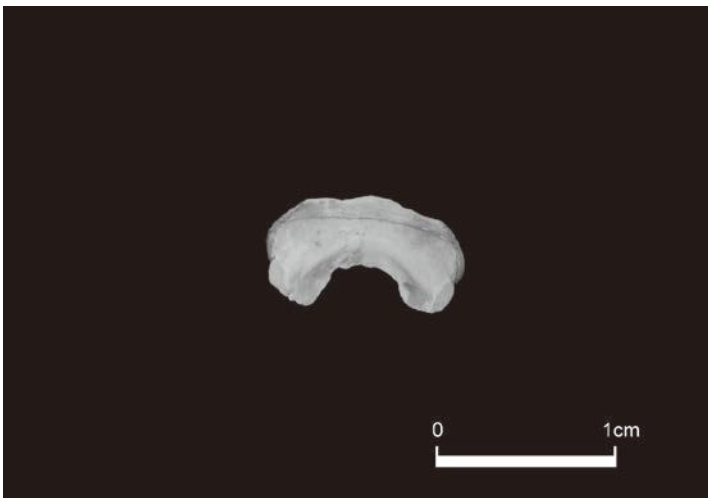
0221-1



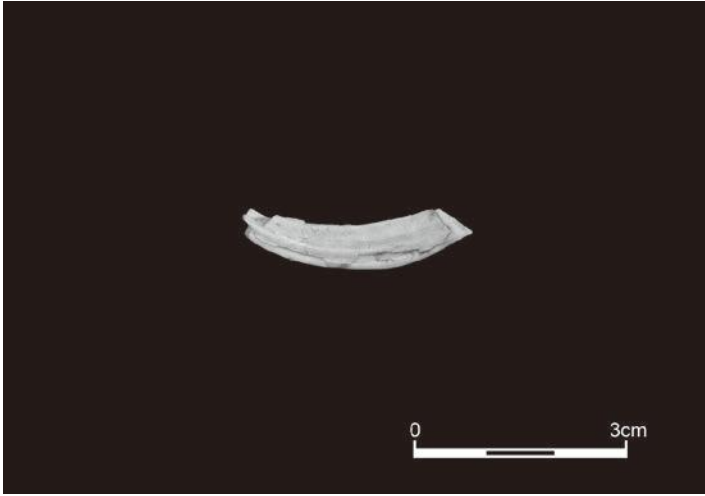
0221-2



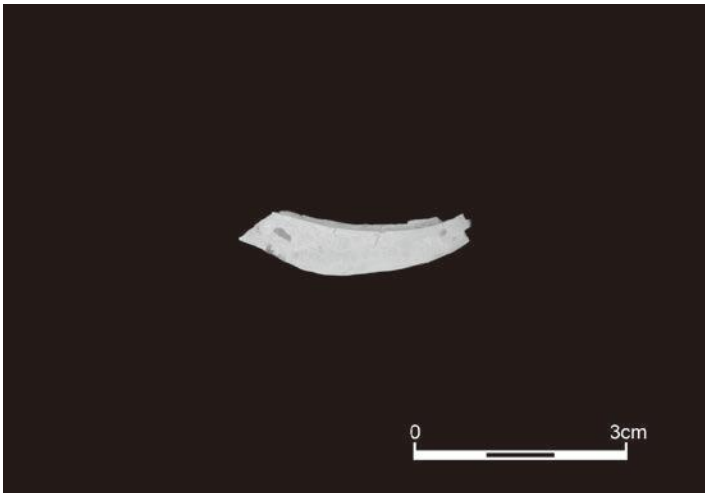
0222-1



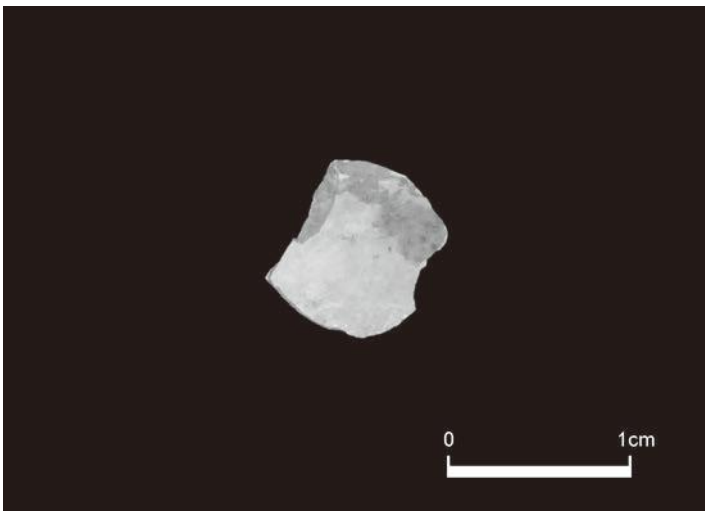
0222-2



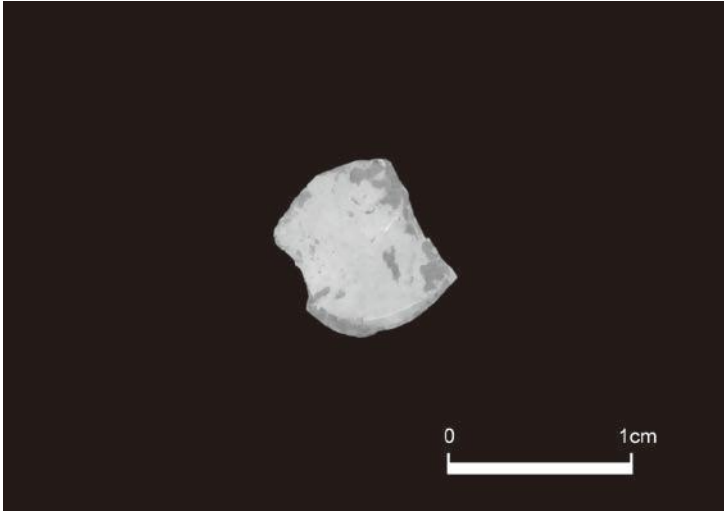
0223-1



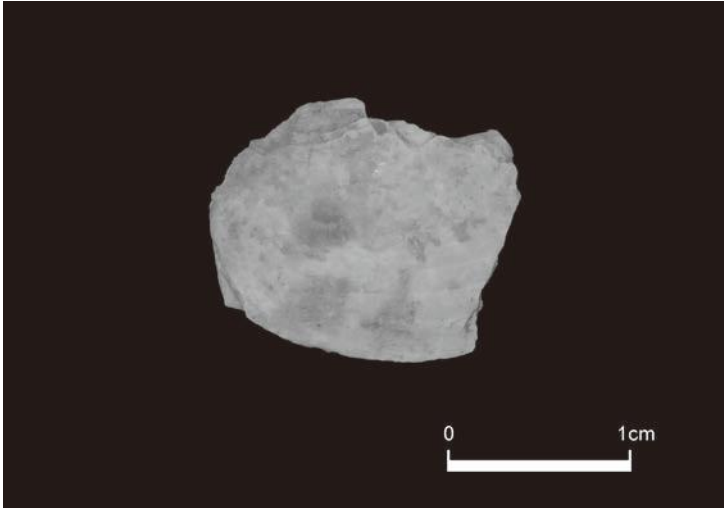
0223-2



0224-1



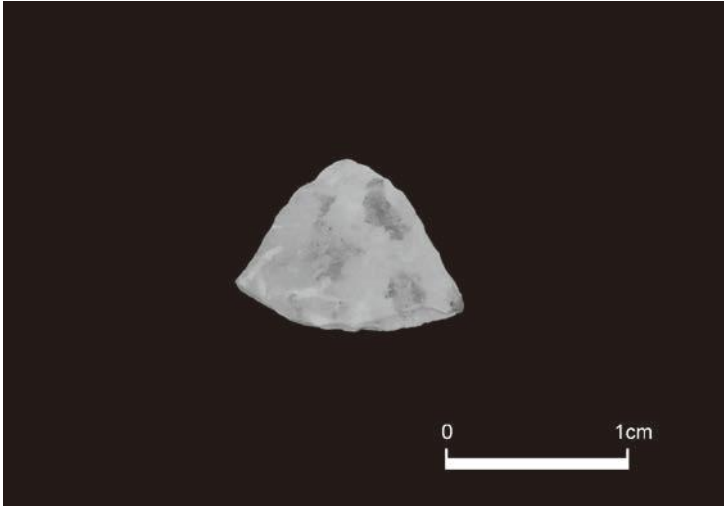
0224-2



0225-1



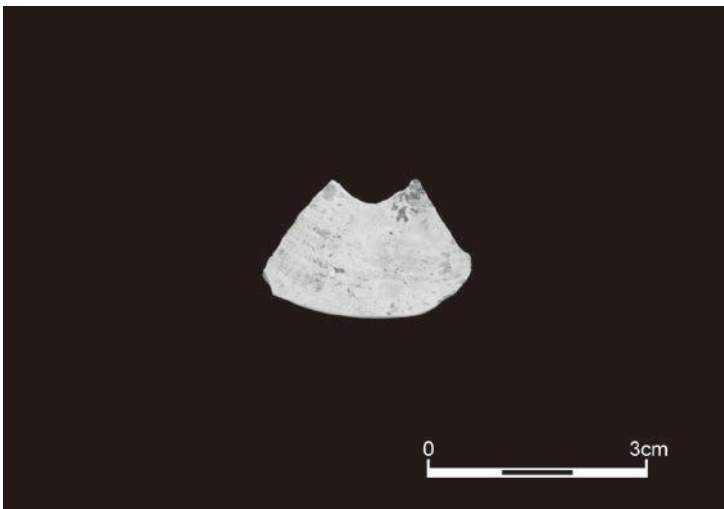
0225-2



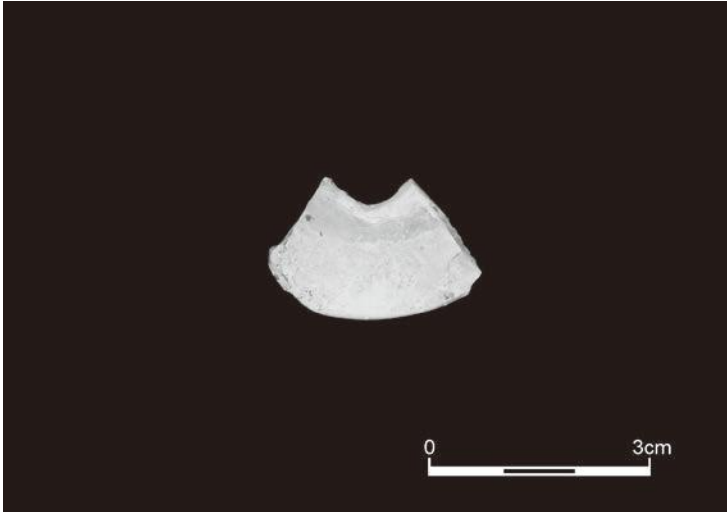
0226-1



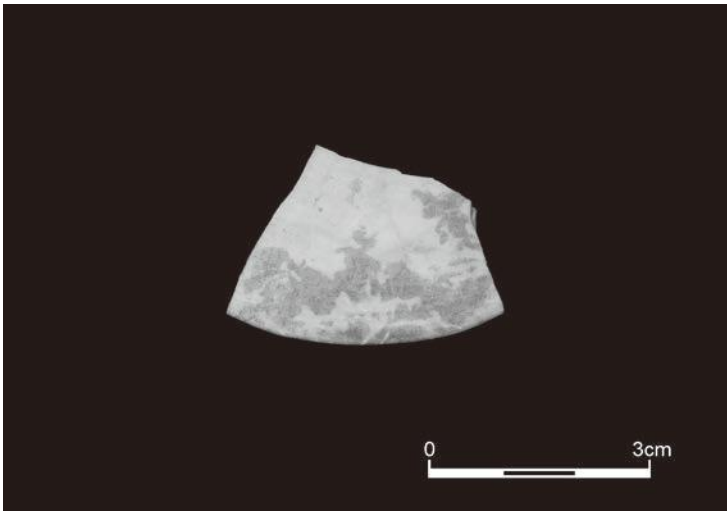
0226-2



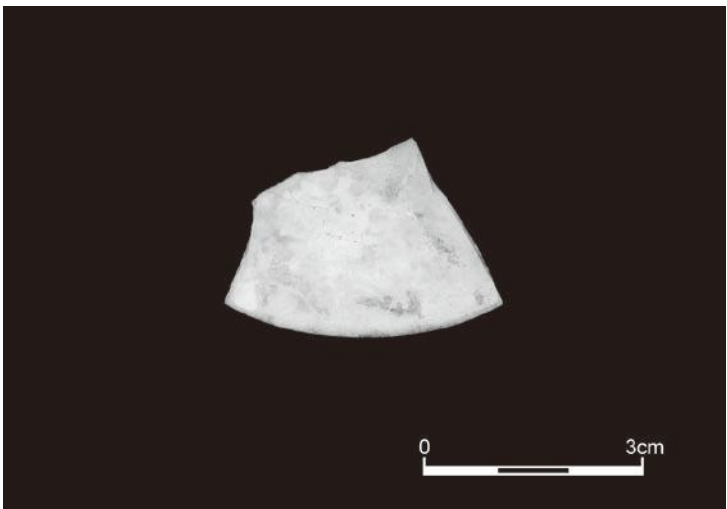
0301-1



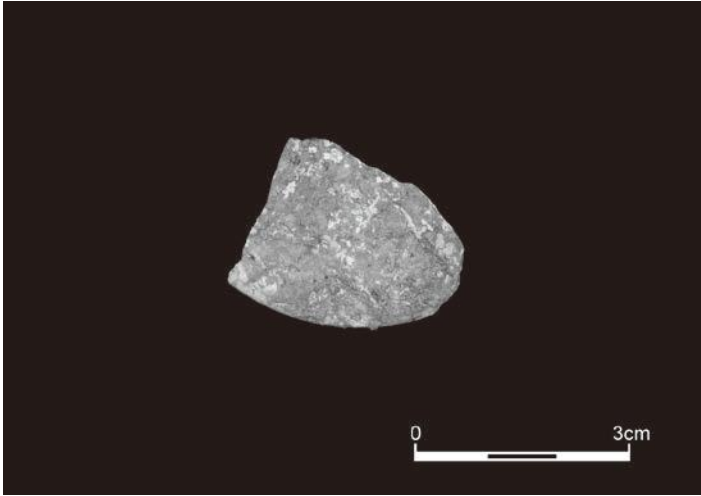
0301-2



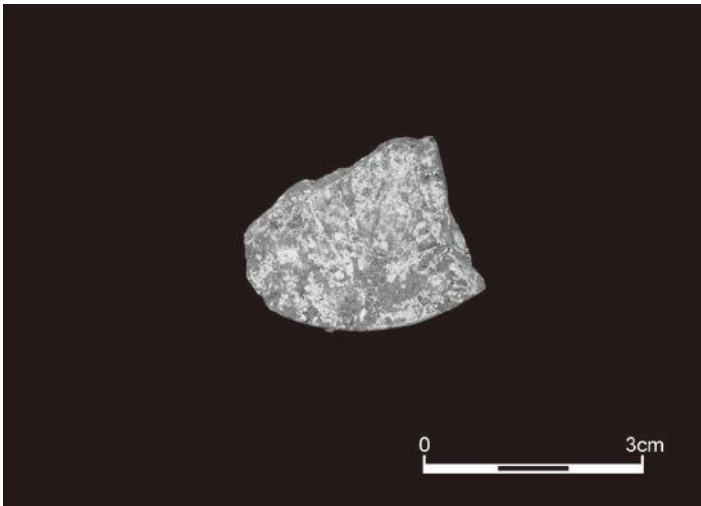
0302-1



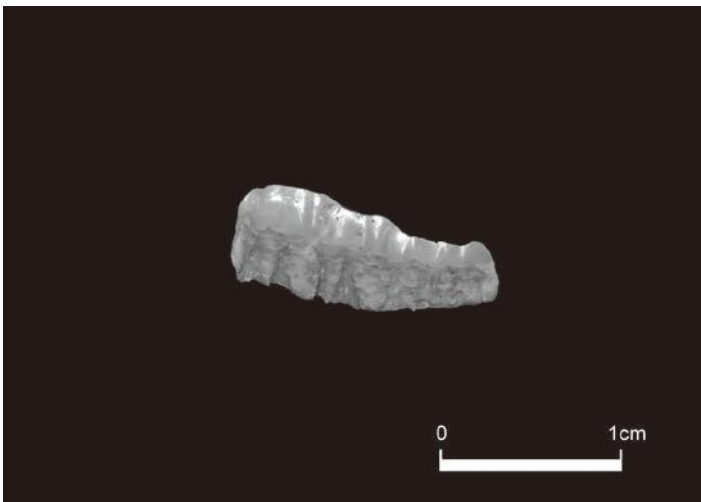
0302-2



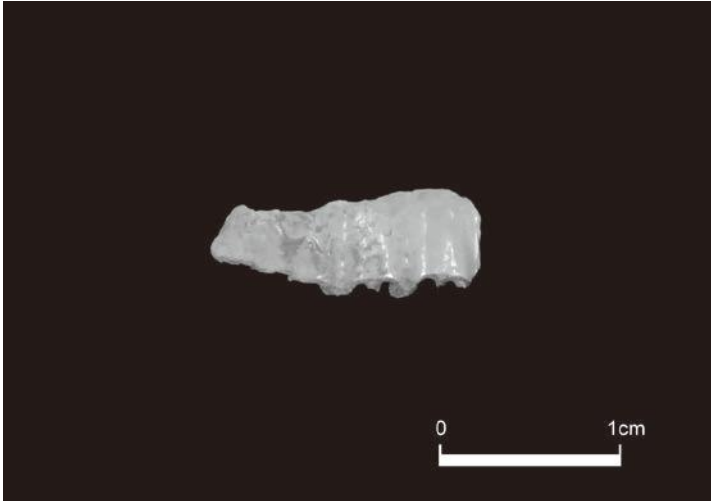
0303-1



0303-2



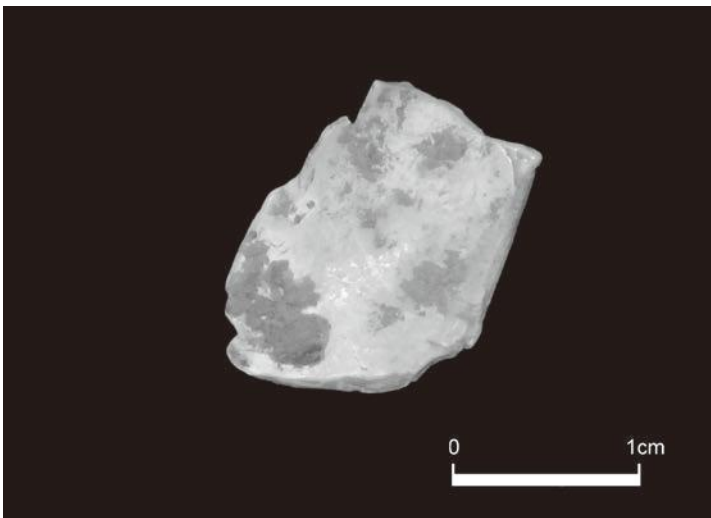
0304-1



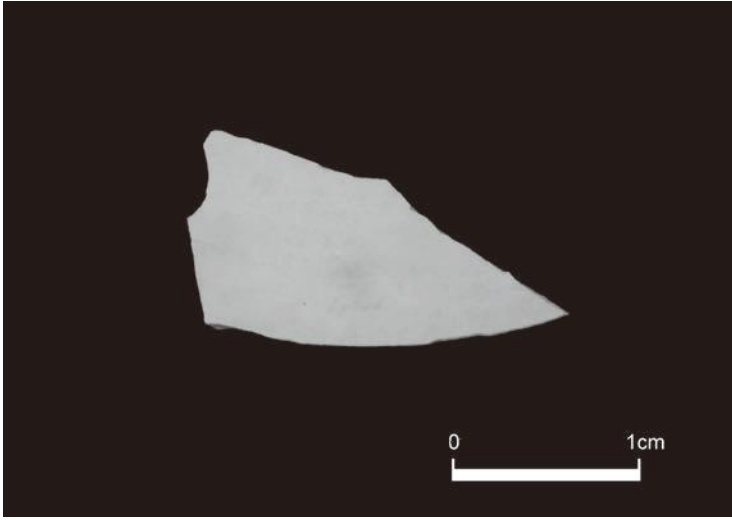
0304-2



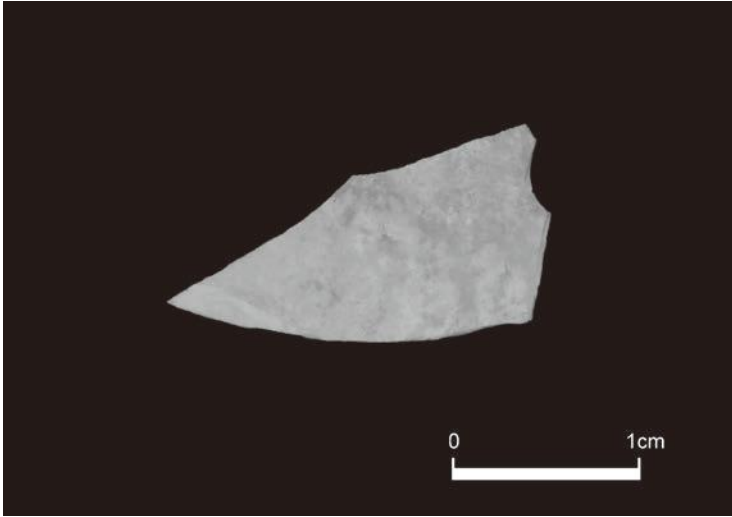
0305-1



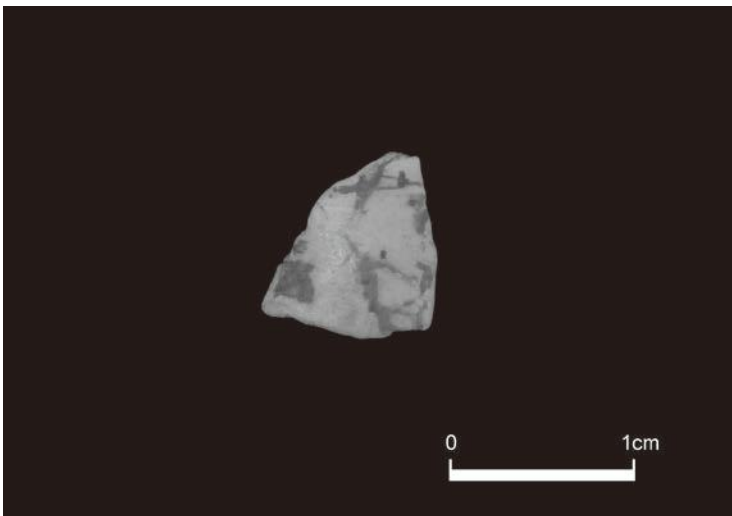
0305-2



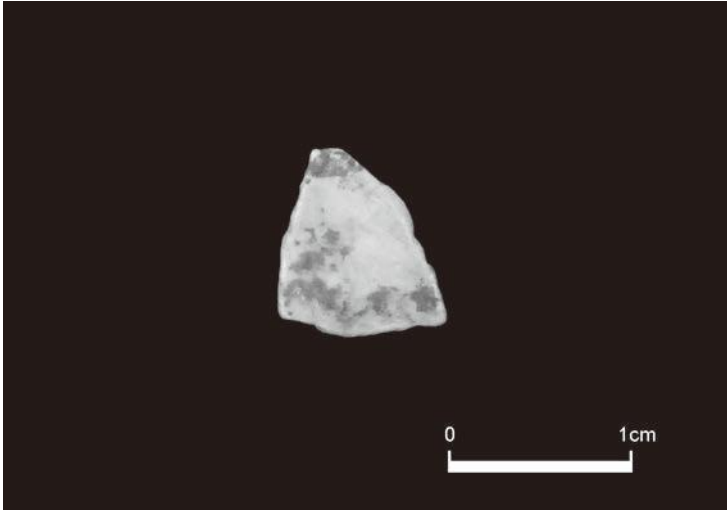
0306-1



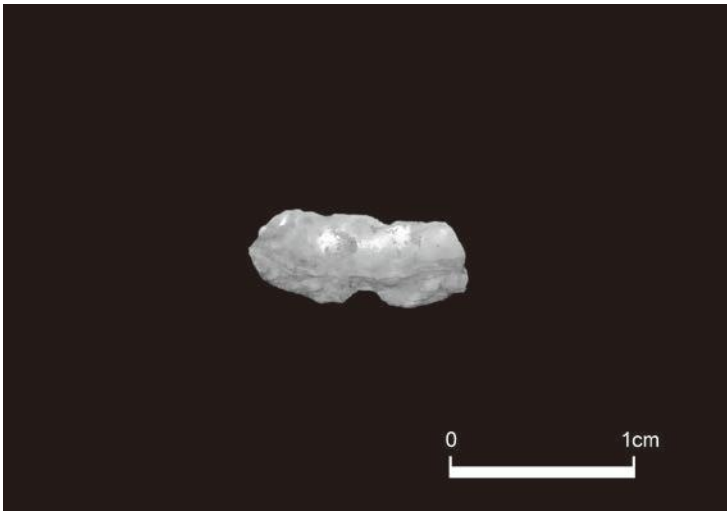
0306-2



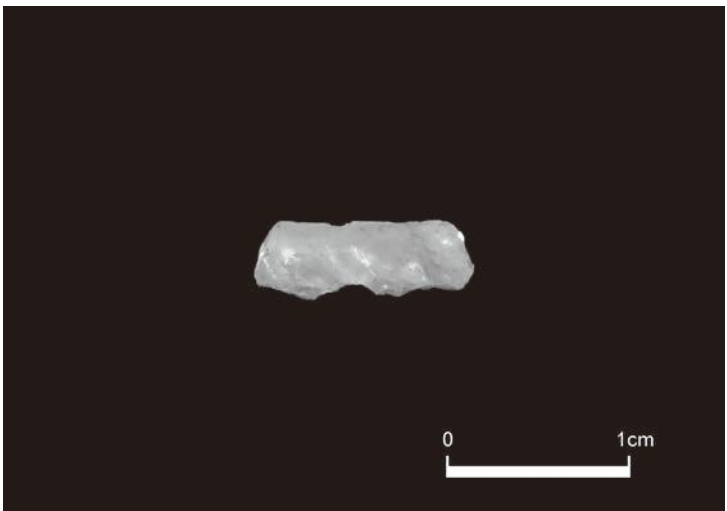
0307-1



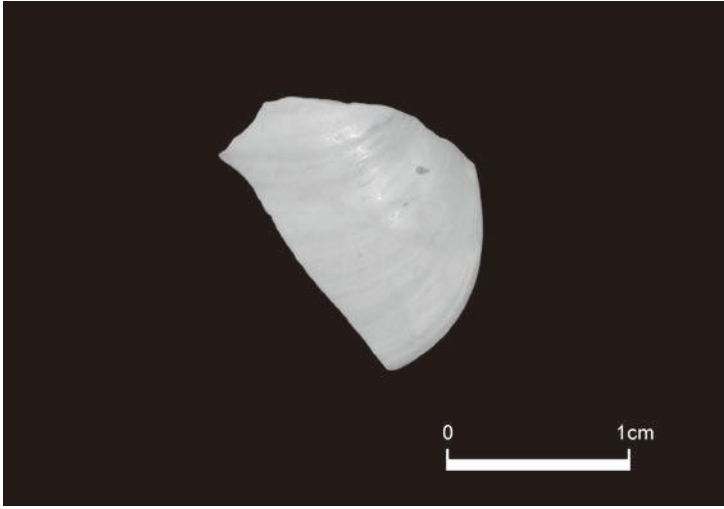
0307-2



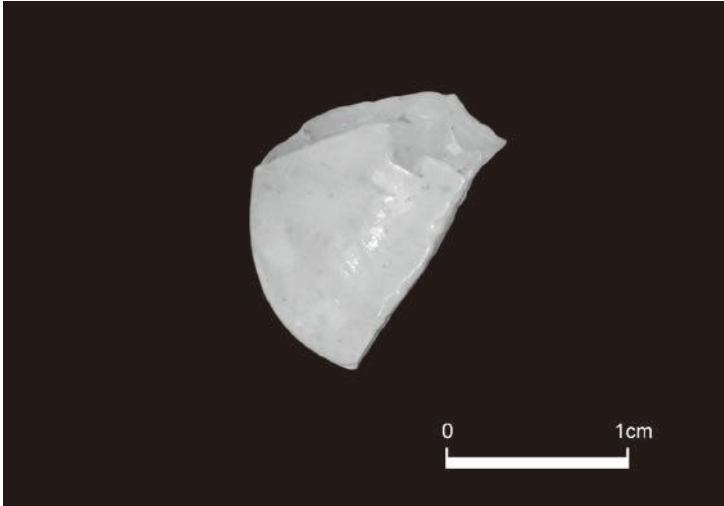
0308-1



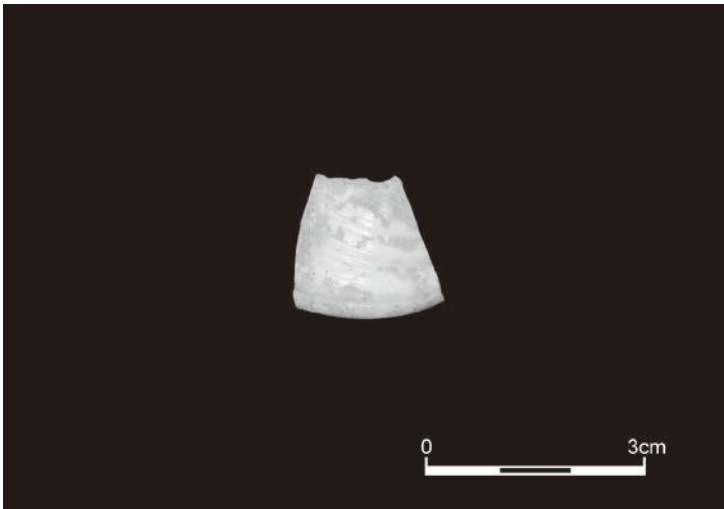
0308-2



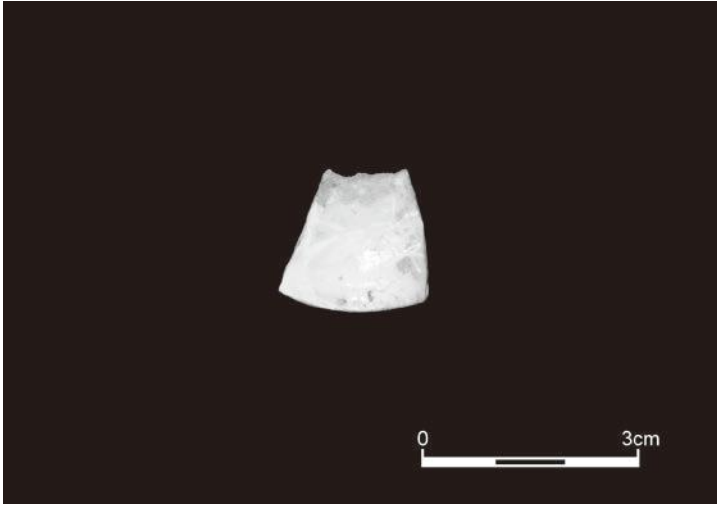
0309-1



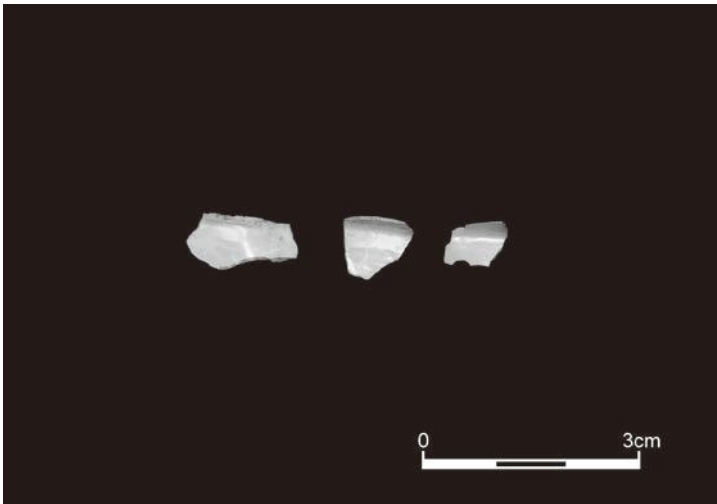
0309-2



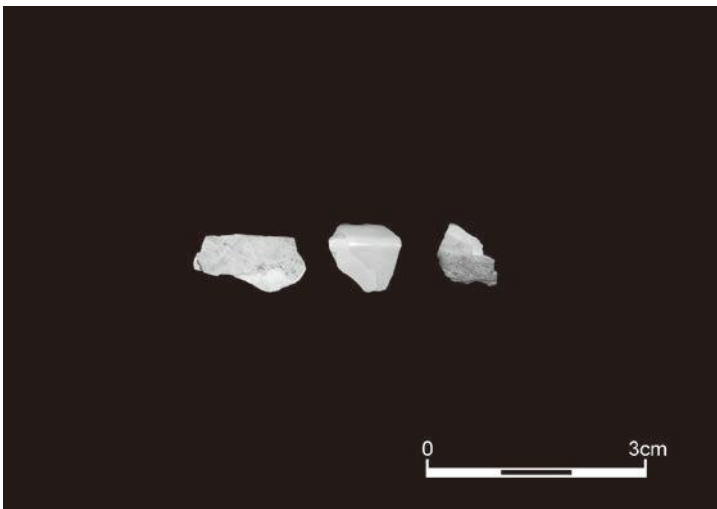
0310-1



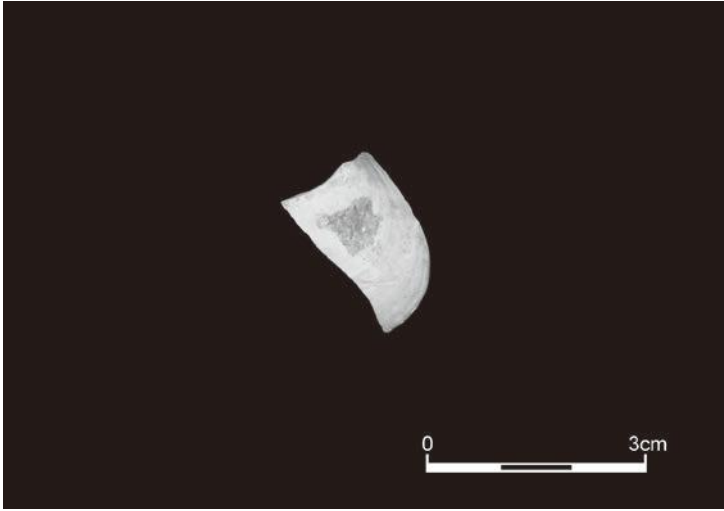
0310-2



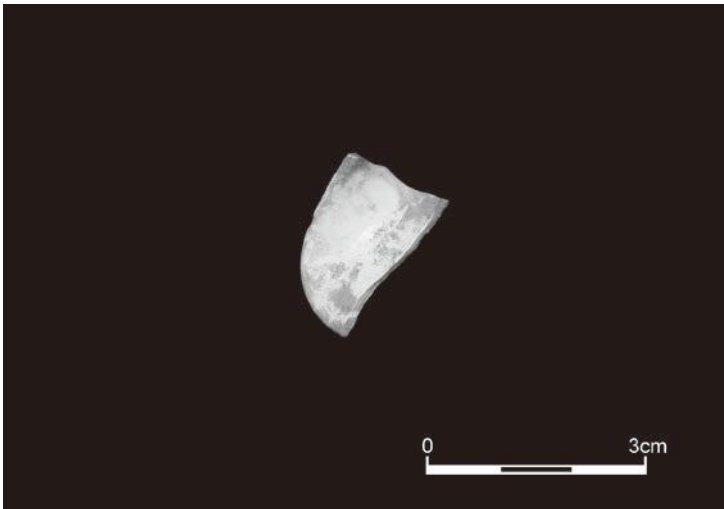
0311-1



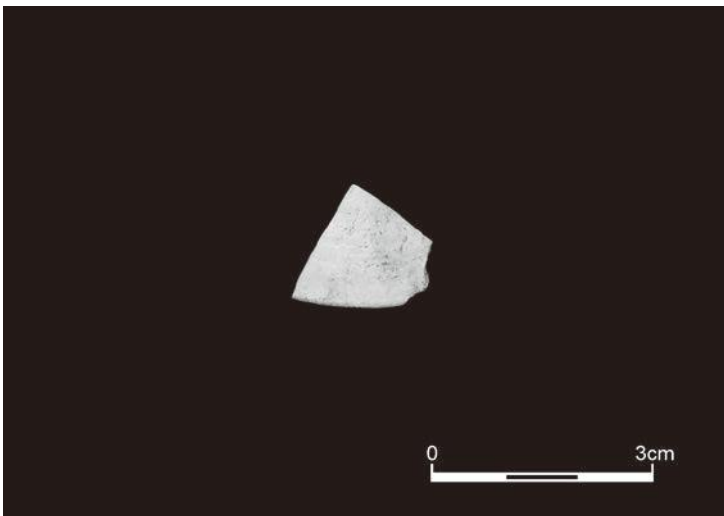
0311-2



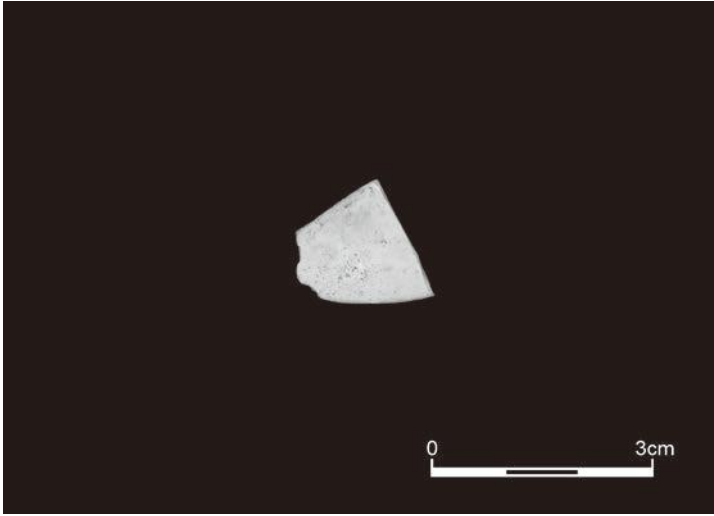
0312-1



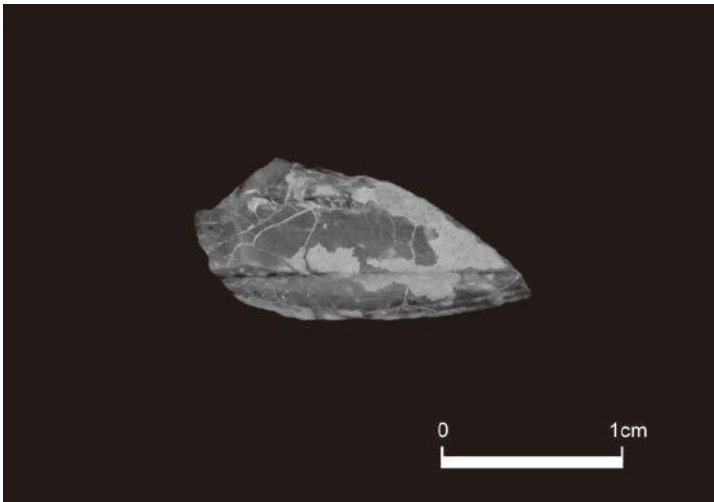
0312-2



0313-1



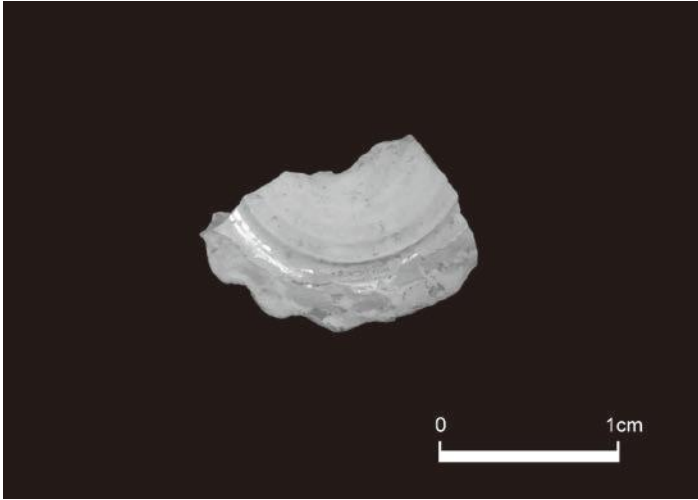
0313-2



0314-1



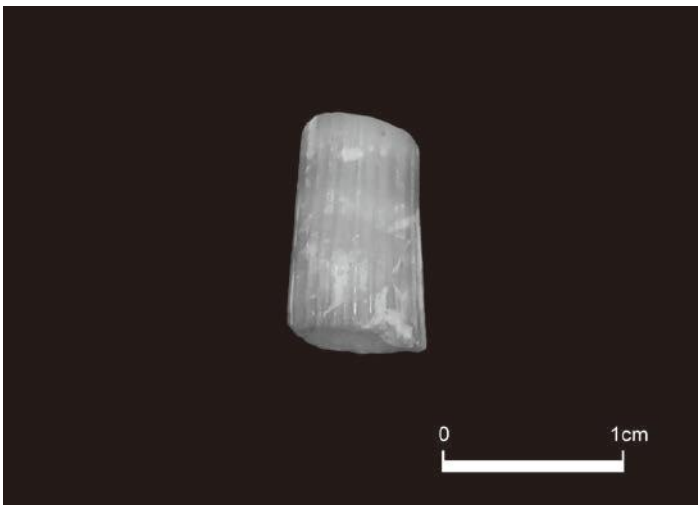
0314-2



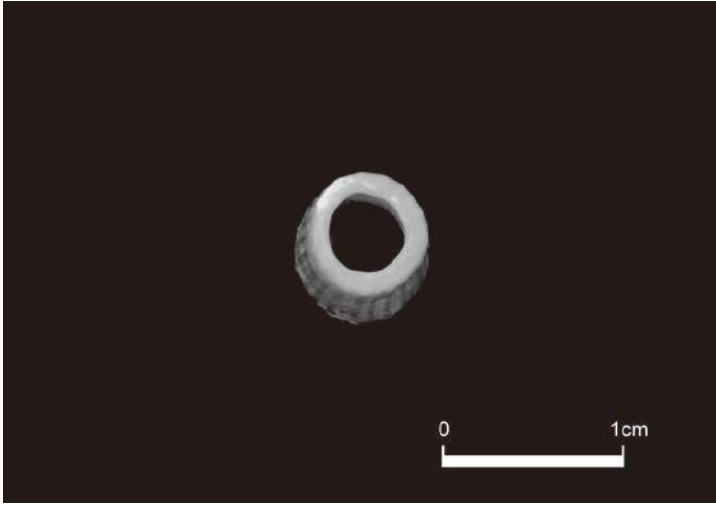
0315-1



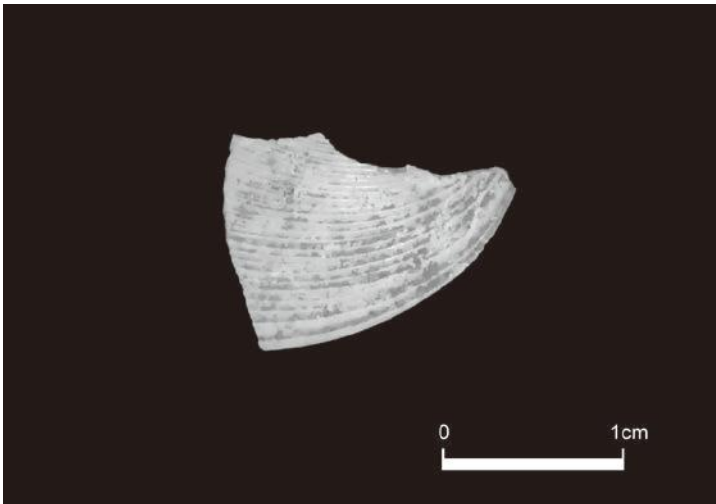
0315-2



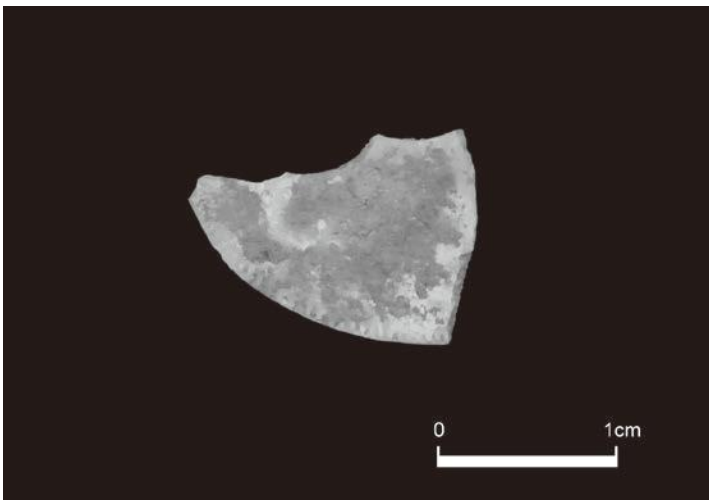
0316-1



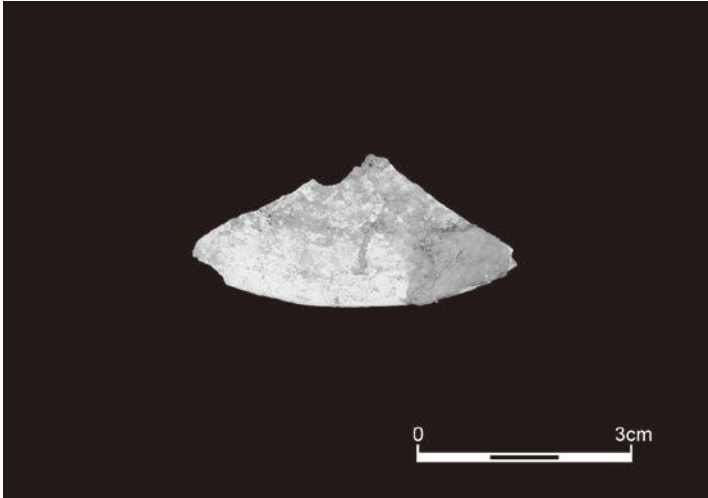
0316-2



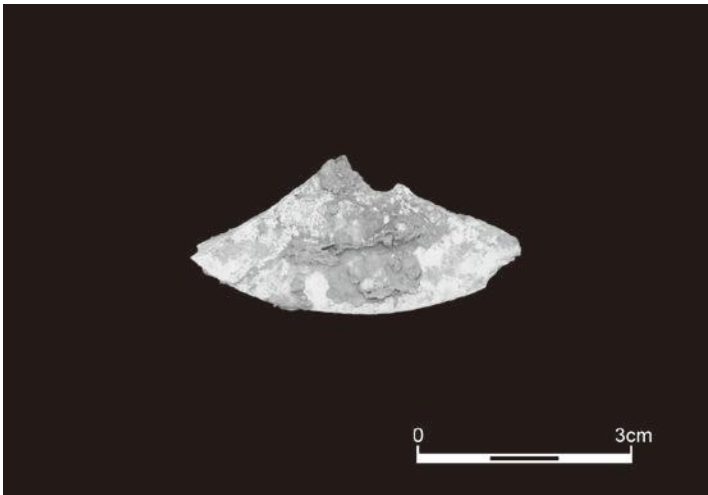
0317-1



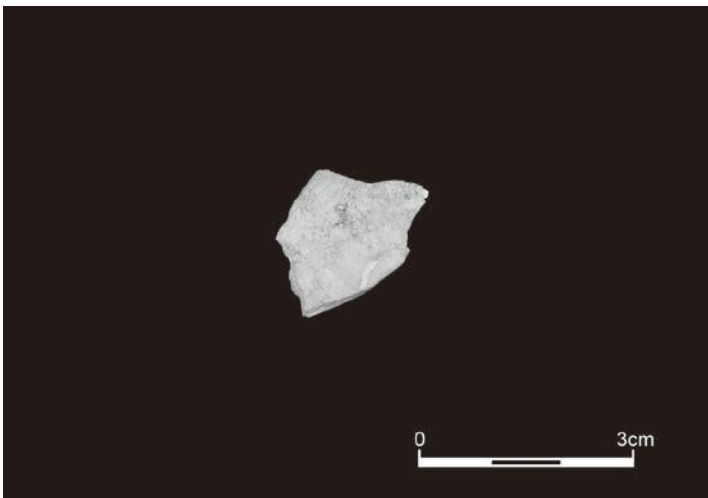
0317-2



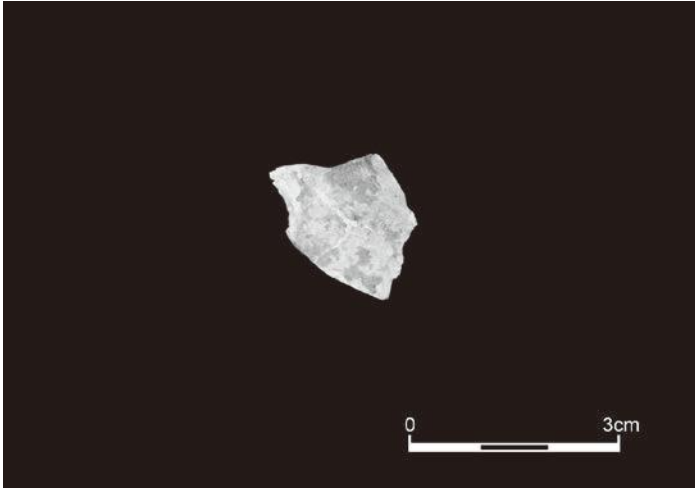
0318-1



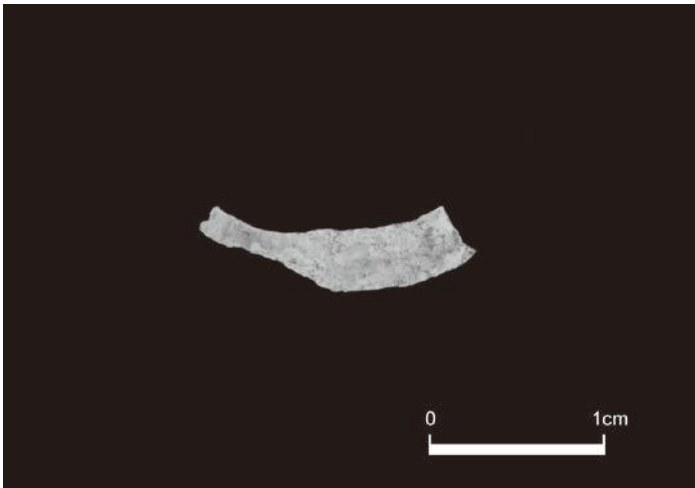
0318-2



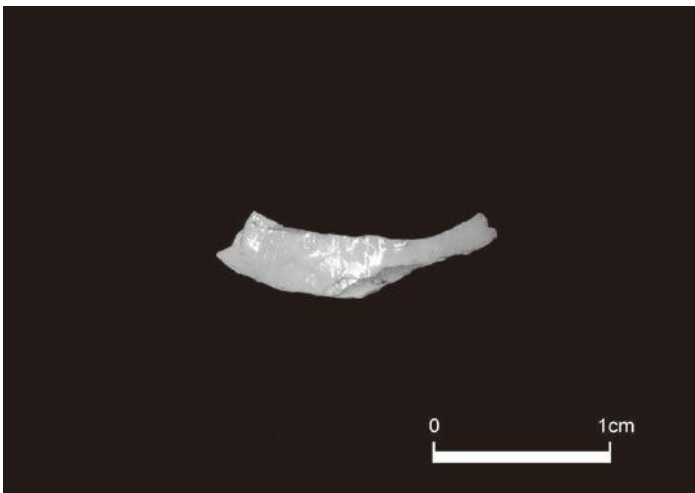
0319-1



0319-2



0320-1



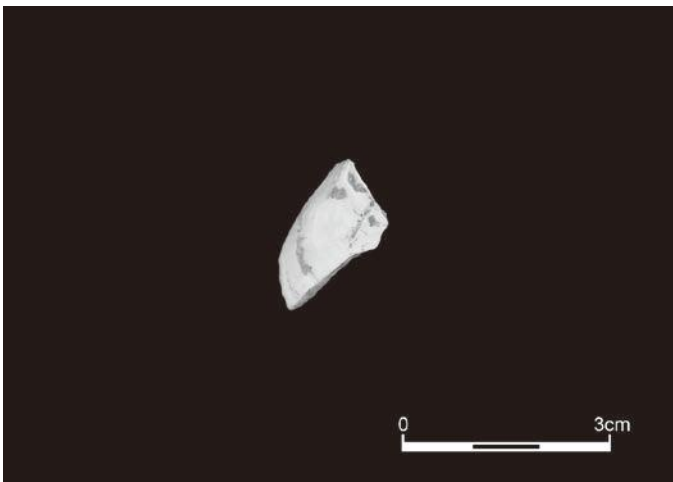
0320-2



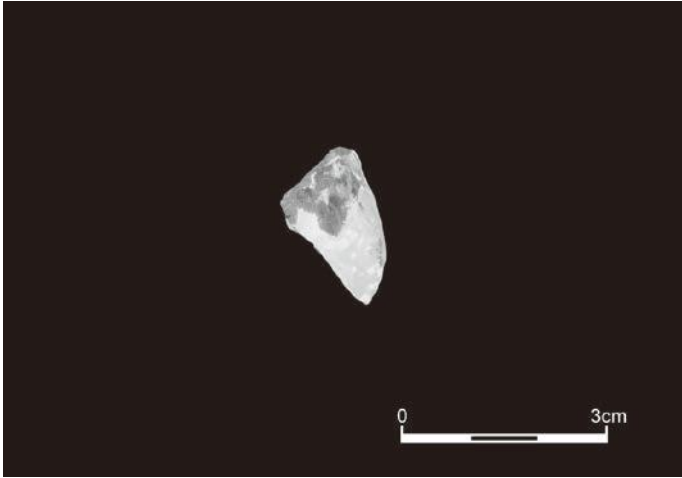
0321-1



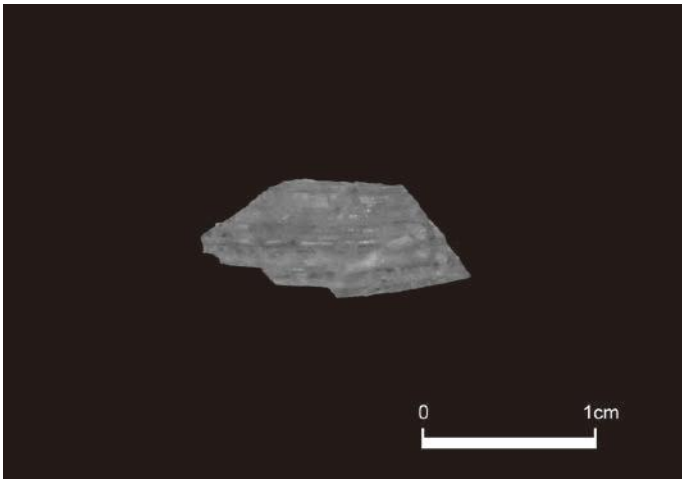
0321-2



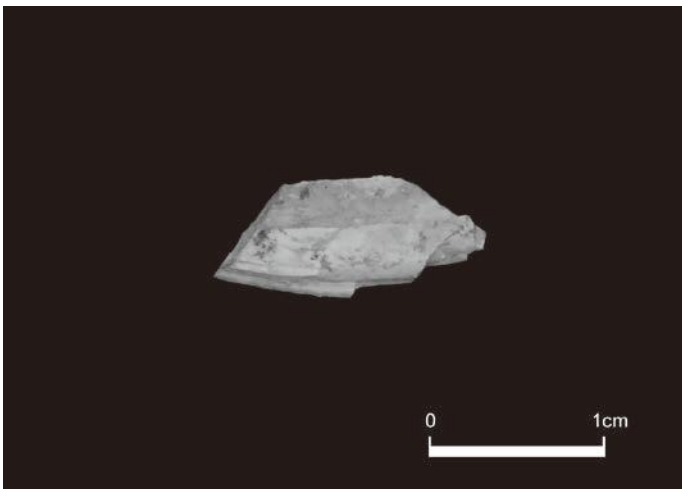
0322-1



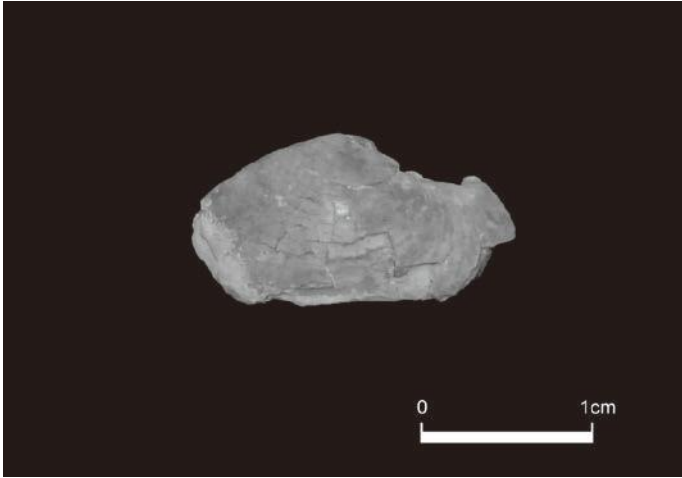
0322-2



0323-1



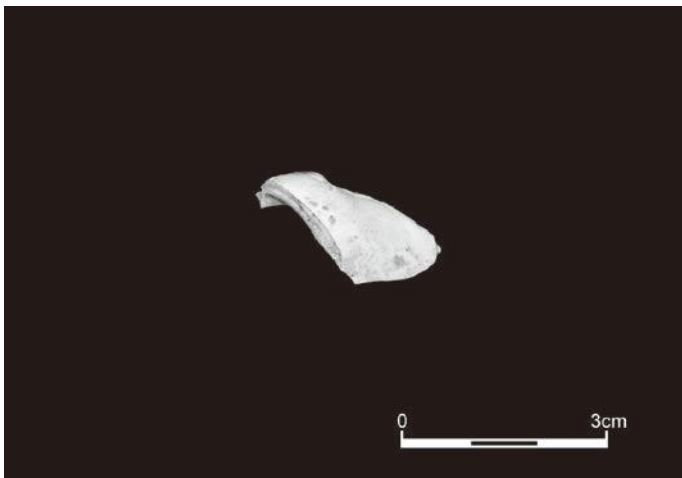
0323-2



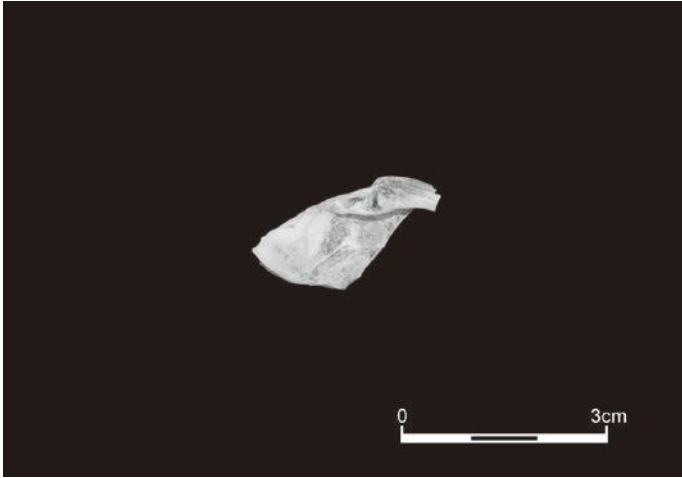
0324-1



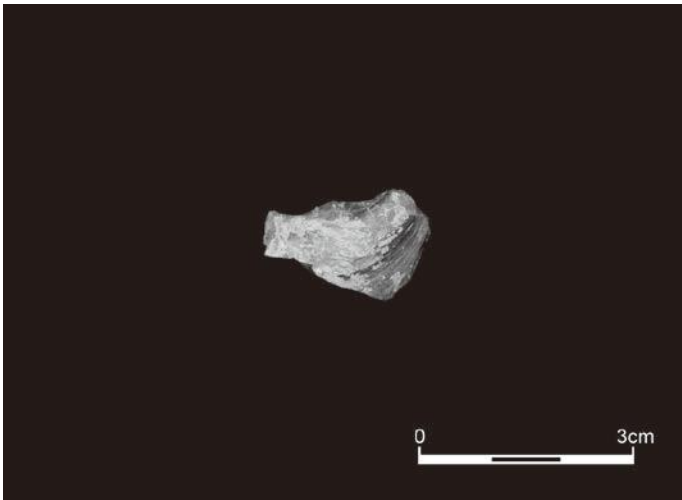
0324-2



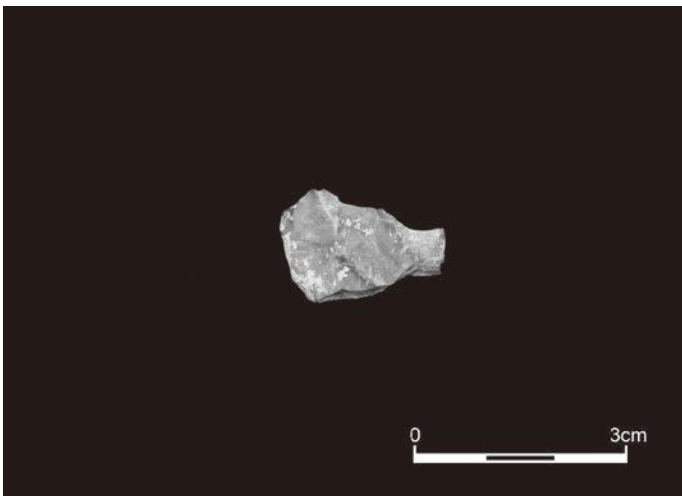
0325-1



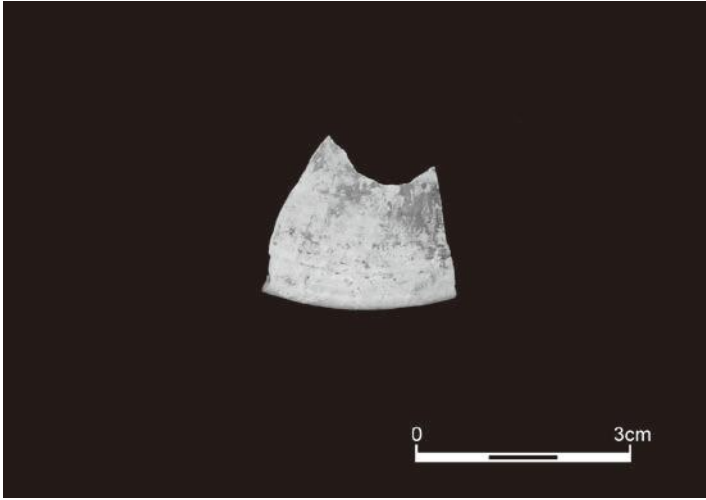
0325-2



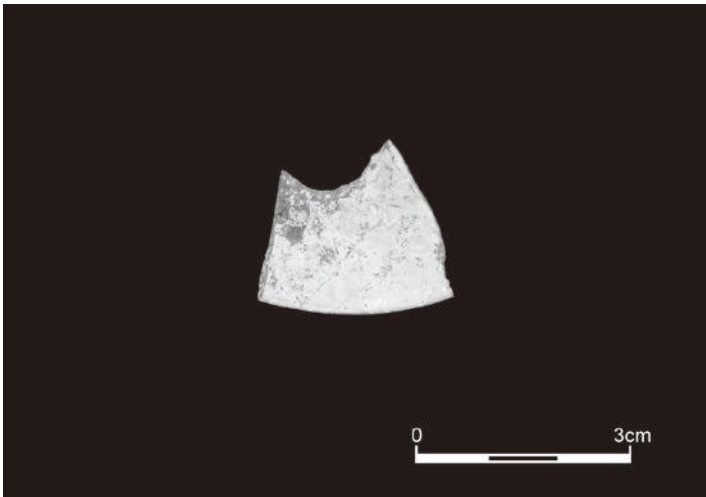
0326-1



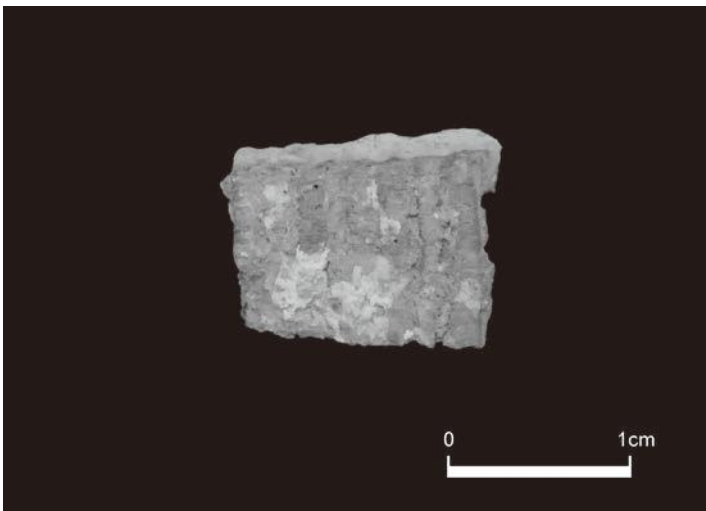
0326-2



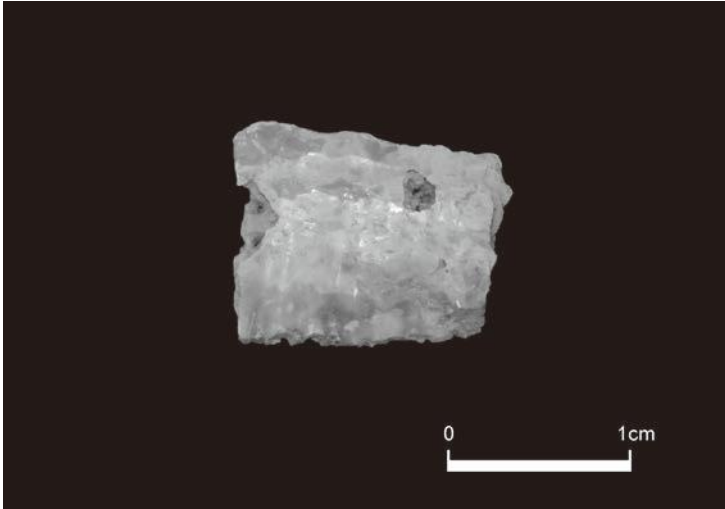
0327-1



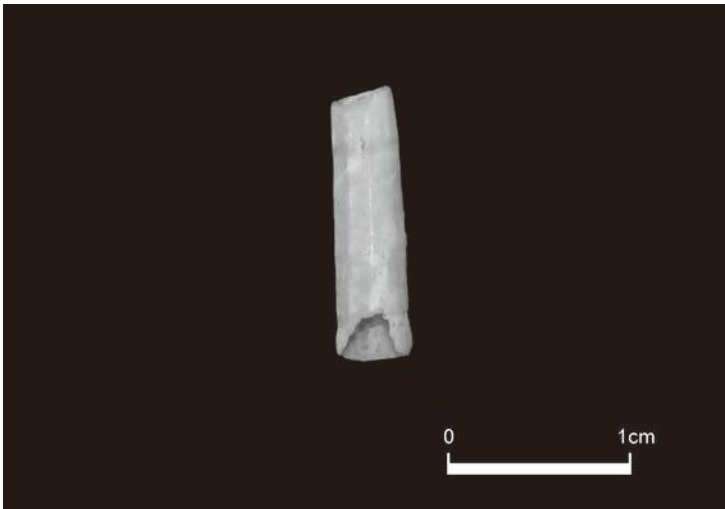
0327-2



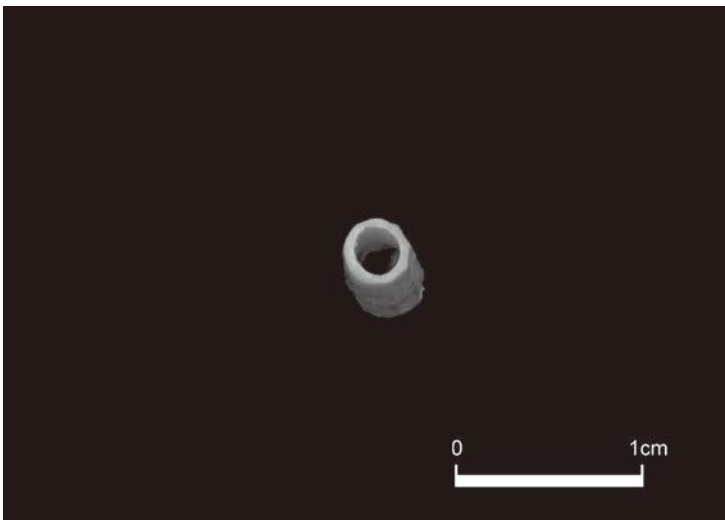
0328-1



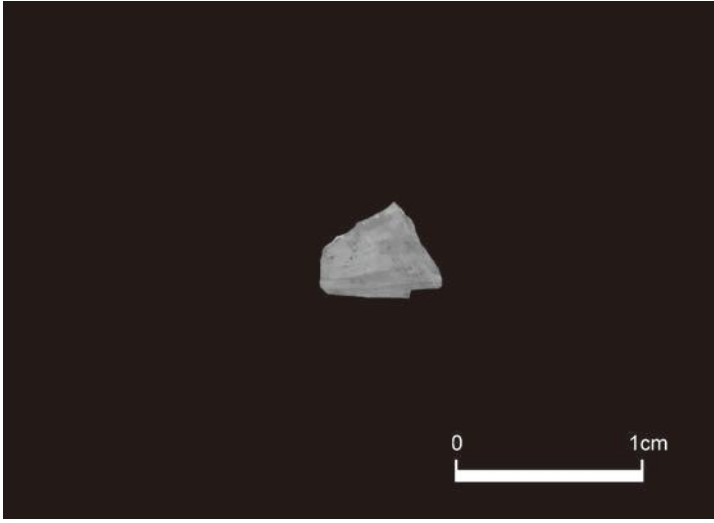
0328-2



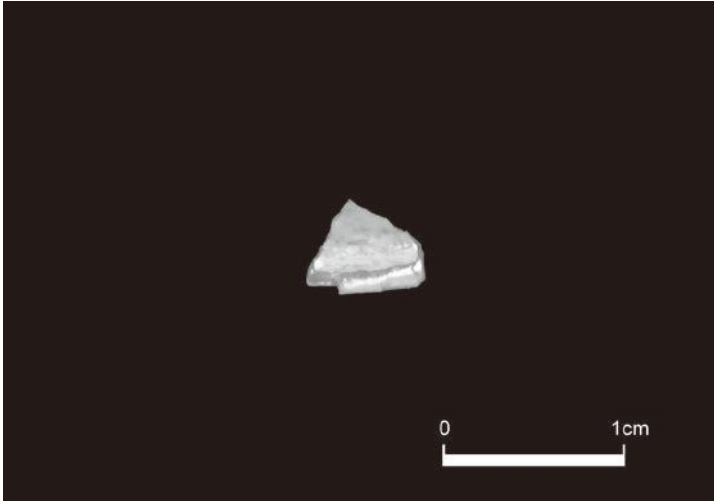
0329-1



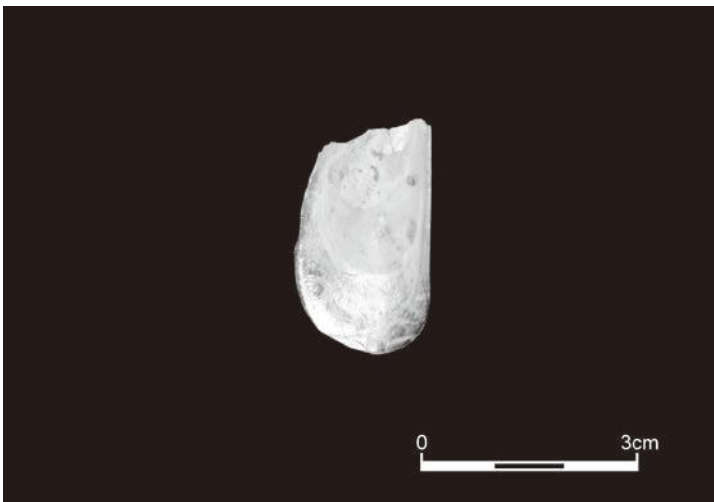
0329-2



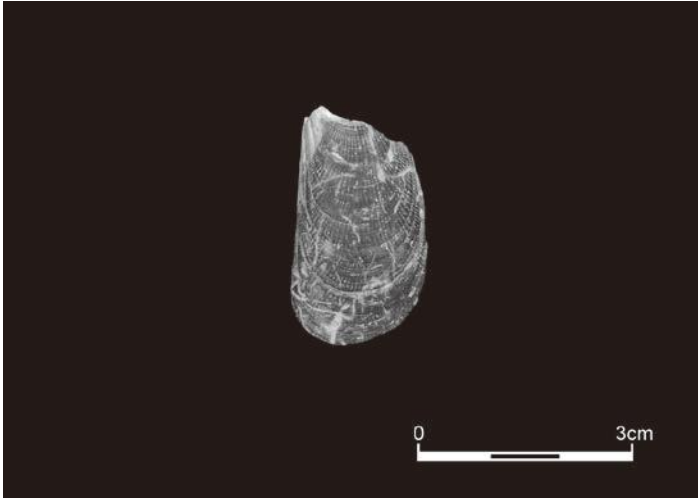
0330-1



0330-2



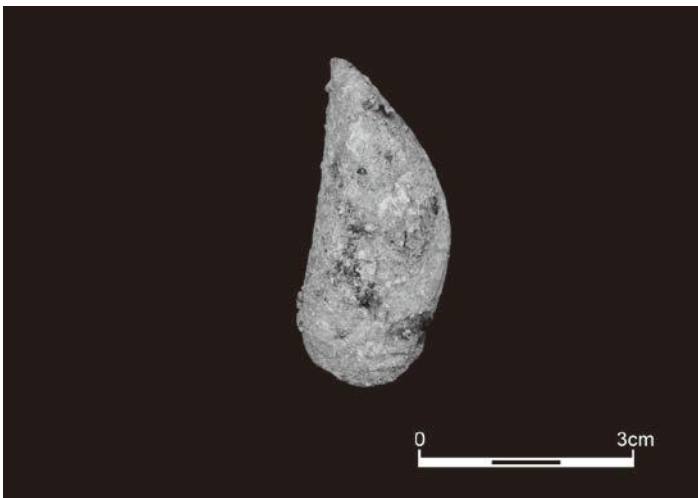
0331-1



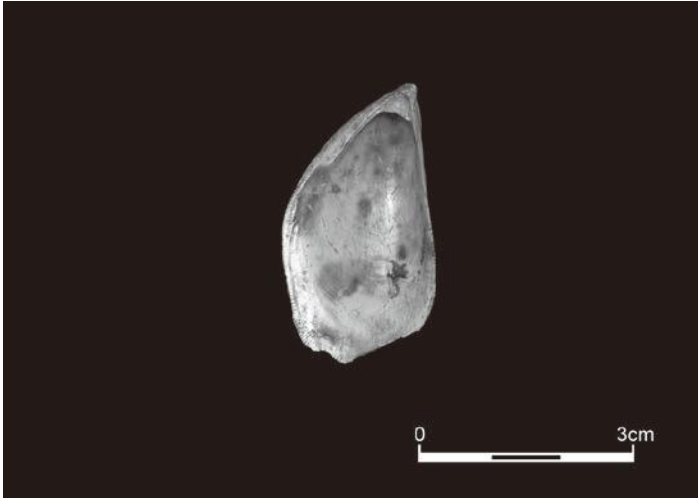
0331-2



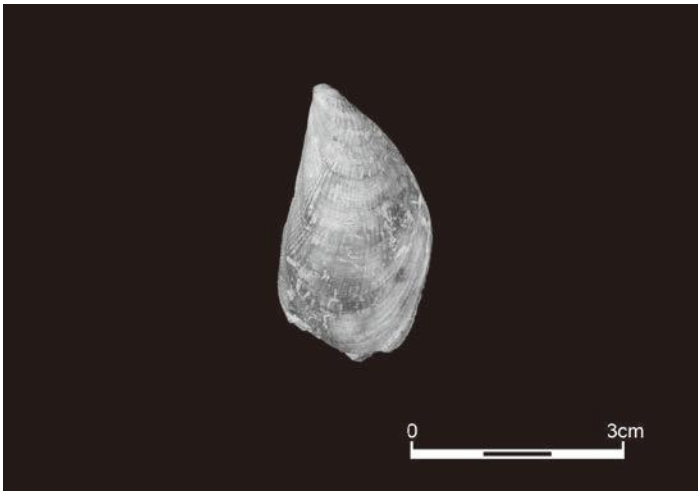
0332-1



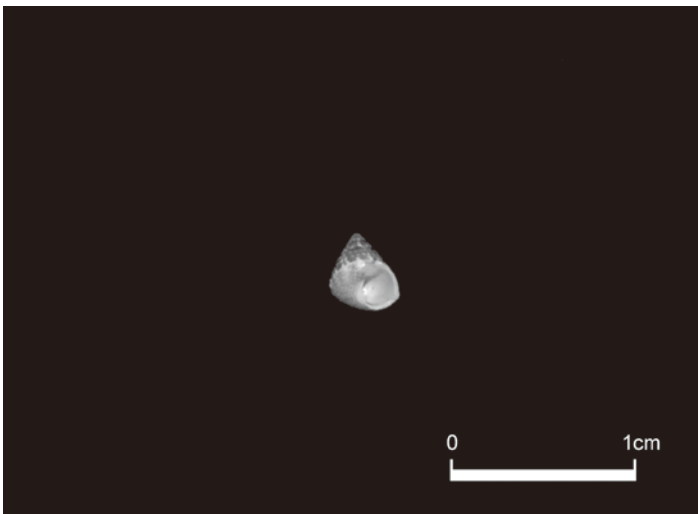
0332-2



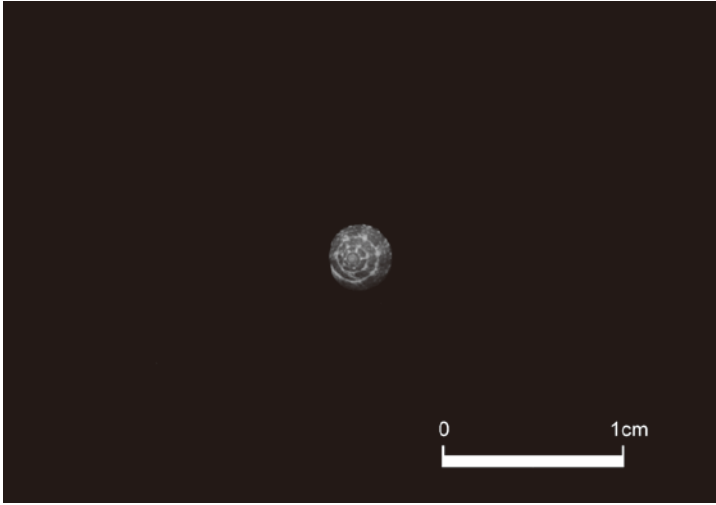
0333-1



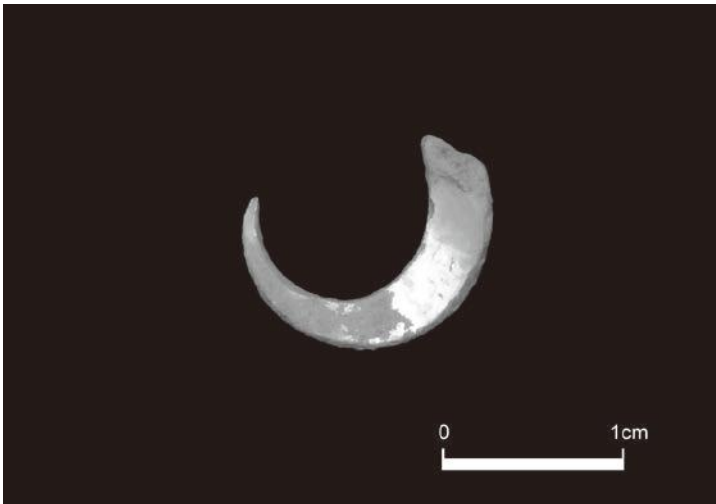
0333-2



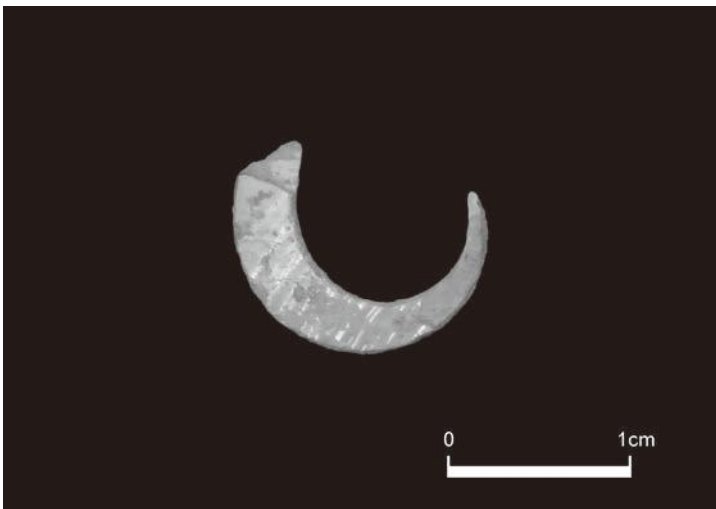
0334-1



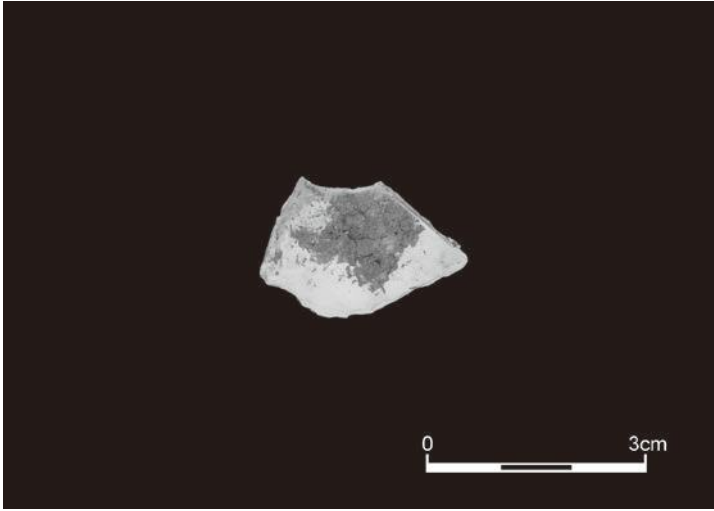
0334-2



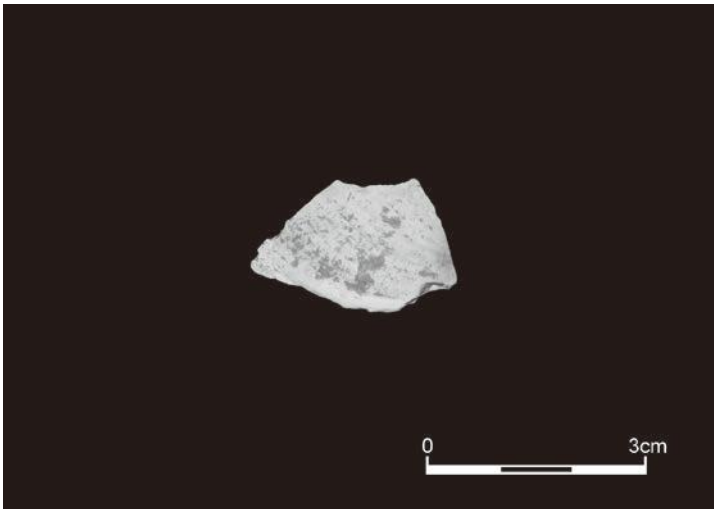
0335-1



0335-2



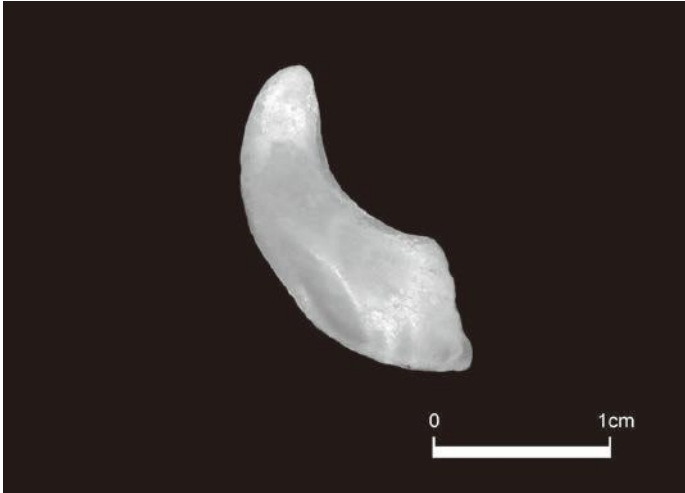
0401-1



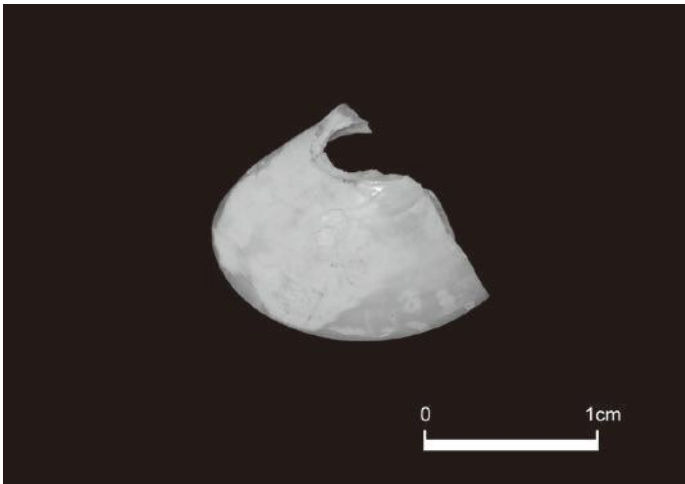
0401-2



0402-1



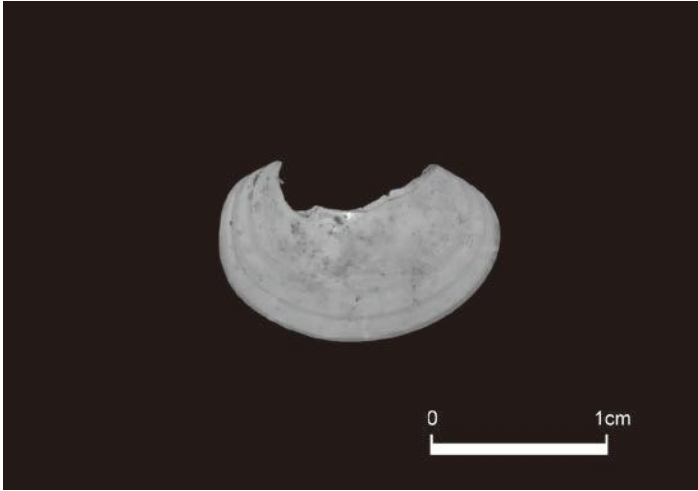
0402-1



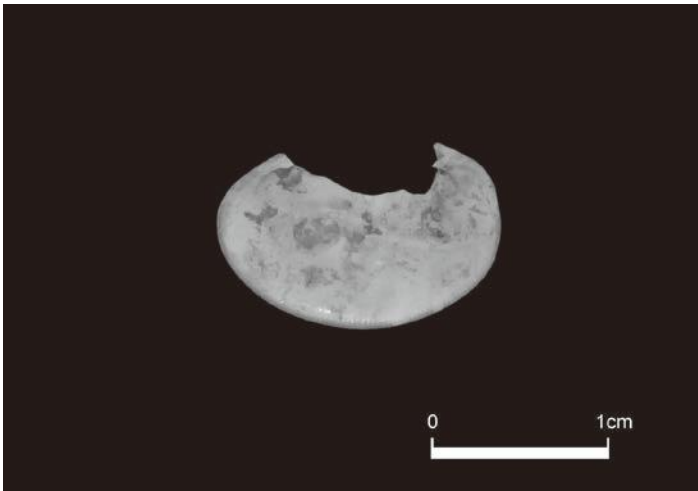
0403-1



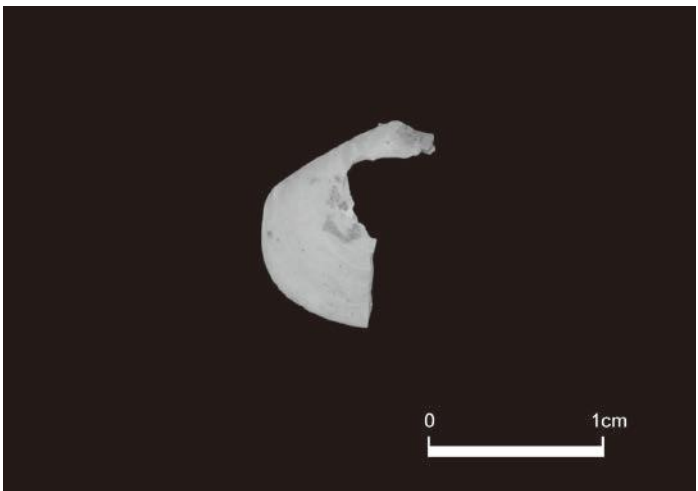
0403-2



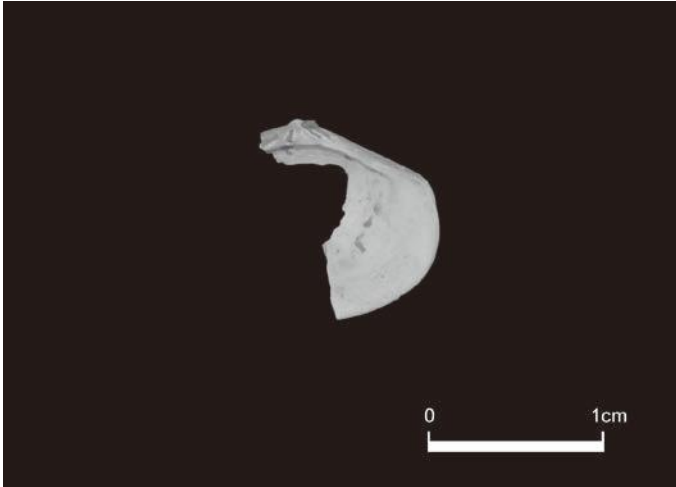
0404-1



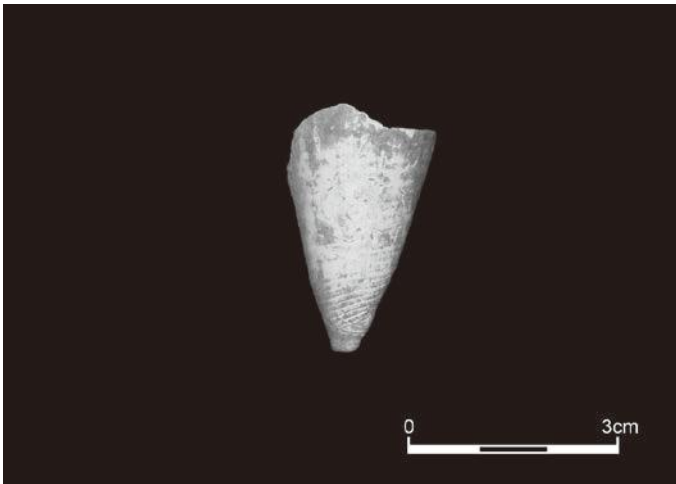
0404-2



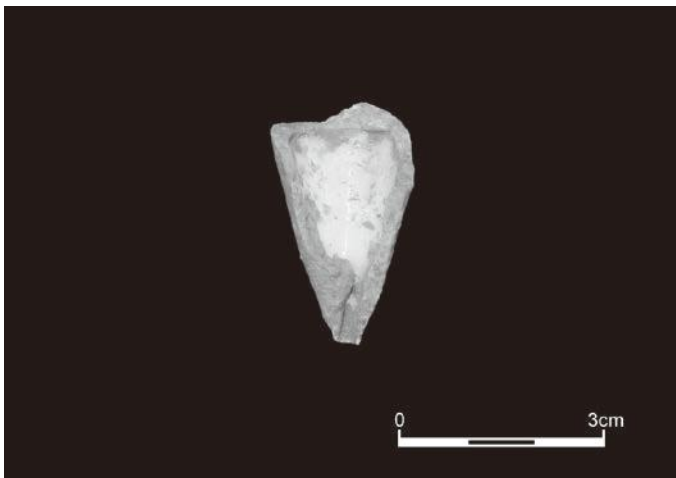
0405-1



0405-2



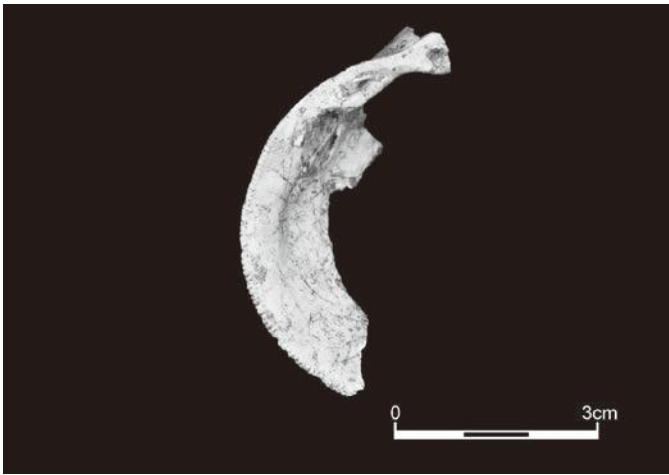
0406-1



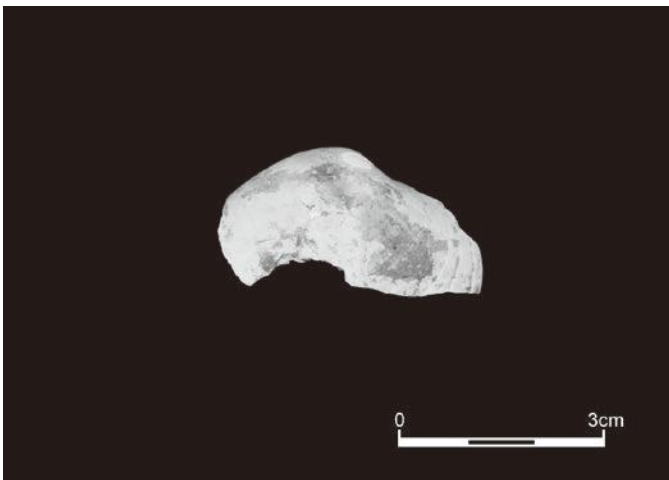
0406-2



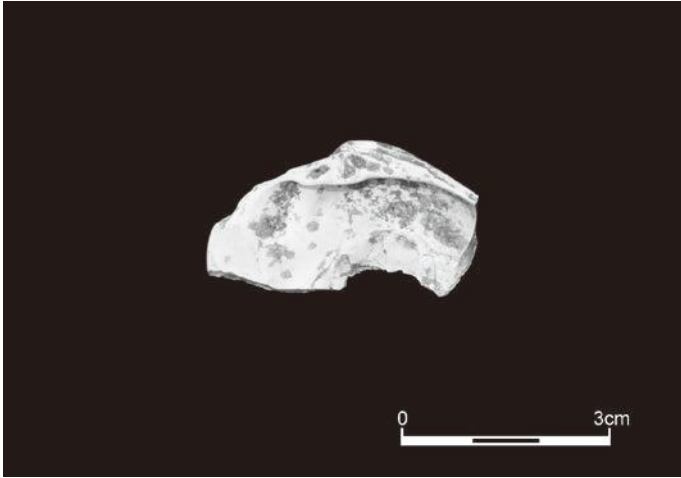
0501-1



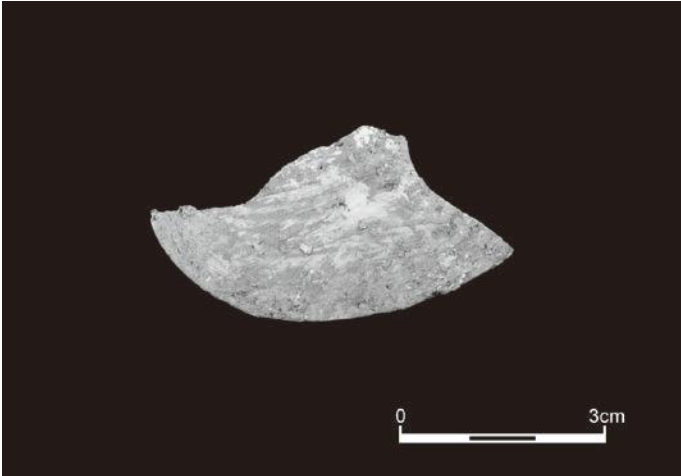
0501-2



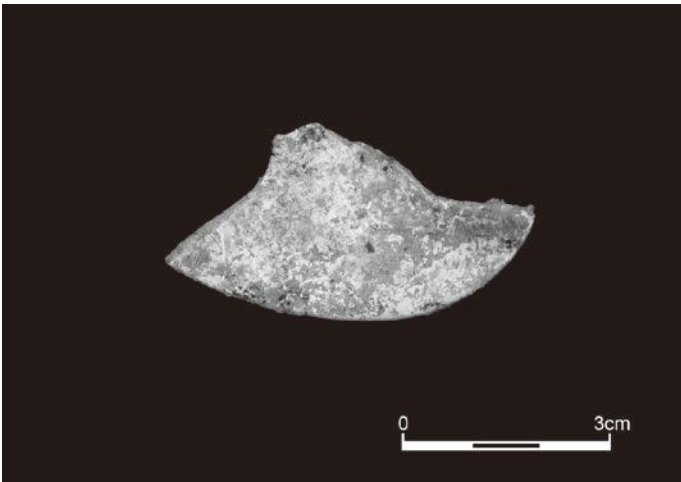
0502-1



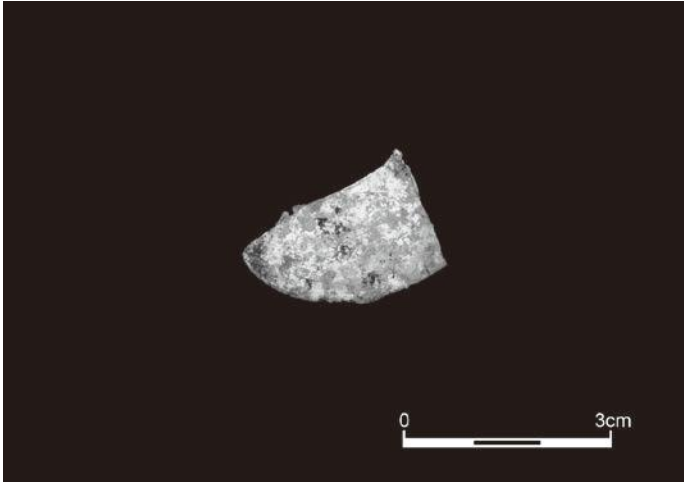
0502-2



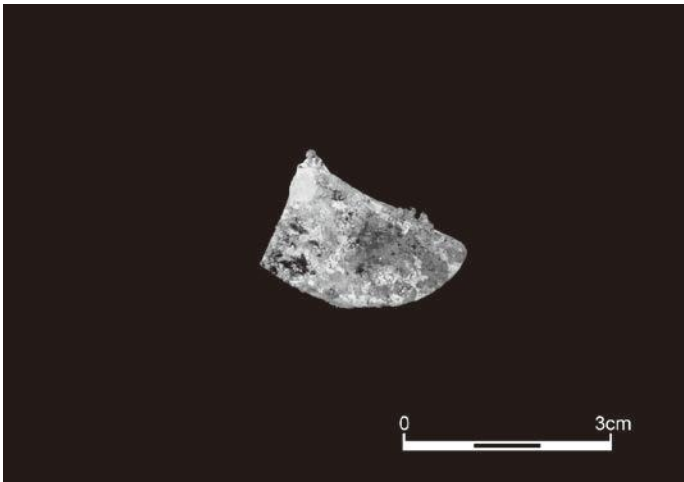
0503-1



0503-2



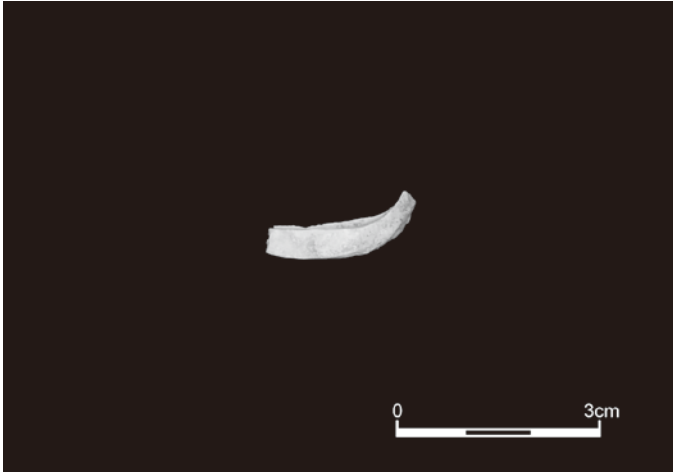
0504-1



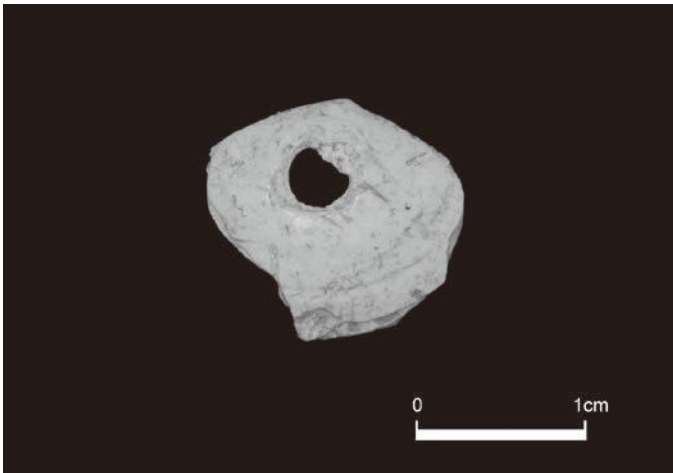
0504-2



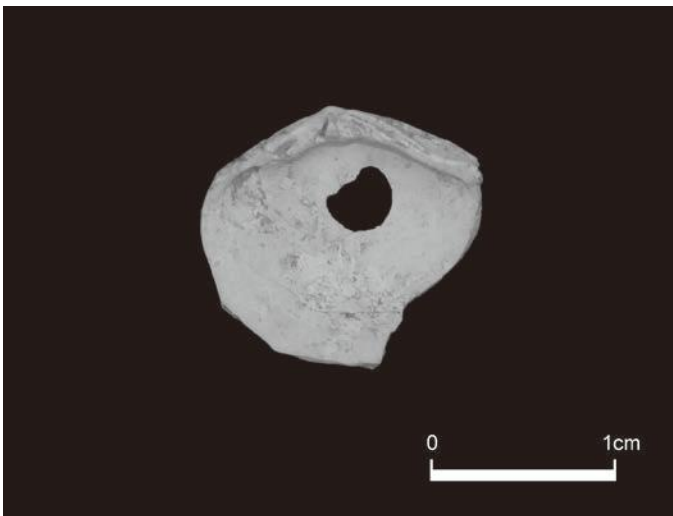
0505-1



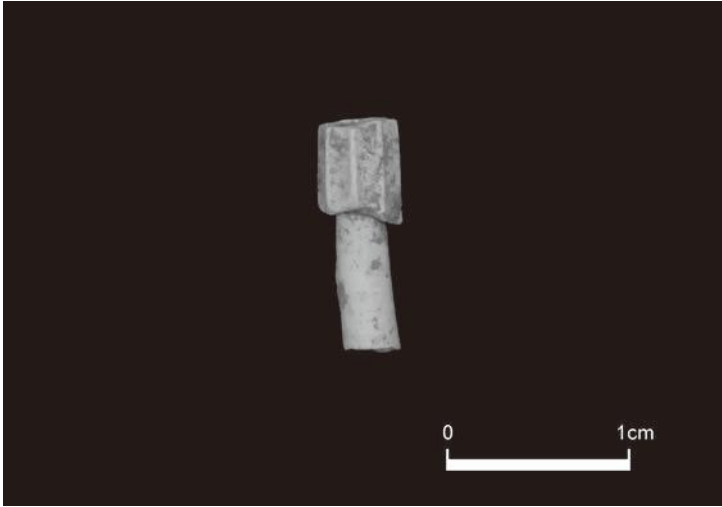
0505-2



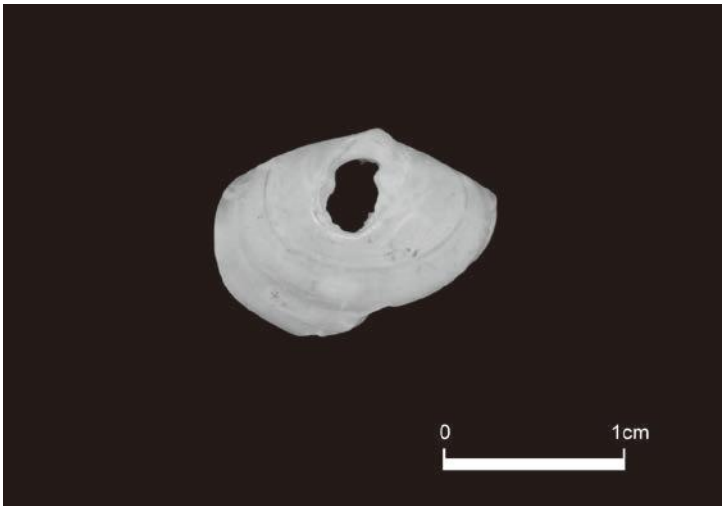
0506-1



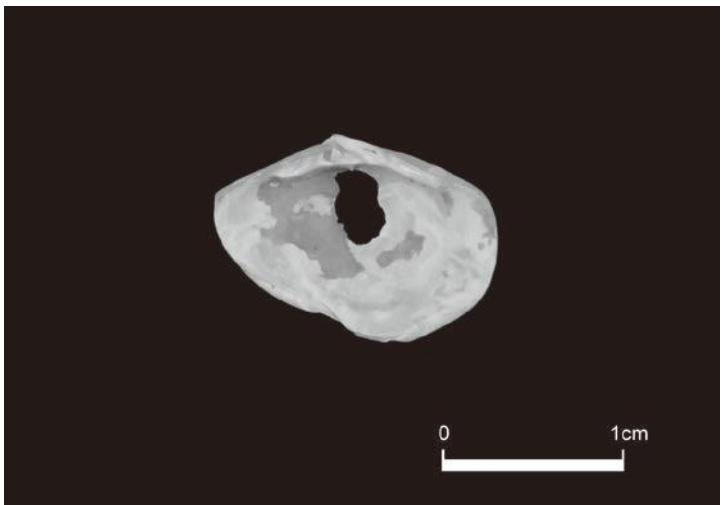
0506-2



0507



0508-1



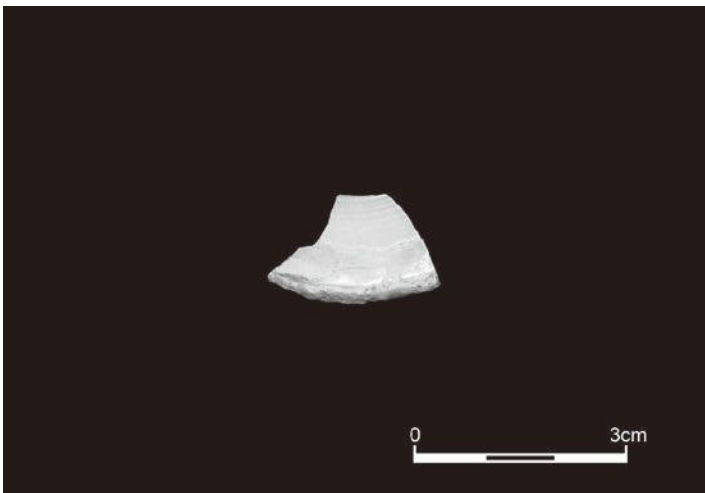
0508-2



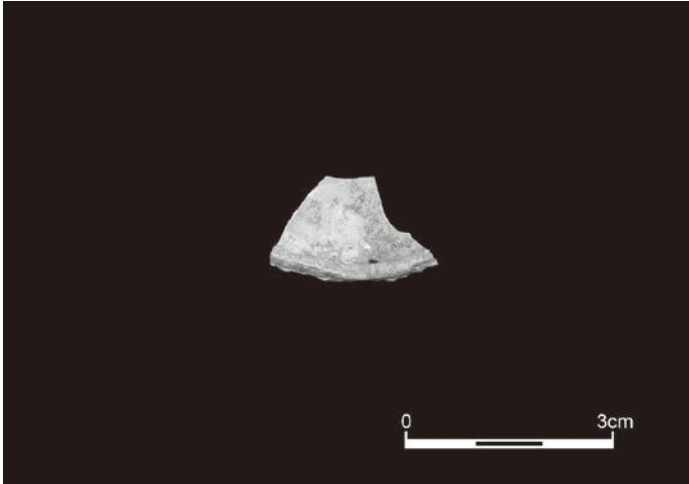
0509-1



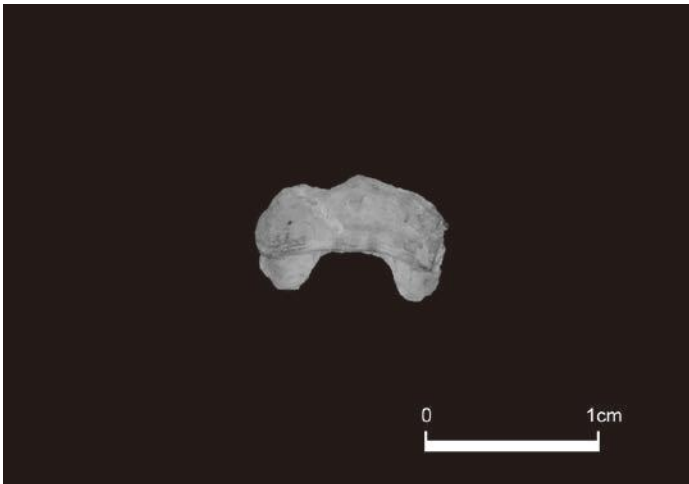
0509-2



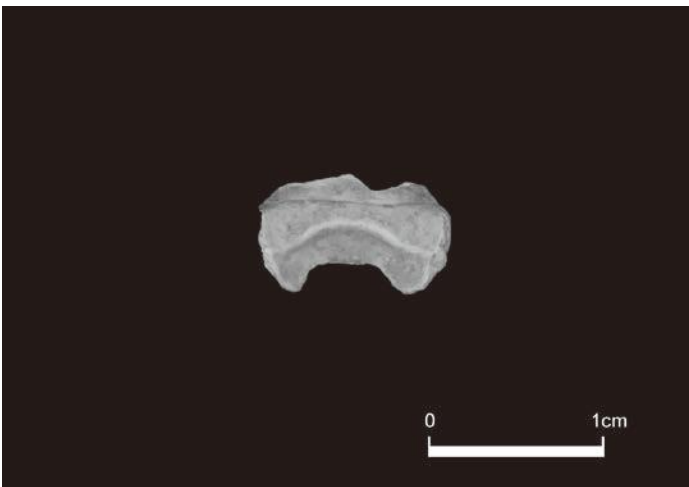
0510-1



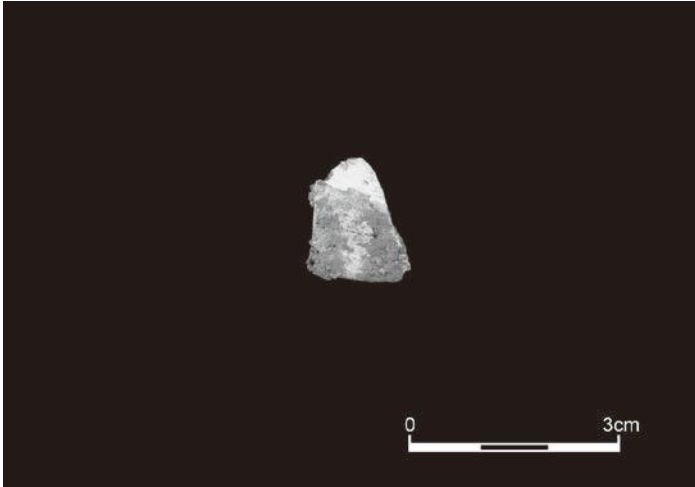
0510-2



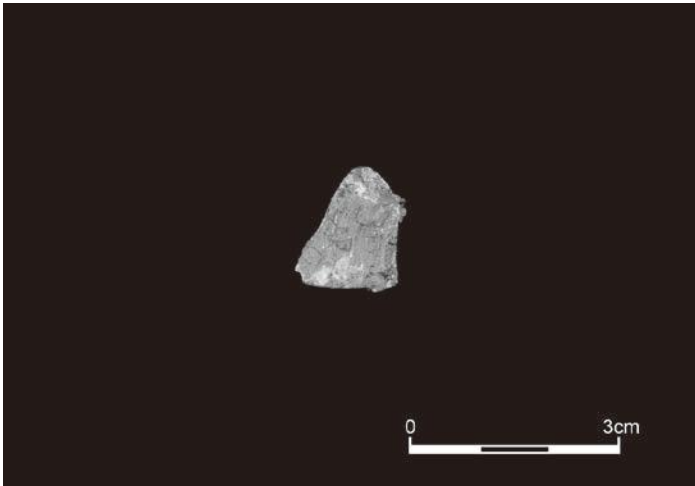
0511-1



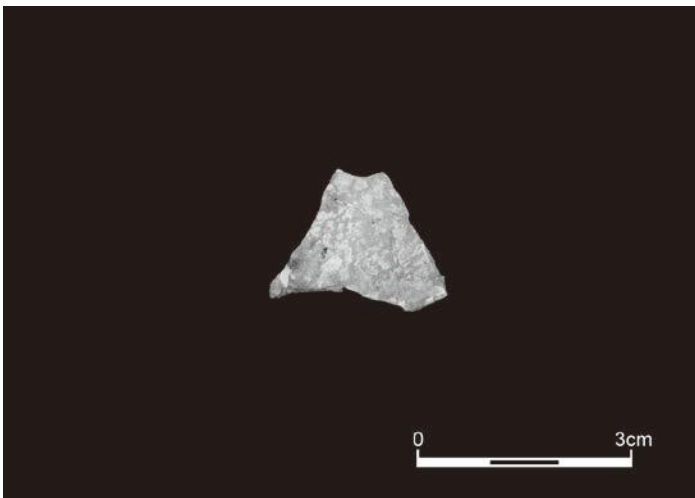
0511-2



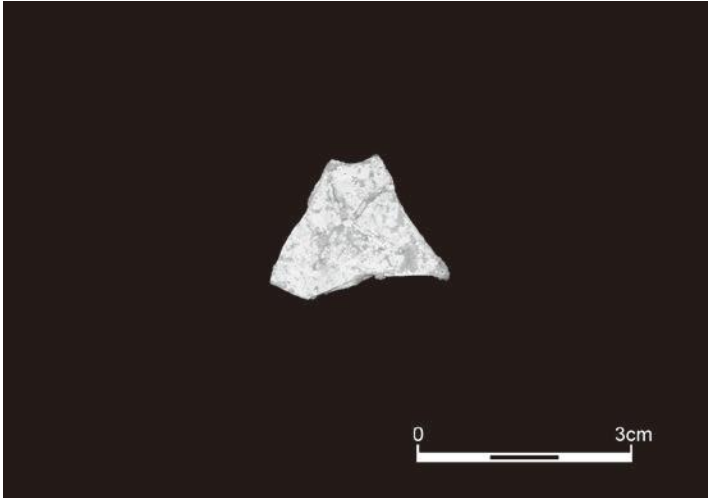
0601-1



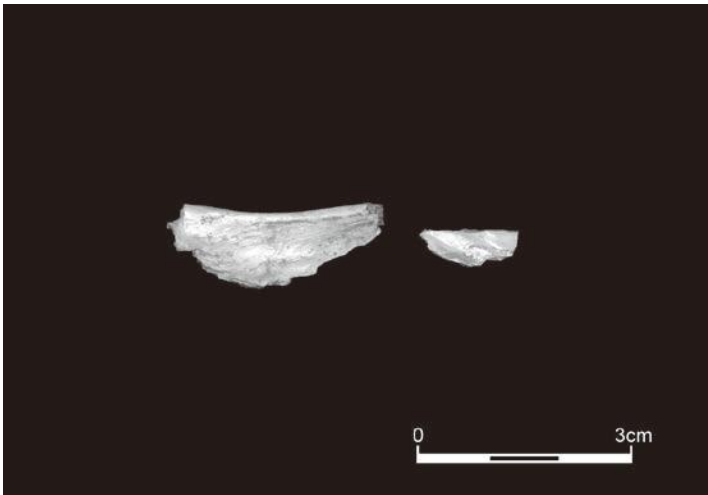
0601-2



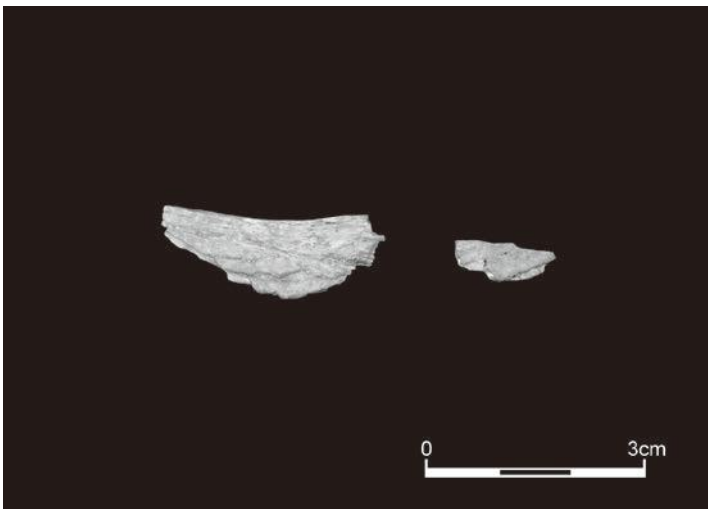
0602-1



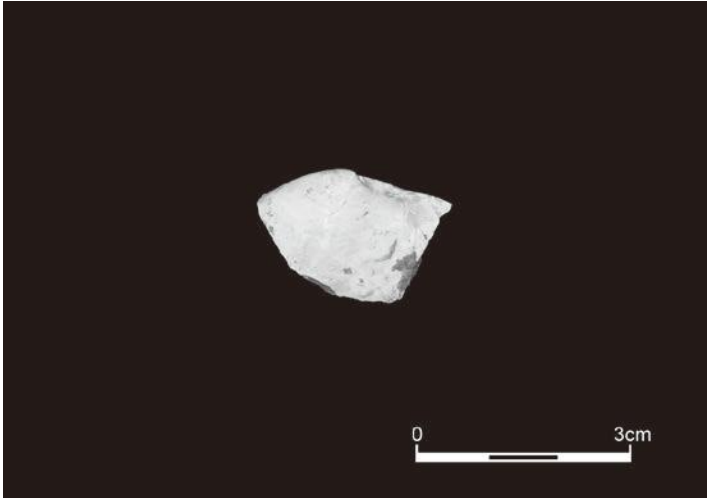
0602-2



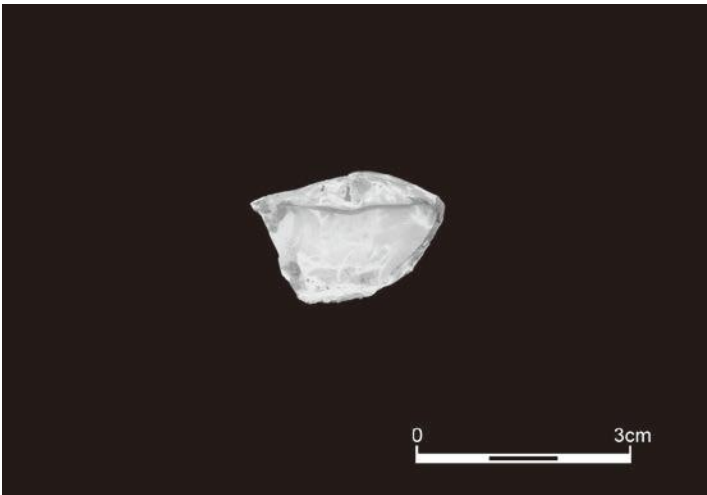
0603-1



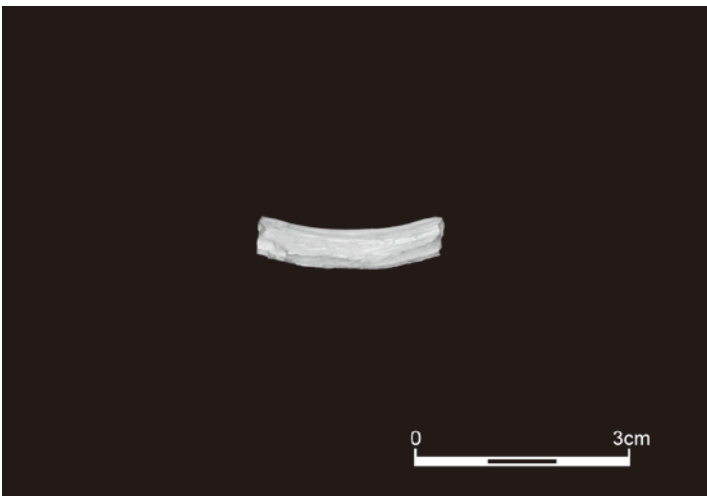
0603-2



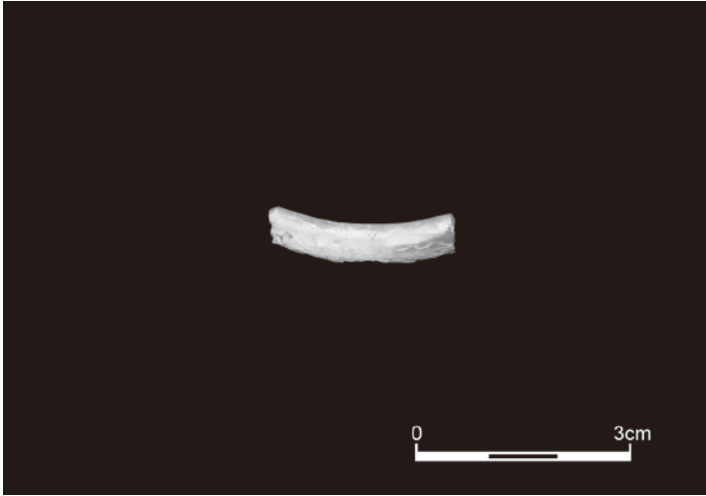
0604-1



0604-2



0605-1



0605-2

II 分析考察編

沖縄県南城市サキタリ洞遺跡出土の大型植物遺体（予報）

松元 美由紀・宮城 ゆりか（パリノ・サーヴェイ株式会社）

はじめに

沖縄県南城市サキタリ洞遺跡の調査区 I は、表土直下に約 30 cm のフローストーン層が全面を覆い、フローストーン層の下位に I 層～III 層が確認されている。フローストーン層は縄文時代の遺物包含層とされ、I 層からは人骨や石英製石器や動物遺骸などが出土している。II 層は炭化物を多く含み、人骨や貝製品（利器やビーズ）、動物遺骸が出土している。III 層は炭化物、カニ、カタツムリ、カワニナを含む。また、放射性炭素年代測定が実施され、フローストーン層は約 11,000～3,000 年前、I 層は約 16,000～14,000 年前、II 層は約 23,000～20,000 年前、III 層は約 37,000～23,000 年前の年代値が得られている（沖縄県立博物館・美術館編,2016）。

本稿は、平成 24 年度（2012）から平成 25 年度（2013）の発掘調査時に採取した土壌を対象に洗い出し（フローテーション）を実施した結果の中間報告で、回収した微細遺物より大型植物遺体の抽出・同定を実施した、現時点における暫定的な結果を紹介する。

1. 試料

試料は、SAK12 I 区の S2 層、S3 層、表土と、SAK13 I 区の TP 東ベルト（表土、1 層、2 層、2 層最下部、2-2 層、3 層上面清掃）、(2-1C 層、2-1C 層上面清掃、2-1B 層北東カド)、K19（壁際清掃、2-1C 層壁際、2-2 層壁際、2-2 層壁際再堆積）、kb202-198(2-2 層)、kb198(2-1C 層)、jf201～204(3 層 0-10)、jf206(3 層)の、合計 53 点の土壌 375.6kg(373.7ℓ)(登録番号 291,292,294～344)のフローテーションより回収された微細遺物の一部で、沈殿部分(HF)の粒径 1mm と浮遊部分 (LF) の粒径 0.5mm を対象としている。

2. 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実や葉などの大型植物遺体を抽出する。同定は、現生標本や中山ほか(2010)、鈴木ほか(2012)等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて、結果を一覧表で示す。また、オキナワジイの果実破片 2 個を対象として、縦横断面の走査型電子顕微鏡観察を試みる。分析後は、試料を分類群別に容器に入れて保管する。

3. 結果

結果を表 1 に示す。また、大型植物遺体各分類群の写真を図版 1、2 に示して同定根拠とする。

53 試料を通じて、裸子植物 1 分類群(マツ属複雑管束亜属)の葉が 3 個と、被子植物 27 分類群(オキナワジイ、ムクノキ、エノキ属、クワ属、イチジク属?、シマサルナシ、アカメガシワ属、トウダイグサ科、ブドウ属(エビヅル?)、ブドウ科、タラノキ?、クサギ?、イネ、オオムギ、

コムギ、スズメノヒエ属、イネ科、ハリイ属(シカクイ類)、アズキ類、マメ科(アズキ類?)、ヒユ属、カタバミ属、オオハマボウ?、ナス属、タイワンソクズ、センダングサ属、キク科)の種実が 4,713 個の、計 4,716 個の大型植物遺体が抽出・同定された。89 個は同定ができなかった。

大型植物遺体の保存状態は、エノキ属の核 2,071 個(完形 23 個、破片 2,048 個)のみ良好で、主にフローテーション沈殿部分(HF)より得られている。他の分類群は概ね不良で、主に浮遊部分(LF)より得られている。マツ属複維管束亜属の葉 3 個、オキナワジイ(?含む)の果実・子葉 2,527 個、ムクノキ(?含む)の核 6 個、シマサルナシの種子 15 個、ブドウ属(エビヅル?)含むブドウ科(?含む)の種子 32 個、クサギ?の核 1 個、イネの胚乳 2 個、オオムギの胚乳 1 個、コムギの胚乳 2 個、アズキ類(?含む)の種子 2 個は、炭化している。クワ属の核 1 個、イチジク属?の果実 1 個、シマサルナシの種子 2 個、タラノキ?の核 1 個、タイワンソクズの核 4 個には、石灰化が認められる。

なお、主に表土や 1 層より確認されたアカメガシワ属、トウダイグサ科や、スズメノヒエ属やイネ科、ハリイ属(シカクイ類)、ヒユ属、カタバミ属、オオハマボウ?、ナス属、センダングサ属、キク科は、種実遺体の保存状態が極めて良好であることから、後代の混入と判断されるため、考察より除外している。

その他の分類群は、木本 11 分類群(マツ属複維管束亜属、オキナワジイ、ムクノキ、エノキ属、クワ属、イチジク属?、シマサルナシ、ブドウ属(エビヅル?)、ブドウ科、タラノキ?、クサギ?)4,668 個、草本 6 分類群(イネ、オオムギ、コムギ、アズキ類、マメ科(アズキ類?)、タイワンソクズ)11 個から成る。圧倒的な木本(エノキ属・オキナワジイ)主体の組成を示し、2 層で多産する。

栽培種は、SAK12 の I 区表土よりイネが 1 個、オオムギが 1 個、コムギが 2 個、栽培の可能性のあるアズキ類(?含む)が 2 個と、SAK13 の I 区 TP ベルト 1 層よりイネが 1 個確認された。

今回最も多くの個数が確認されたオキナワジイの果実に関して、一部を対象に走査型電子顕微鏡観察を試みた結果、オキナワジイに同定される可能性が示唆された。以下、形態的特徴等を述べる。

・オキナワジイ(*Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatusima ex Yamazaki et Mashiba subsp. *lutchuensis* (Koidz.) H Ohba) ブナ科シイ属

果実は、炭化しており黒色を呈す。完形果実は長さ 1.5~2cm、径 1~1.3cm 程度の卵形で頂部は尖り、基部を占める着点は果皮より粗面の円状不定形で、維管束の穴が不規則な輪状に並ぶ。

出土果実に基部は確認されないが、17 個に頂部が確認される。破片は最大 5mm 程度で、果皮表面にはやや深い縦溝が配列し、断面は柵状、内面には別組織で粗面の薄層複数枚(内果皮または種皮)がある。果皮は、厚さ約 300 μ m で、断面は外果皮最外層から 10 μ m に粒状組織の層と、その内面 280 μ m に縦長の柵状の組織がある。縦長柵状組織は縦横断面ともに明瞭に確認される。

沖縄島に分布するブナ科は、シイ属スダジイの地理的亜種であるオキナワジイと、コナラ属ウバメガシ(*Quercus phillyraeoides* A. Gray)、オキナワウラジロガシ(*Q. miyagii* Koidz.)、ウラジロガシ(*Q. salicina* Blume)、アラカシ(*Q. glauca* Thunb. ex Murray)、マテバシイ属マテバシイ(*Lithocarpus edulis* (Makino) Nakai)の 3 属 6 種がある。今回、オキナワジイ、オキナ

ワウラジロガシ、アマミアラカシ(*Q. glauca* var. *amamiana* Hatusima)、マテバシイの現生標本を対象として、400°C2時間加熱後の炭化果皮断面を走査型電子顕微鏡で観察・比較した結果、出土果皮断面は、柵状組織が最も厚く縦長で、縦横断面ともに明瞭に確認される点でオキナワジイに似ることが明らかとなった(図版2)。以上のことから、出土果実はオキナワジイである可能性が高く、疑問符を付した微細片もオキナワジイと考えられる。

4.考察

サキタリ洞遺跡出土大型植物遺体群は、木本11分類群(針葉樹のマツ属複維管束亜属、広葉樹のオキナワジイ、ムクノキ、エノキ属、クワ属、イチジク属?、シマサルナシ、ブドウ属(エビヅル?)、ブドウ科、タラノキ?、クサギ?)、草本6分類群(イネ、オオムギ、コムギ、アズキ類、マメ科(アズキ類?)、タイワンソクズ)から成り、圧倒的な木本(エノキ属・オキナワジイ)主体の組成を示した。

栽培種は、SAK12のI区表土およびSAK13のI区TPベルト1層よりイネ、SAK12のI区表土よりオオムギ、コムギと、栽培の可能性のあるアズキ類(?含む)が確認された。これらの炭化穀類・豆類は、グスク時代以降に由来する可能性がある。

大型植物遺体群の大半を占めるエノキ属とオキナワジイのうち、エノキ属は、現在の沖縄島に分布する落葉小高木のコバノチョウセンエノキ(サキシマエノキ)(*C. biondii* Pampan.)と、落葉高木のクワノハエノキ(*C. boninensis* Koidz.)に由来する可能性がある。エノキ属は、2012年度の調査区Iの後期更新世層(約2万3千年前)においても、核が66個同定され、骨質の核が石灰岩地帯の洞穴で保存されやすいことと、さらに人為的に利用されていた可能性が指摘されている(佐々木・バンダリ,2016)。

オキナワジイは、現在の沖縄島北部の非石灰岩地域に分布する常緑広葉樹林(照葉樹林)の主要構成種である。沖縄島南部の石灰岩地帯に位置するサキタリ洞遺跡より出土したオキナワジイの炭化果実は、当時の周辺にオキナワジイが生育していたことを示唆する貴重な考古資料と言え、沖縄島の植生変遷史を検討する上で重要である。また、オキナワジイは、果実内部の子葉が生食可能である。出土したオキナワジイの炭化果皮片や子葉は、サキタリ洞遺跡周辺から持ち込まれた植物質食料残滓の可能性があり、人為的行為により火を受け炭化したと推測される。今後、炭化果皮・子葉を対象とした放射性炭素年代測定の実施が望まれる。

その他、葉が確認された常緑高木のマツ属複維管束亜属は、現在の沖縄島に分布するリュウキュウマツ(*Pinus luchuensis* Mayr)に由来する可能性がある。種実が確認された落葉高木のムクノキ、クワ属、常緑または落葉の高木～低木のイチジク属?、落葉低木のタラノキ?、クサギ?、落葉籐本のシマサルナシ、ブドウ属(エビヅル?)、ブドウ科、多年草のタイワンソクズは、周辺の森林やその林縁等に生育していたと考えられる。なお、ムクノキ、クワ属、シマサルナシ、ブドウ属(エビヅル?)は果実が食用可能である。今回の出土種実に人が利用した痕跡は確認されないが、共伴するオキナワジイ・エノキ属や、多くの動物遺体と共に利用された可能性は十分に考えられる。

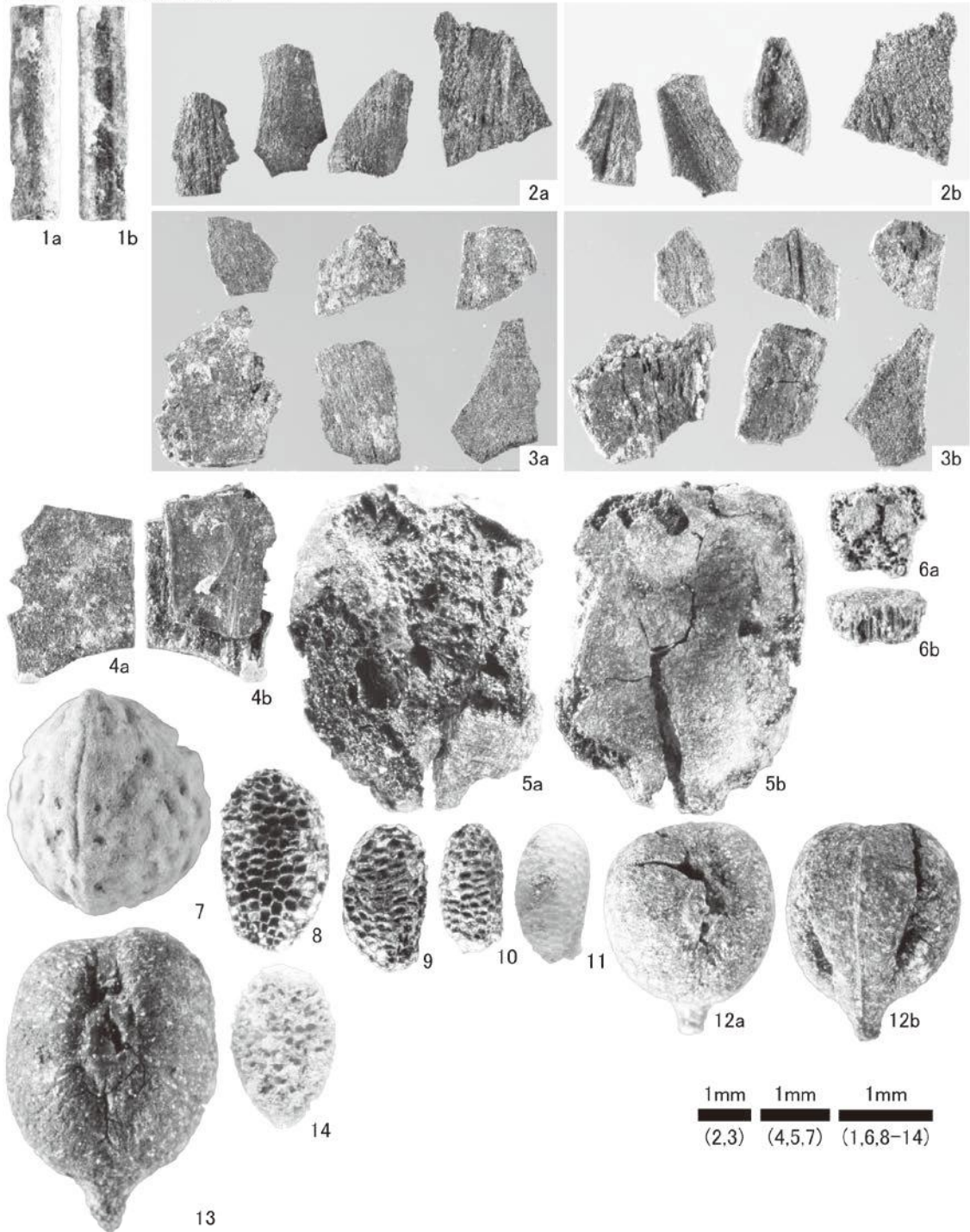
引用文献

中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2010,日本植物種子図鑑(2010年改訂版).東北大学出版会,678p.

表1. 大型植物遺体同定結果(2)

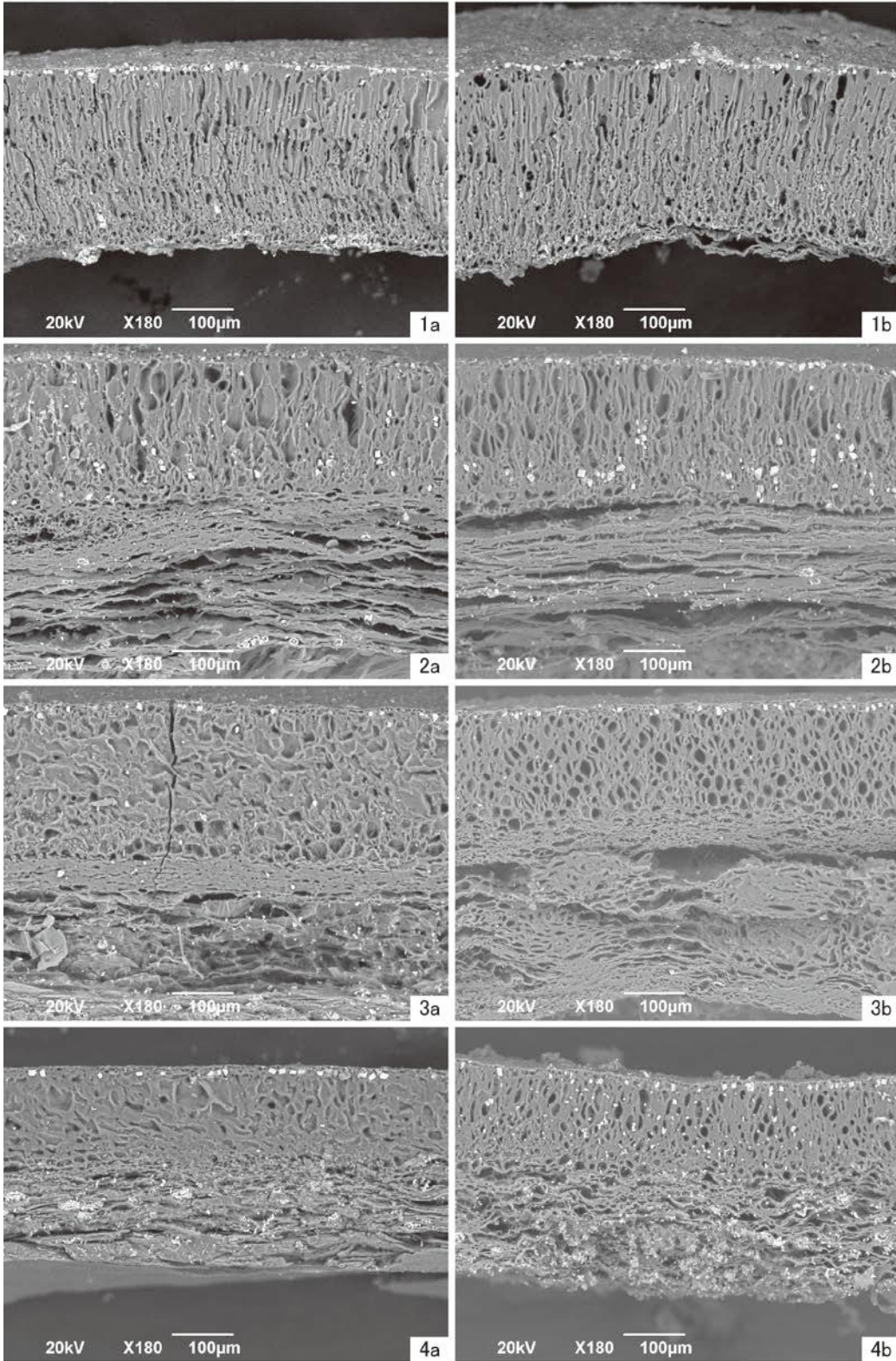
分類群			遺跡名・地区/グリッド/層位/登録番号											合計	
			SAK13 I 区												
			K19				kb202-198	kb198	jf201	jf202	jf203	jf204	jf206		
			壁際 清掃	2-1C層 壁際	2-2層 壁際	2-2層 壁際 再堆積	2-2層	2-1C層	3層 0-10				3層		
332	333-334	335	336	337	338-339	340	341	342	343	344					
木本															
マツ属複維管束亜属	炭化葉	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
オキナワジイ	炭化果実・子葉	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3 (個)	
	炭化果実(頂部)	破片	-	-	2	-	1	1	-	-	-	-	-	2 (個)	
	炭化果実	破片	-	10	2	-	7	14	-	1	-	-	-	17 (個)	
オキナワジイ?	炭化果実	破片	7	47	59	28	109	102	8	12	18	9	-	192 (個)	
	炭化子葉	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2315 (個)	
ムクノキ	炭化核	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
ムクノキ?	炭化核	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
エノキ属	核	完形	-	-	2	-	1	6	-	-	-	-	-	5 (個)	
		破片	2	30	149	14	101	152	-	-	2	-	-	23 (個)	
クワ属	核	完形	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2048 (個)	
イチジク属?	果実?	完形	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 (個)	
シマサルナン	炭化種子	完形	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1 (個)	
		破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10 (個)	
	種子	完形	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5 (個)	
		破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8 (個)	
アカメガシワ属	種子	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
トウダイグサ科	種子	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
ブドウ属(エビヅル?)	炭化種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3 (個)	
	炭化種子(背面)	破片	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2 (個)	
ブドウ属?	炭化種子	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14 (個)	
ブドウ科	炭化種子(腹面)	破片	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	2 (個)	
ブドウ科?	炭化種子	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12 (個)	
タラノキ?	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 (個)	
クサギ?	炭化核	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
草本															
イネ	炭化胚乳	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 (個)	
オオムギ	炭化胚乳	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
コムギ	炭化胚乳	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
		破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
スズメノヒエ属	果実	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
イネ科	果実	完形	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1 (個)	
		破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 (個)	
ハリイ属(シカクイ類)	果実	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
アズキ類	炭化種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
マメ科(アズキ類?)	炭化種子	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
ヒユ属	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
カタバミ属	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4 (個)	
オオハマボウ?	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 (個)	
ナス属	種子	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17 (個)	
タイワンソクズ	核	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3 (個)	
	核(腹面)	破片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
センダングサ属	果実	完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (個)	
キク科	果実	完形	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3 (個)	
不明															
不明	炭化種実?		-	-	-	-	-	4	-	-	1	-	-	77 (個)	
不明	種実?		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12 (個)	
合計															
木本葉・種実			9	91	215	43	221	276	8	13	20	9	2	4672 (個)	
草本種実			0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	44 (個)	
不明			0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	89 (個)	
合計(不明を除く)			9	93	215	43	221	276	9	13	20	9	2	4716 (個)	
土壌水洗量															
			1.3	20.4	2.8	2.6	5.2	5.8	4.9	3.4	3.4	6.8	6.2	375.6 (kg)	
			1.6	20.0	3.4	2.8	5.2	6.2	5.0	3.1	3.3	6.0	6.0	373.7 (kg)	

図版1 大型植物遺体(1)



- | | |
|---|---|
| 1 . マツ属複維管束亜属 葉(SAK13 I区TP東ベルト1層:303) | 2 . オキナワジイ? 果皮(SAK13 I区TP東ベルト2層:317) |
| 3 . オキナワジイ? 果皮(SAK13 I区TP東ベルト1層:308) | 4 . オキナワジイ? 果皮(SAK13 I区TP東ベルト1層:308) |
| 5 . オキナワジイ? 子葉(SAK13 I区TP東ベルト2層:320) | 6 . ムクノキ 核(SAK13 I区TP東ベルト2層:312) |
| 7 . エノキ属 核(SAK13 I区TP東ベルト1層:306) | 8 . シマサルナシ 種子(SAK13 I区TP東ベルト2層最下部:323) |
| 9 . シマサルナシ 種子(SAK13 I区K19 2-2層壁際再堆積:336) | 10 . シマサルナシ 種子(SAK13 I区TP東ベルト1層:309) |
| 11 . シマサルナシ 種子(SAK13 I区TP東ベルト2層:317) | 12 . ブドウ属(エビヅル?) 種子(SAK13 I区TP東ベルト1層:301) |
| 13 . ブドウ属(エビヅル?) 種子(SAK13 I区TP東ベルト2層:320) | 14 . タイワンソクズ 核(SAK13 I区TP東ベルト1層:303) |

図版2 大型植物遺体(2)・現生標本








1. オキナワジイ? 果皮(SAK13 I 区jf206 3層;344)
 2. オキナワジイ 果皮(名護市産現生標本;大山盛弘氏提供/400°C2時間加熱)
 3. オキナワウラジロガン 果皮(名護市産現生標本;大山盛弘氏提供/400°C2時間加熱)
 4. アマミアラカン 果皮(今帰仁村産現生標本;大山盛弘氏提供/400°C2時間加熱)
- (a:縦断面、b:横断面、上:外面、下:内面)

沖縄県南城市
サキタリ洞遺跡発掘調査概要報告書 IV

平成29年3月10日発行
編集・発行：沖縄県立博物館・美術館
〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
電話 098-941-8200（代表）
FAX 098-941-3530（代表）

印刷 (株)インディボンドネットワークス

暦年較正年代 Date	¹⁴ C年代 BP	沖縄の人骨化石と土器文化 Human bone and pottery culture in Okinawa	サキタリ洞遺跡 Sakitari-do cave site	日本 Japan	地質年代
36000年前	32000BP	山下町第一洞穴人 Yamashita-cho		旧石器	更新世
30000年前	26000BP		人骨 human bone 		
23000年前	19000BP		貝器と人骨 Shell tools and human bones	新石器	更新世
22000年前	18000BP	港川人 Minatogawa 			
20000年前	16000BP			縄文	11700年前 Holocene
15000年前	13000BP	空白の時代 Blank period of human history	石英製石器と人骨 Stone artifacts and human bones		
14000年前	12000BP			縄文	11700年前 Holocene
11000年前	10000BP				
10000年前	9000BP			縄文	11700年前 Holocene
9000年前	8000BP		押引文土器 Oshibiki-mon pottery		
8000年前	7000BP	無文土器? Plain pottery?		縄文	11700年前 Holocene
7000年前	6000BP	南島爪形文土器 Tsumegata-mon pottery 